

第七章 人権への配慮について

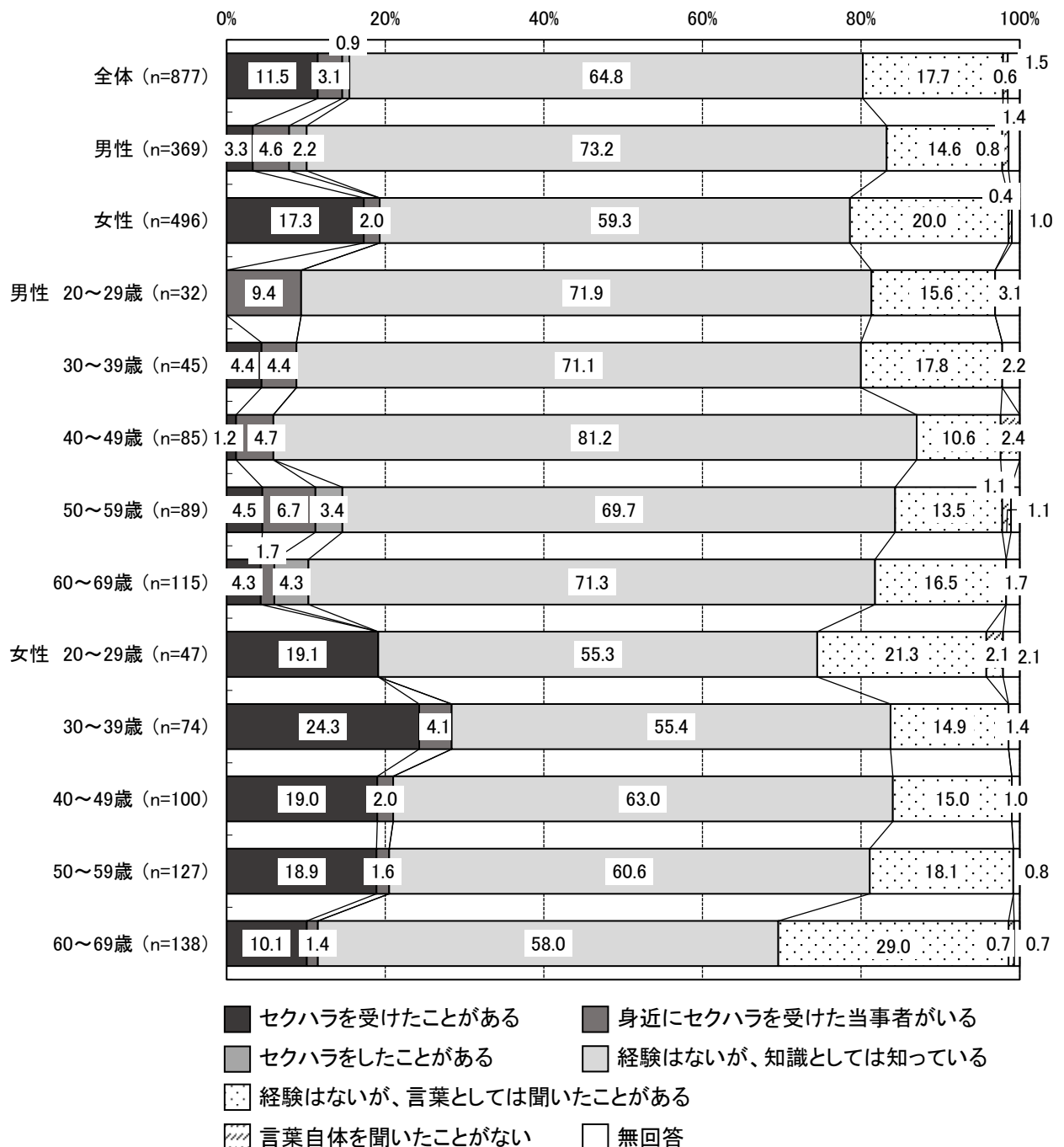
1. セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）の経験【問18、問18-2】

(1) 性別・年齢別

全体では「経験はないが知識として知っている」が64.8%と最も高く、次いで「経験はないが言葉としては聞いたことがある」が17.7%、「セクハラを受けたことがある」が11.5%の順となっている。

性別で見ると、「セクハラを受けたことがある」男性は3.3%である一方、女性は17.3%を占めている。また、女性はいずれの年代においても、「セクハラを受けたことがある」と回答している。

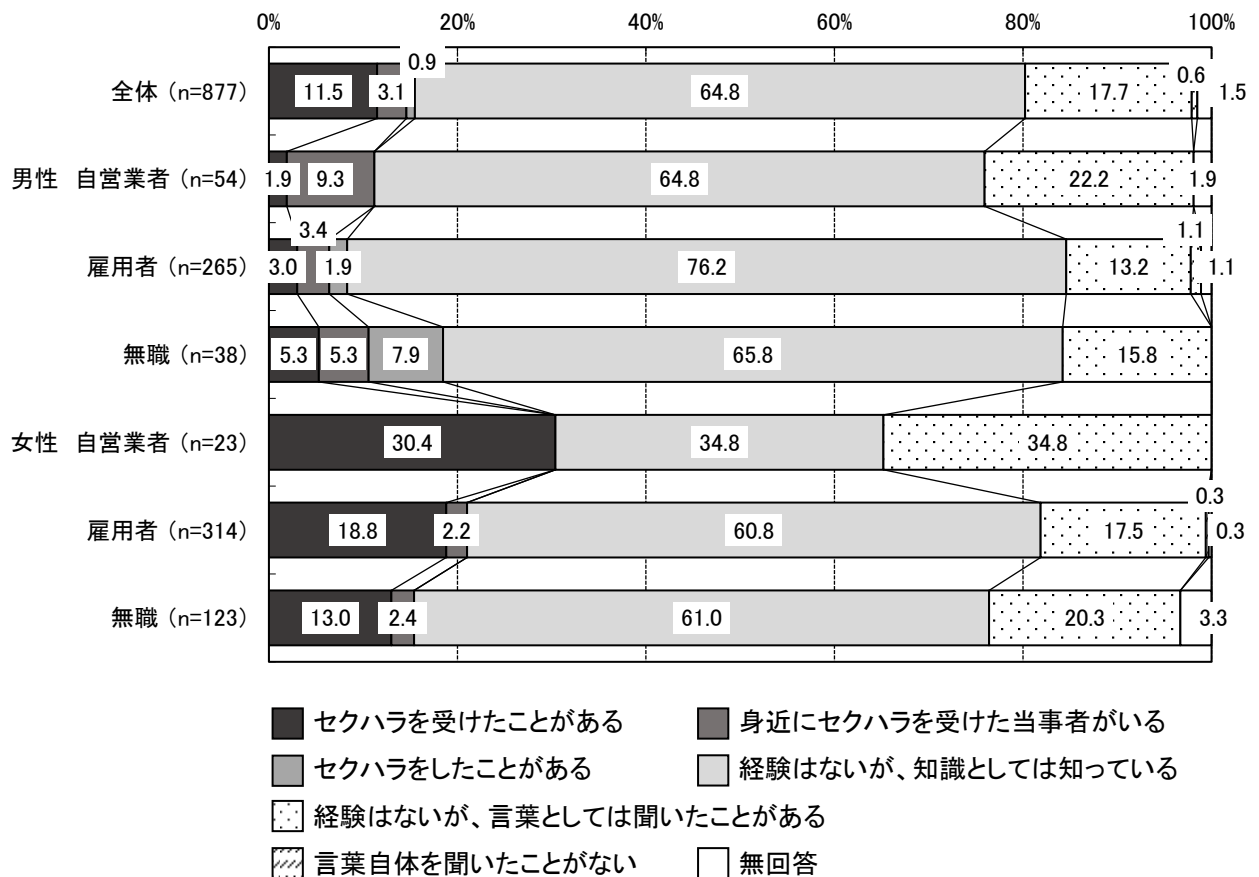
【図表 7-1-1】セクハラ経験（性別・年齢別）《SA》



(2) 性別・職業別

職業別で見ると、男性では、「経験はないが、知識としては知っている」で雇用者が76.2%と最も多くなっている。女性では無職が61.0%、雇用者で60.8%と比較的高くなっている。「セクハラを受けたことがある」、「身近にセクハラを受けた当事者がいる」の合計で女性は、自営業者30.4%、雇用者21.0%、無職15.4%の順に多く、セクハラに関して何らかの経験のある割合は女性のほうが男性よりも高い傾向がある。

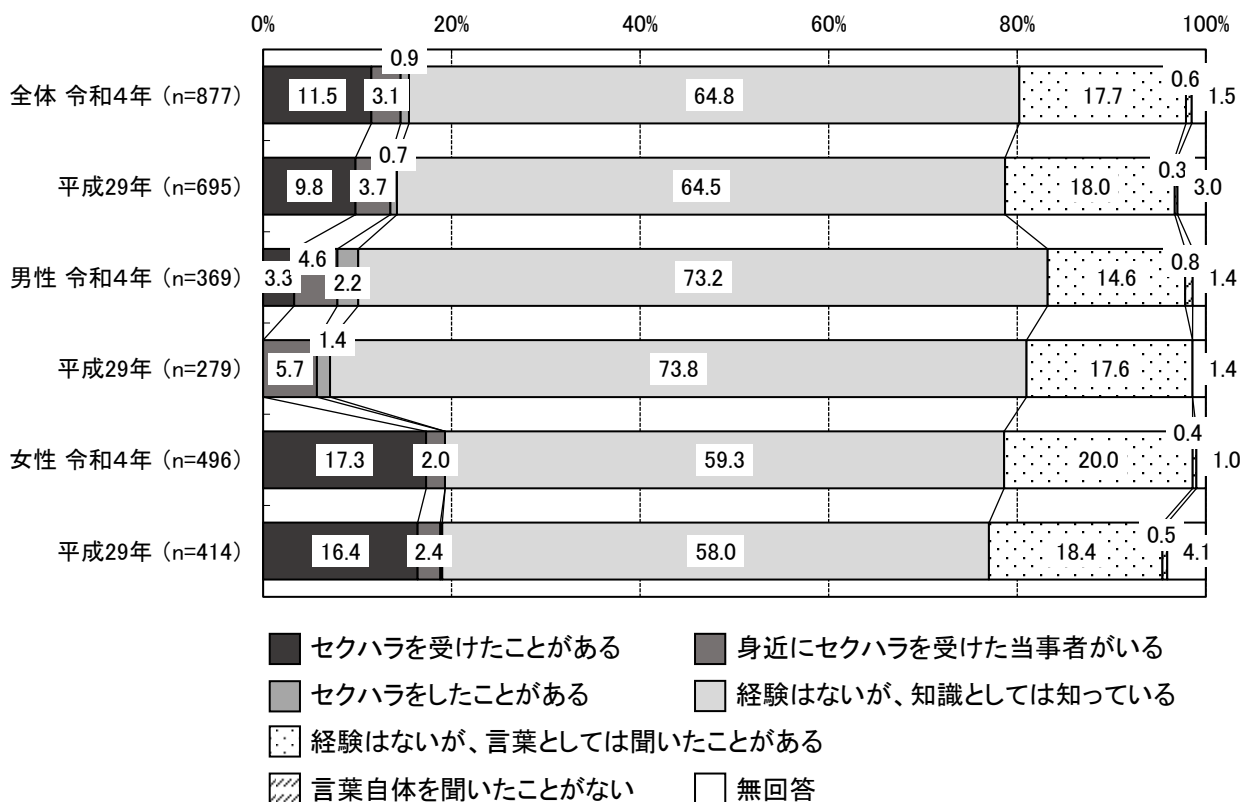
[図表 7-1-2] セクハラの経験（性別・職業別）《S A》



(3) 前回調査との比較

前回の調査と比較すると、全体と女性では大きな変化は見られないが、男性では「セクハラを受けたことがある」男性は0%から3.3%と3.3ポイント増加している。

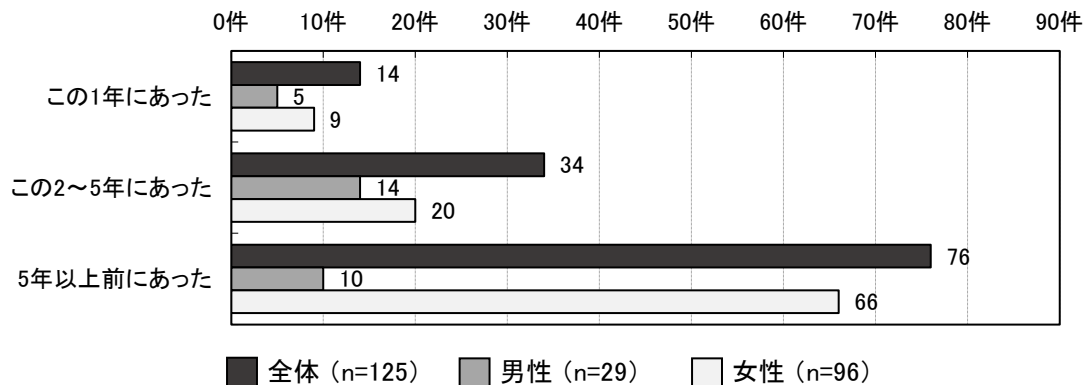
[図表 7-1-3] セクハラの実験 (前回調査との比較) << S A >>



(4) セクハラを受けたのはいつ頃か

「セクハラを受けたことがある」、「身近にセクハラを受けた当事者がいる」と回答した人のうち、「5年以上前にあった」が全体では76件と最も多く、次いで「この2～5年にあった」が34件、「この1年にあった」が14件の順となっている。性別で見ると、女性では「5年以上前にあった」が66件と最も多く、男性では「この2～5年にあった」が14件と最も多くなっている。

[図表 7-1-4] セクハラを受けたのはいつ頃か (性別) << M A >>



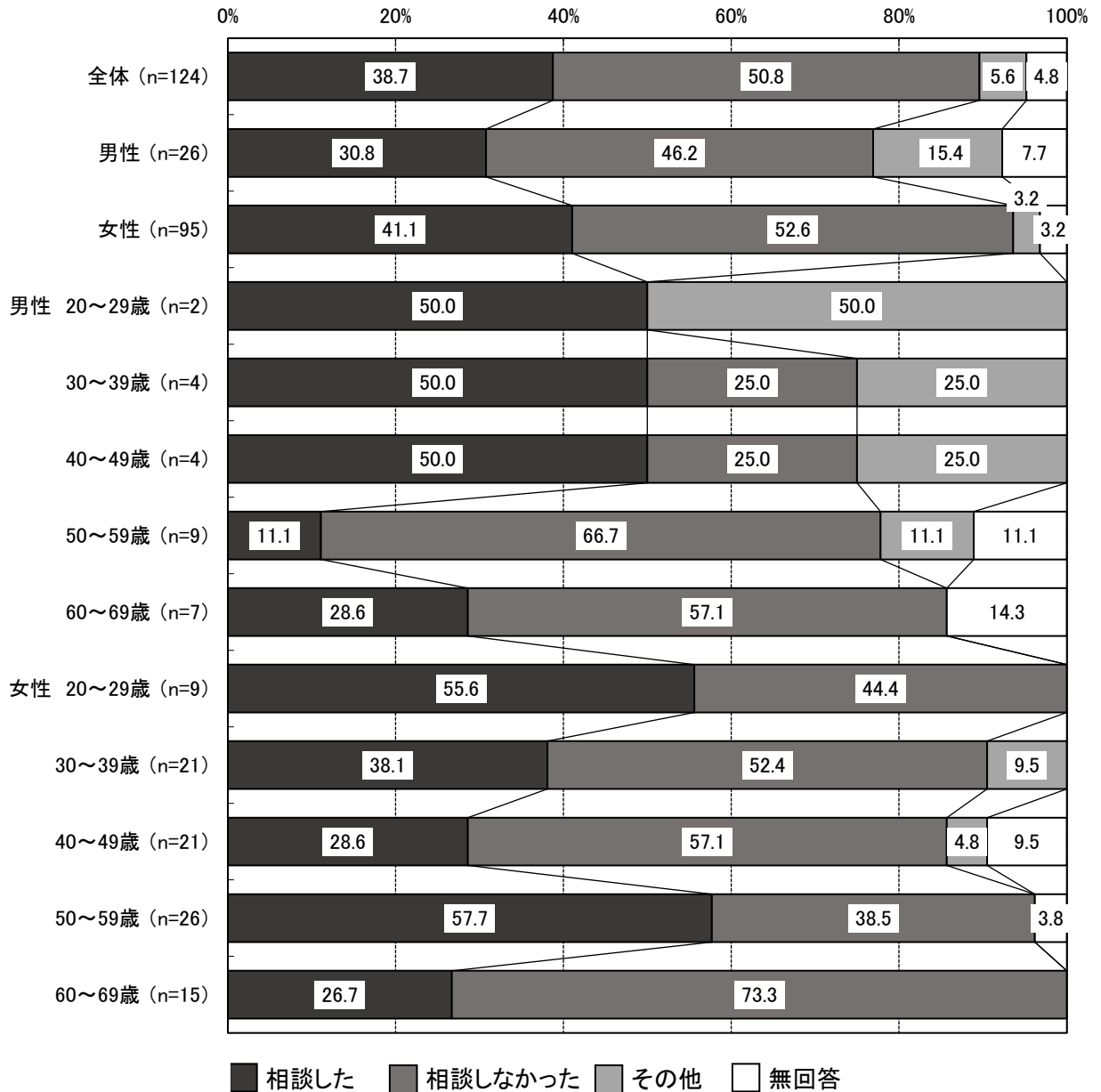
2. 「セクハラを受けた」または「身近にセクハラを受けた当事者がいる」ときの相談先

【問18-3、問18-4、問18-5】

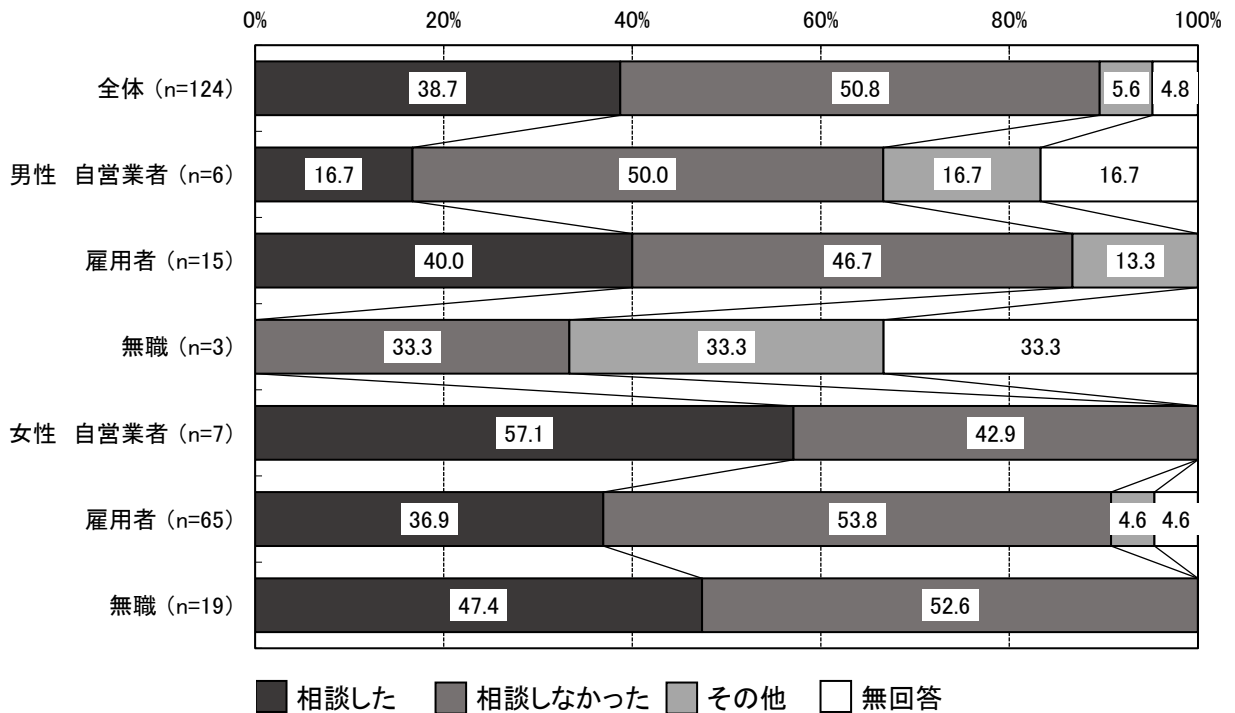
(1) 相談したかどうか

【問18】で「セクハラを受けたことがある」、「身近にセクハラを受けた当事者がいる」と回答した人のうち、「相談しなかった」は男性で46.2%、女性では52.6%となっている。

〔図表 7-2-1〕 セクハラを受けたときに誰かに相談したか（性別・年齢別）《S A》



[図表 7-2-2] セクハラを受けたときに誰かに相談したか（性別・職業別）≪S A≫



(2) 相談した場合の主な相談先

「知人・友人」が20件で最も多く、次いで「家族や親戚」が19件、「会社や所属する組織の相談窓口」が17件、「医療関係者」が3件となっている。

[図表 7-2-3] セクハラを受けたときの相談先≪M A≫

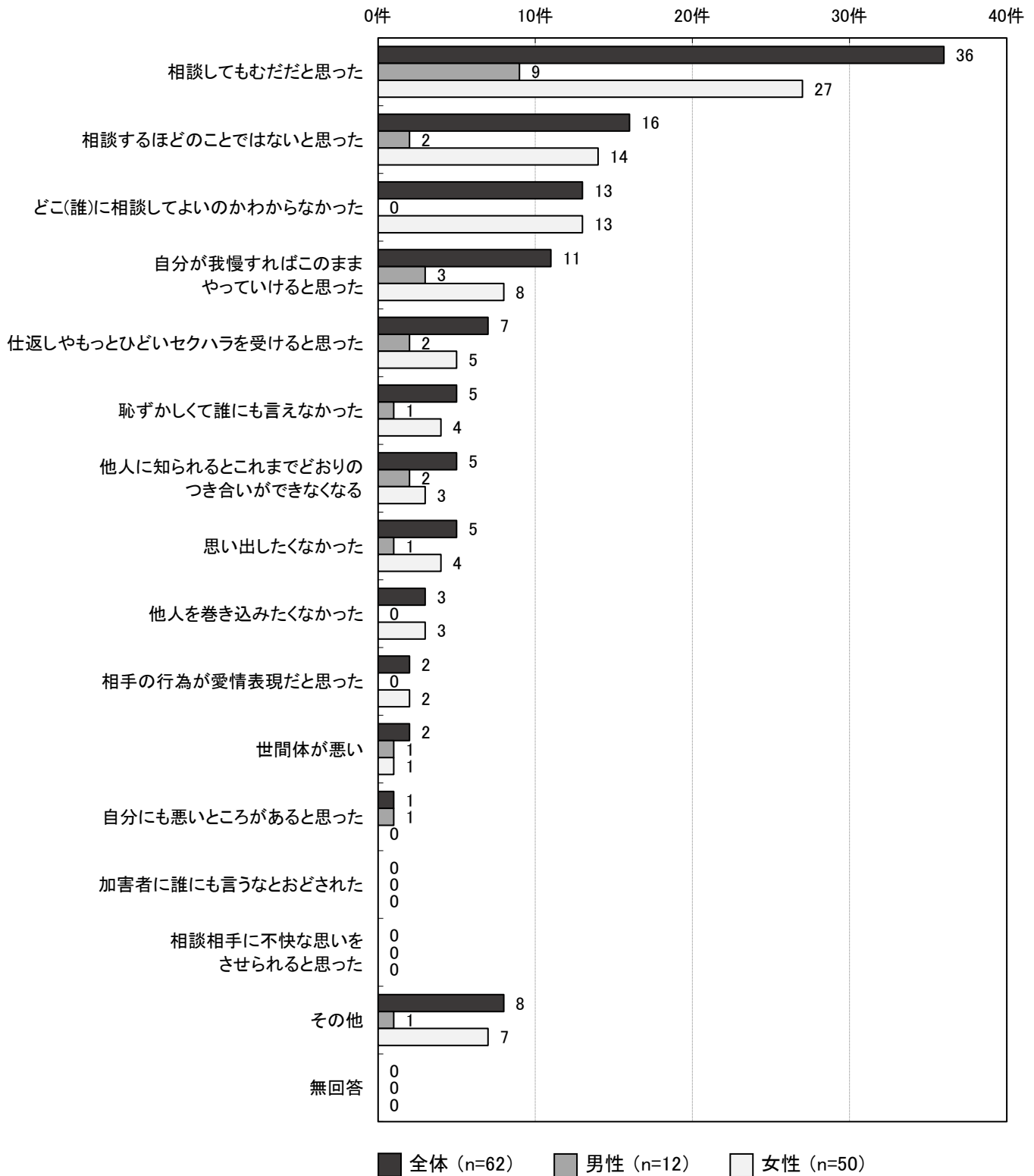
相談先	件数
知人・友人	20件
家族や親戚	19件
会社や所属する組織の相談窓口	17件
医療関係者	3件
公的機関(労働局、市町村など)	2件

相談先	件数
弁護士、カウンセラー等	2件
配偶者暴力相談支援センター	1件
男女共同参画のための施設	1件
警察	1件
ワンストップ支援センター	1件

(3) 相談しなかった理由

全体では「相談してもむだだと思った」が36件で最も多く、次いで「相談するほどのことではないと思った」が16件、「どこ(誰)に相談してよいのかわからなかった」が13件、「自分が我慢すればこのままやっていけると思った」が11件、「仕返しやもっとひどいセクハラを受けると思った」が7件の順となっている。

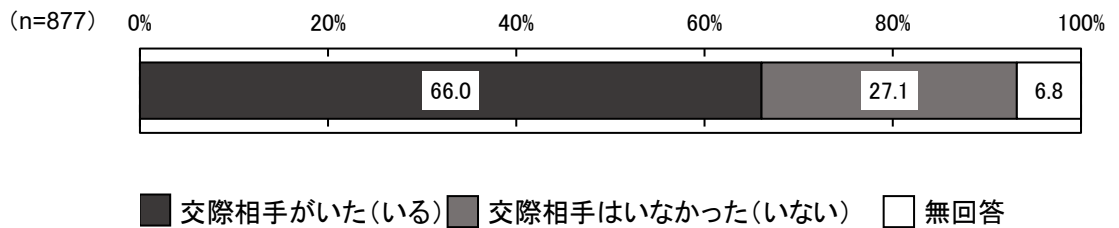
〔図表 7-2-4〕 セクハラを受けたときに相談しなかった理由（性別）《M A》



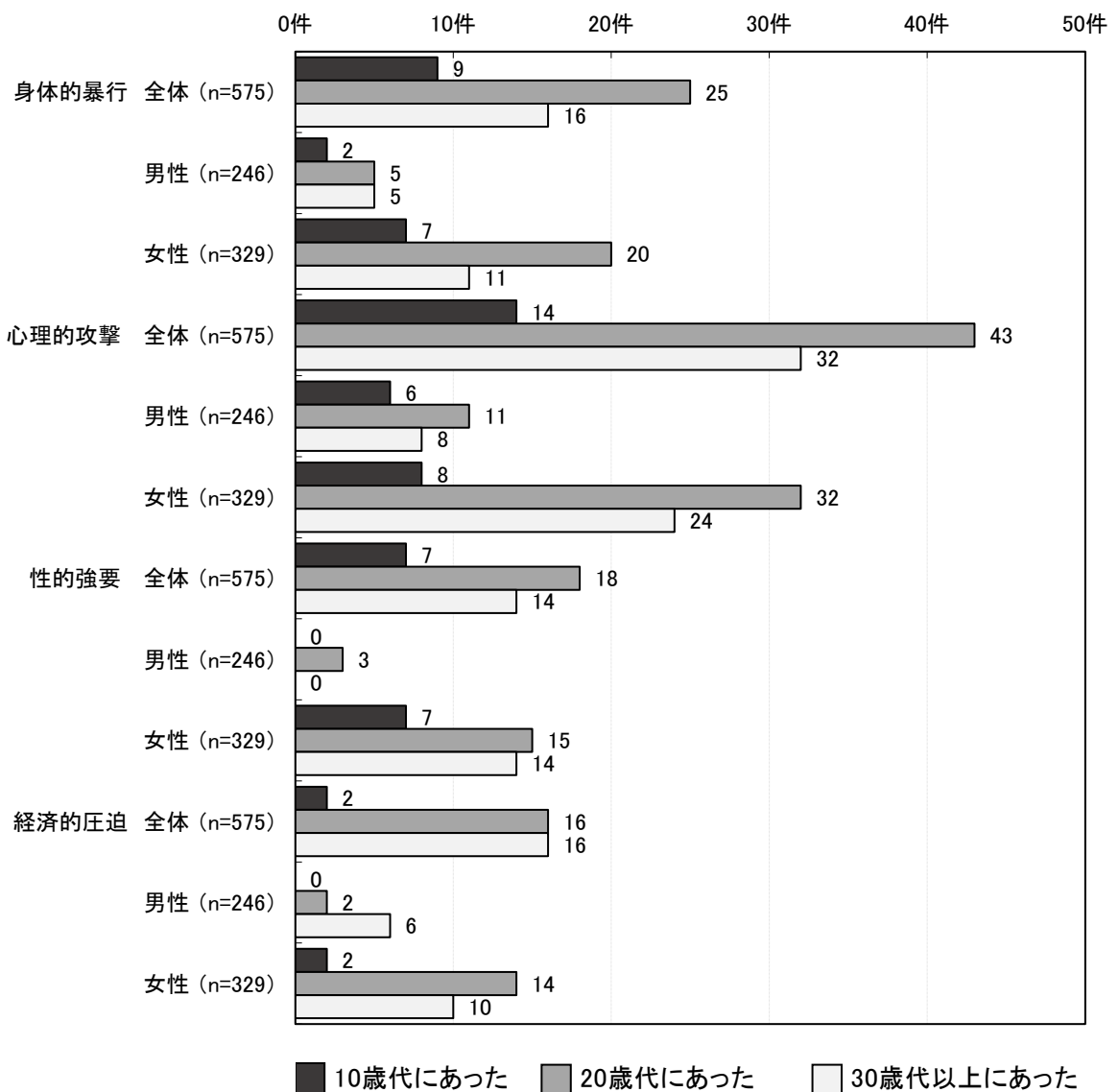
3. 交際相手から暴力を受けた経験【問19、問19-2】

配偶者となった相手以外に「交際相手がいいた」は 66.0%であった。「交際相手がいいた」と回答した人のうち、交際相手から暴力を受けた経験を性別でみると、『あった』（「10 歳代にあった」、「20 歳代にあった」、「30 歳代以上にあった」の合計）は、身体的暴行では男性で 12 件、女性で 38 件、心理的攻撃では男性で 25 件、女性で 64 件、性的強要では男性で 3 件、女性で 36 件、経済的圧迫では、男性で 8 件、女性で 26 件となっている。女性では、10 歳代を含め全ての年代で交際相手から暴力を受けた経験が『あった』と回答している。

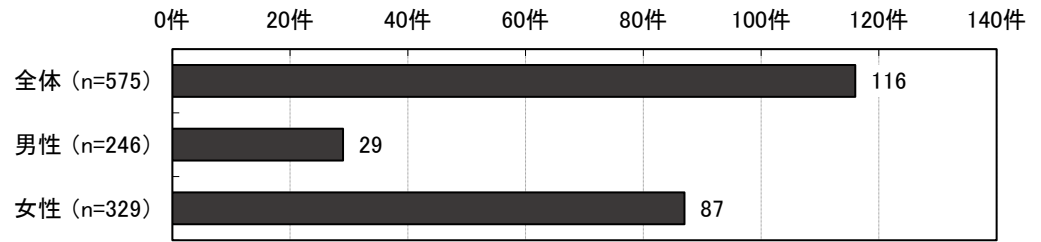
【図表 7-3-1】 交際相手の有無（配偶者となった相手以外）《SA》



【図表 7-3-2】 交際相手から暴力を受けた経験（性別）《MA》



[図表 7-3-3] 交際相手からいずれかの暴力を1つでも受けた経験（性別）≪S A≫



4. 交際相手から暴力を受けたときの相談先【問19-3、問19-4、問19-5】

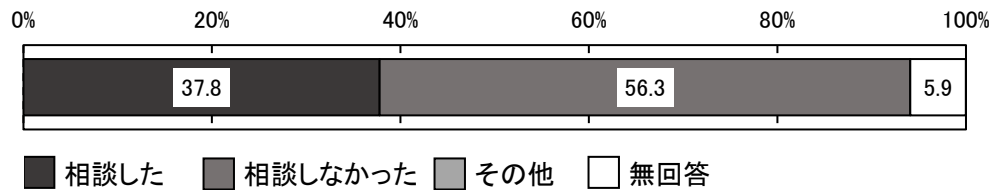
【問19-2】で『あった』と回答した人のうち、「相談した」は37.8%、「相談しなかった」は56.3%であった。

相談した場合の相談先では、「知人・友人」が30件で最も多く、次いで「家族や親戚」が24件となっている。

相談しなかった理由では「相談してもむだだと思った」が27件で最も多く、次いで「自分が我慢すればこのままやっていけると思った」が17件、「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかった」、「相談するほどのことではないと思った」が共に16件、「恥ずかしくて誰にも言えなかった」、「自分にも悪いところがあると思った」が共に15件の順となっている。

【図表 7-4-1】 交際相手から暴力を受けたときに誰かに相談したか« S A »

(n=119)



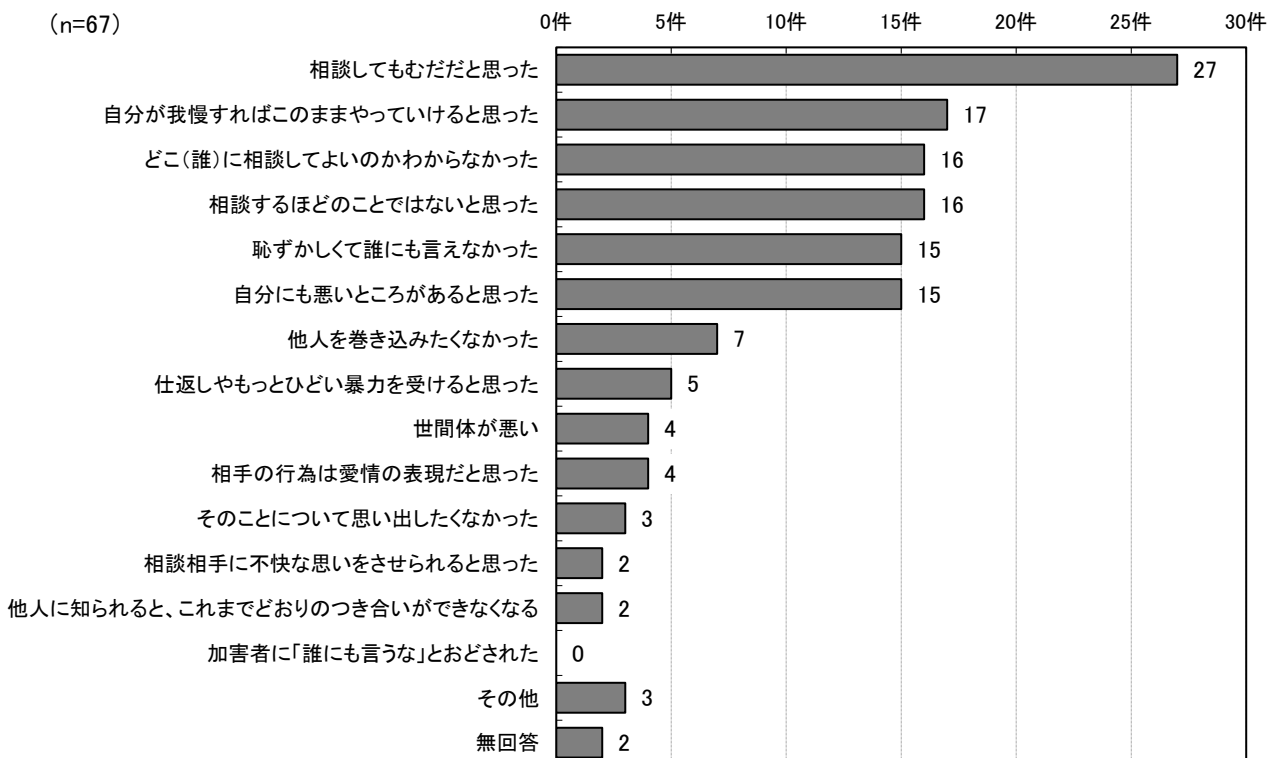
【図表 7-4-2】 交際相手から暴力を受けたときの相談先« M A »

相談先	件数
知人・友人	30件
家族や親戚	24件
弁護士、カウンセラー等	6件
配偶者暴力相談支援センター	3件
警察	3件

相談先	件数
男女共同参画のための施設	2件
公的機関(市町村など)	2件
ワンストップ支援センター	1件
医療関係者	1件

【図表 7-4-3】 交際相手から暴力を受けたときに相談しなかった理由« M A »

(n=67)



5. ドメスティック・バイオレンス（DV）の経験【問20】

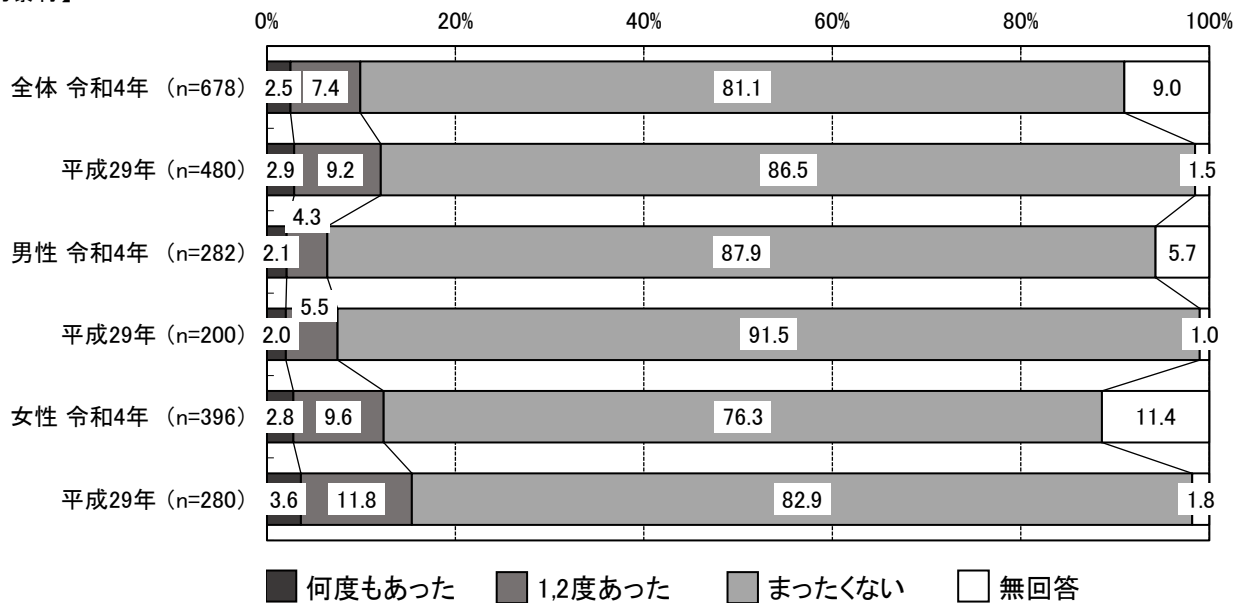
（1）全体

基本属性で、配偶者について「配偶者あり」、「配偶者と離別」、「配偶者と死別」と回答した人に、配偶者からDVを受けた経験を尋ねたところ、『あった』（「何度もあった」、「1,2度あった」の合計）は、身体的暴行では9.9%、心理的攻撃では12.7%、性的強要では5.3%、経済的圧迫では4.6%となっている。

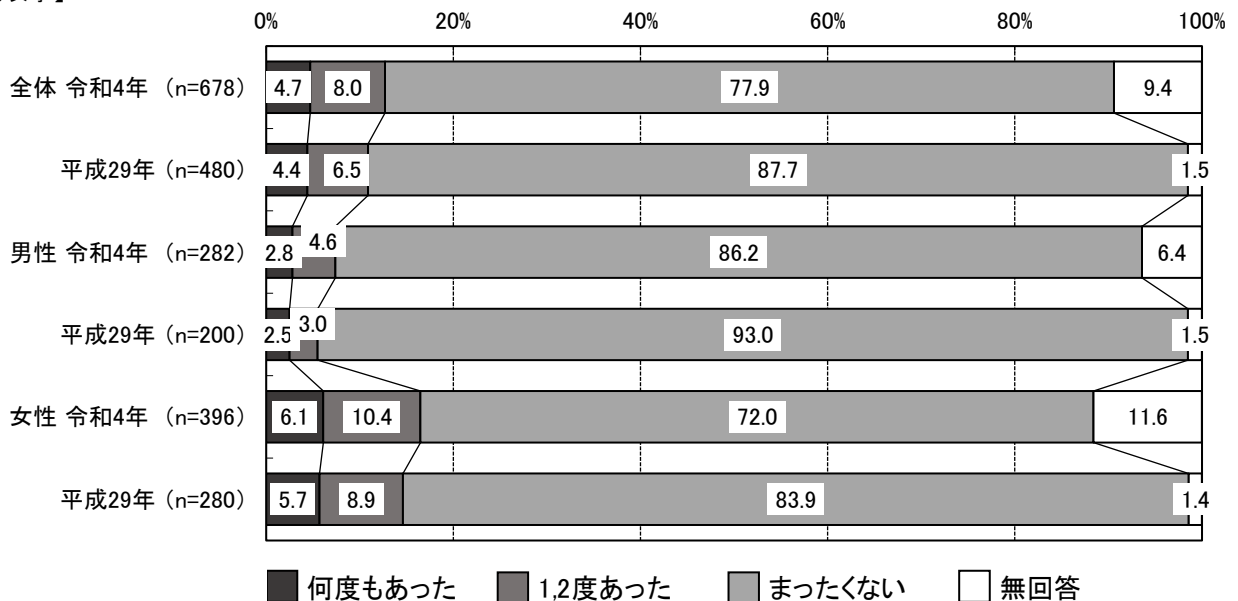
性別でみると、身体的暴行、心理的攻撃、性的強要、経済的圧迫を受けた経験はいずれも女性の割合が高い。

〔図表 7-5-1〕 暴力を受けた経験（性別・前回調査との比較）《S A》

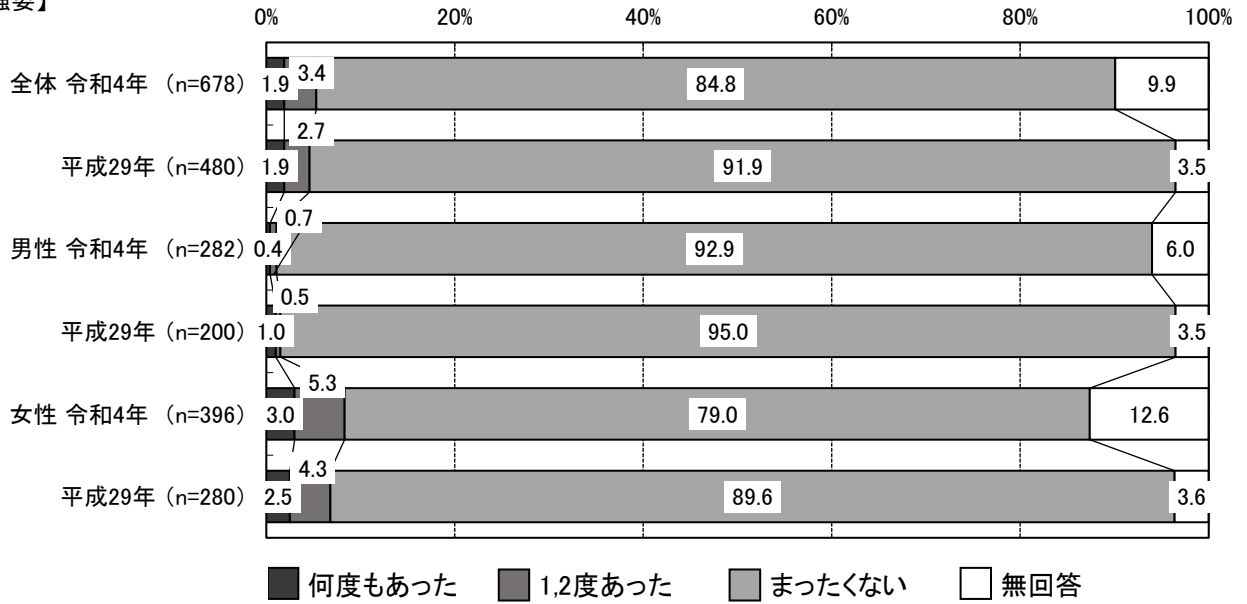
【身体的暴行】



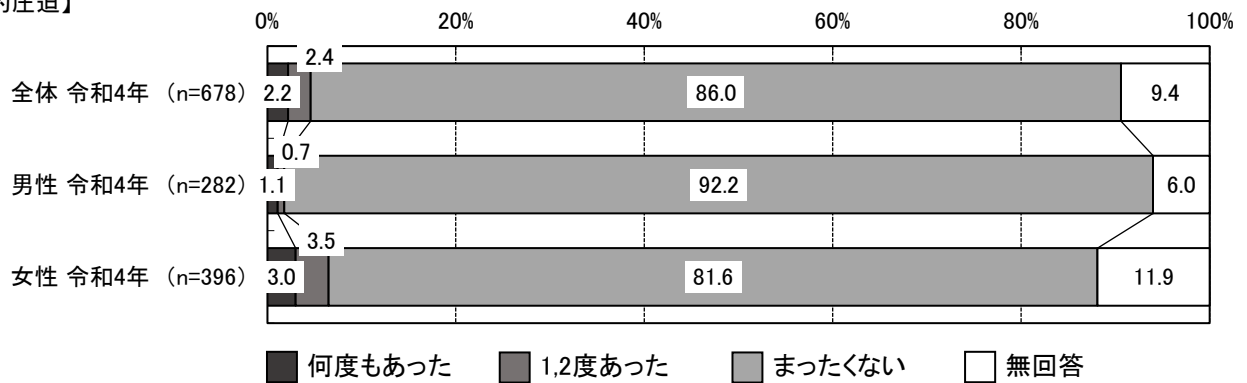
【心理的攻撃】



【性的強要】

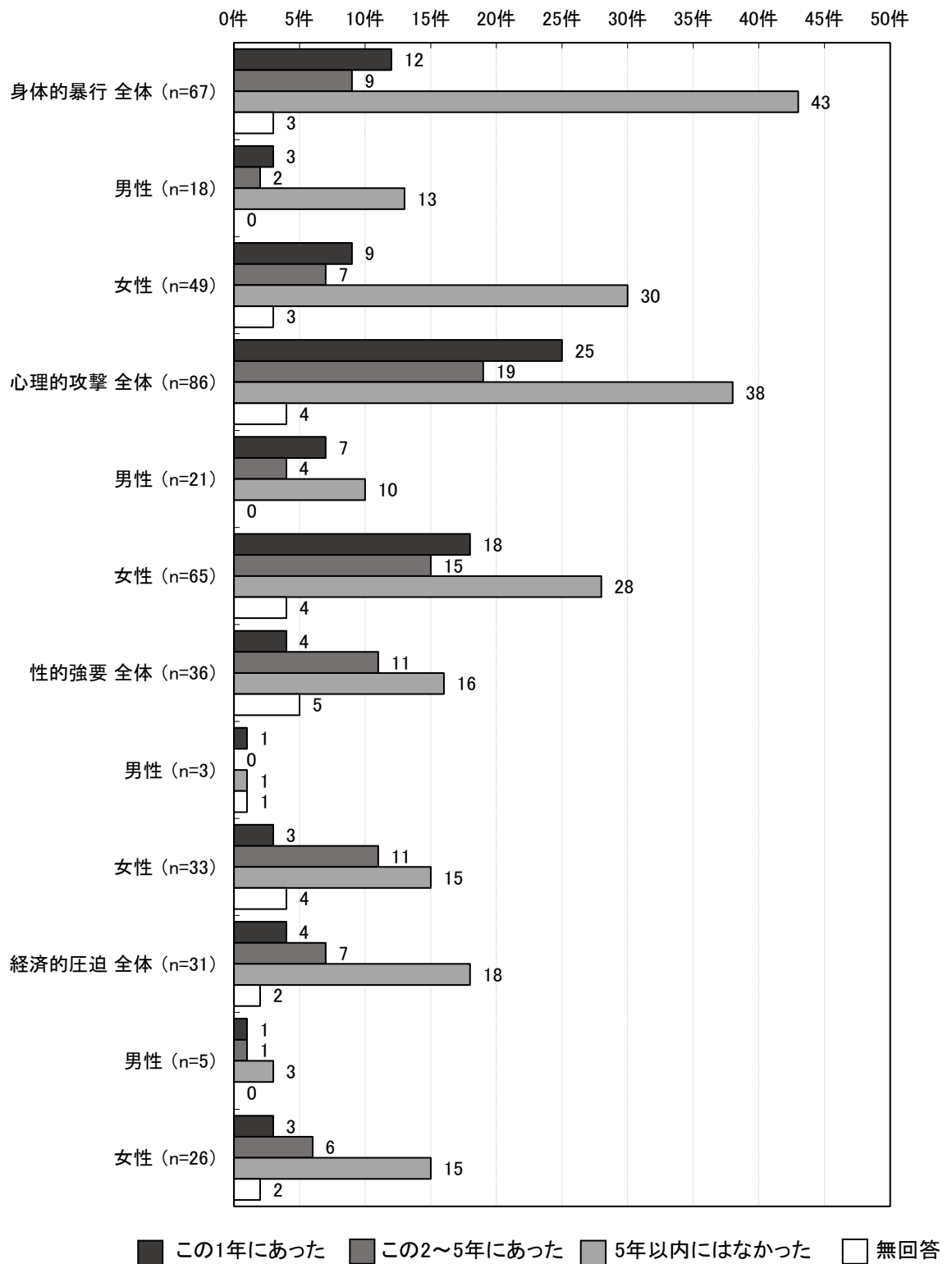


【経済的圧迫】



※経済的圧迫は今回からの項目

[図表 7-5-2] 暴力を受けた時期（性別類型）《S A》

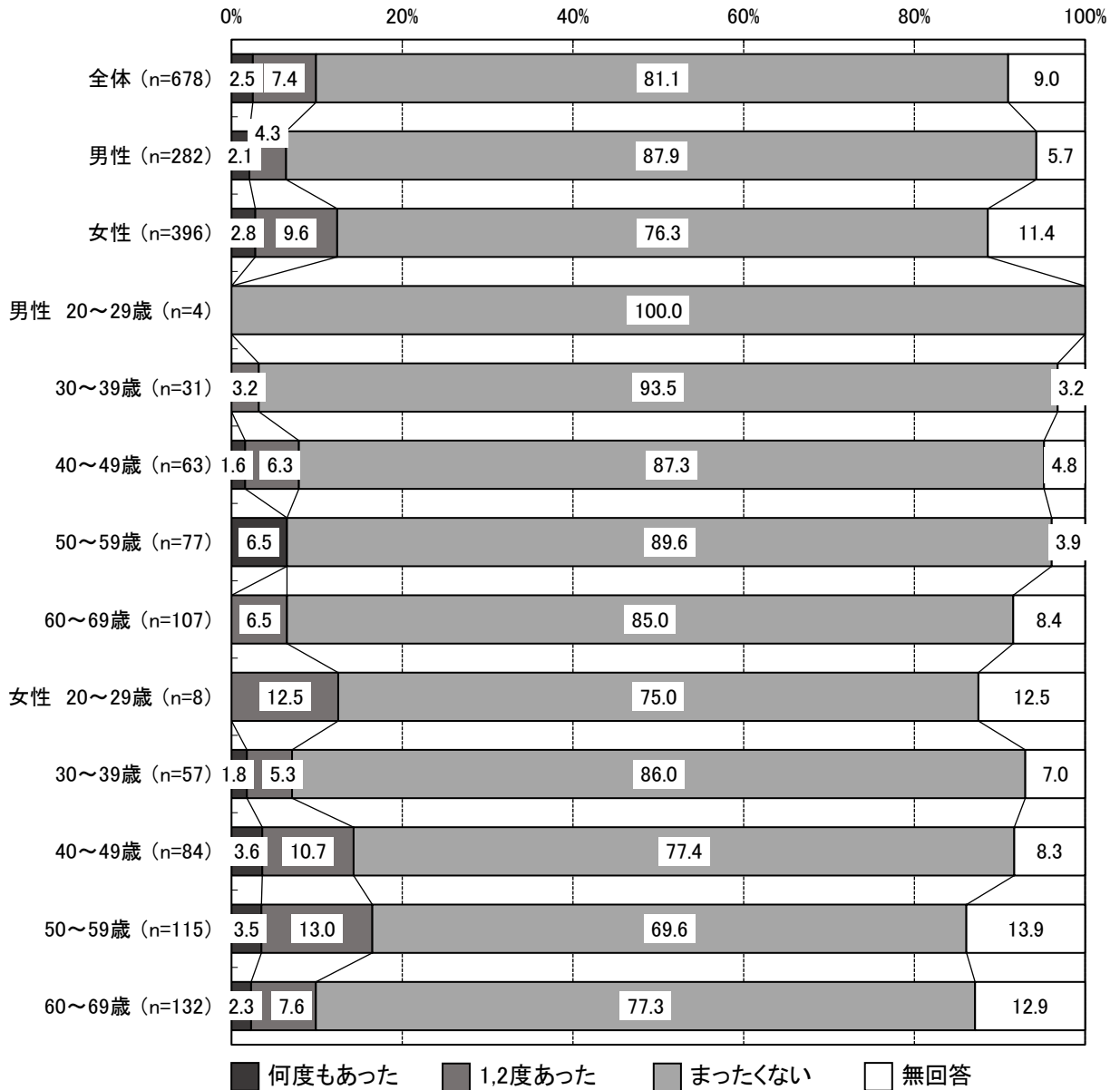


(2) 身体的暴行（性別・年齢別）

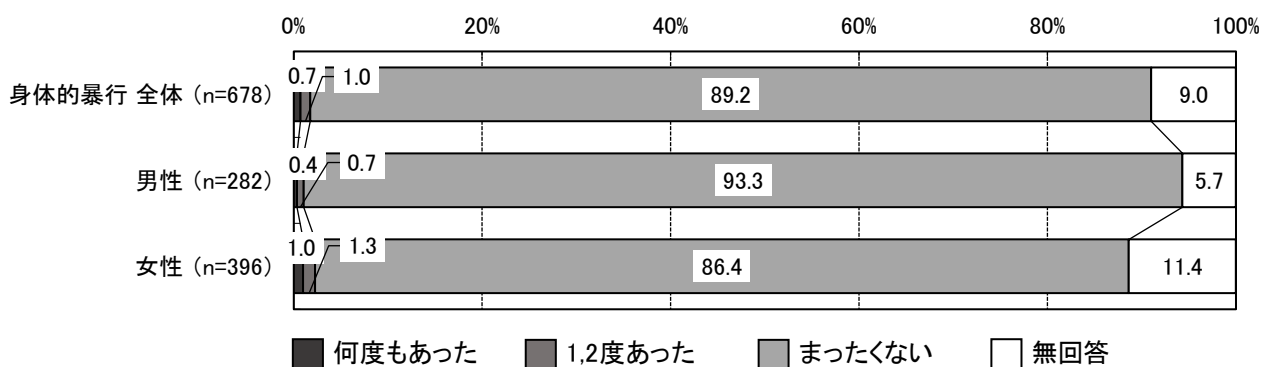
身体的暴行を受けた経験について、性別で見ると『あった』は、男性で6.4%、女性で12.4%と女性が6.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると『あった』は、男性では40代が7.9%、女性では50代が16.5%とそれぞれ他の年代に比べて高くなっている。

[図表 7-5-3] 身体的暴行を受けた経験（性別・年齢別）《S A》



[図表 7-5-4] 1年以内に身体的暴行を受けた経験（性別）《S A》

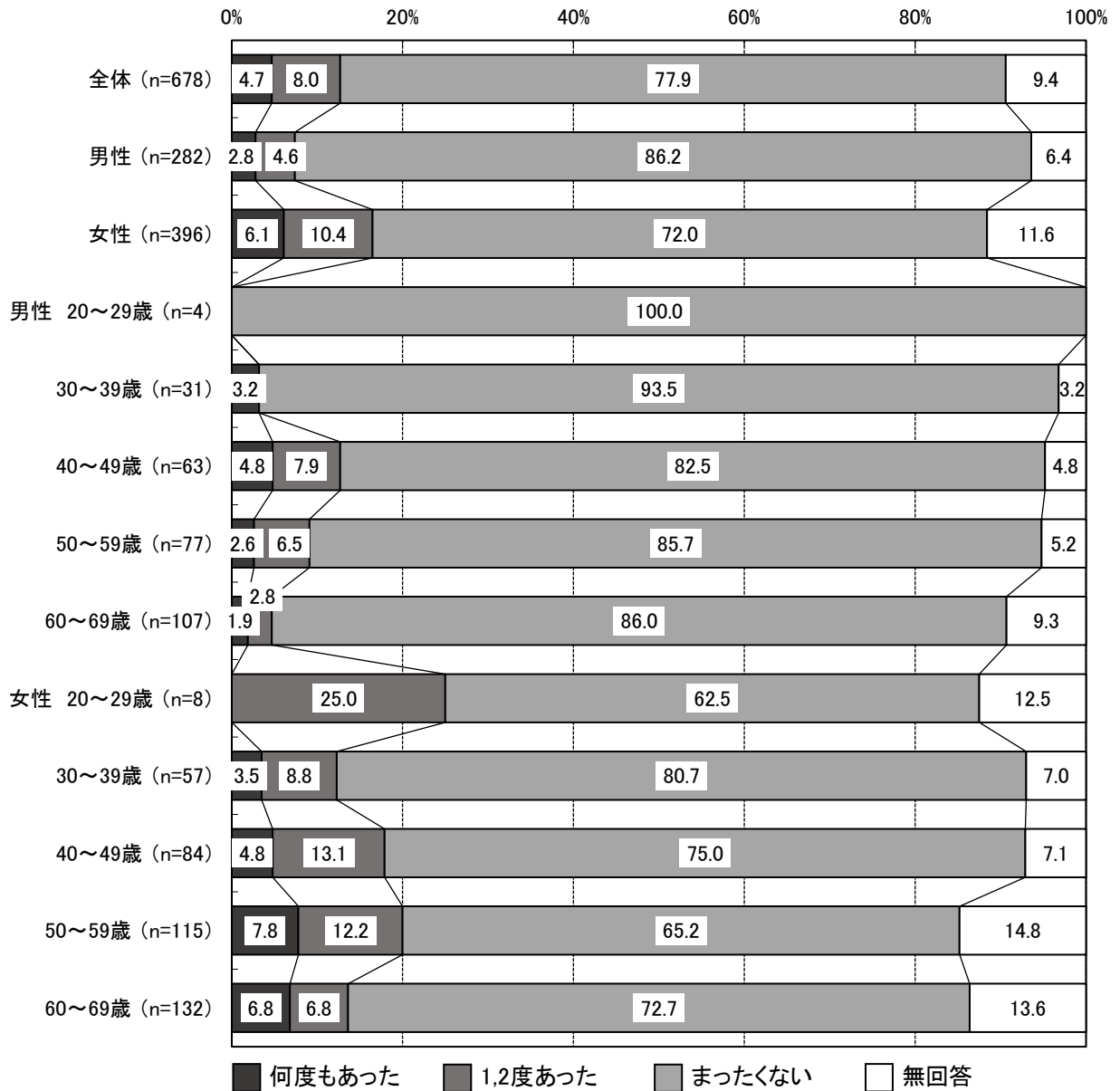


(3) 心理的攻撃（性別・年齢別）

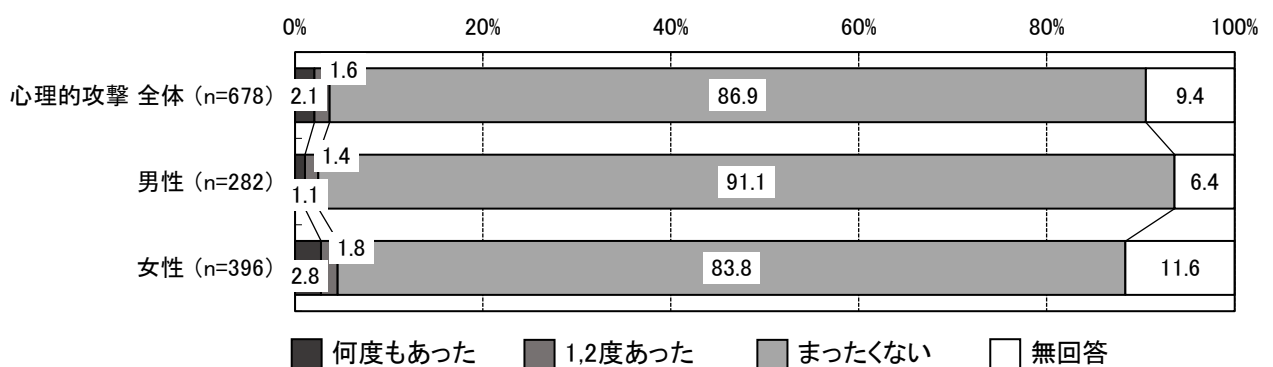
心理的攻撃を受けた経験について、性別で見ると『あった』は、男性で7.4%、女性で16.5%と女性が9.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると『あった』は、男性では40代が12.7%、女性では20代が25.0%とそれぞれ他の年代に比べて高くなっている。

[図表 7-5-5] 心理的攻撃を受けた経験（性別・年齢別）《S A》



[図表 7-5-6] 1年以内に心理的攻撃を受けた経験（性別）《S A》

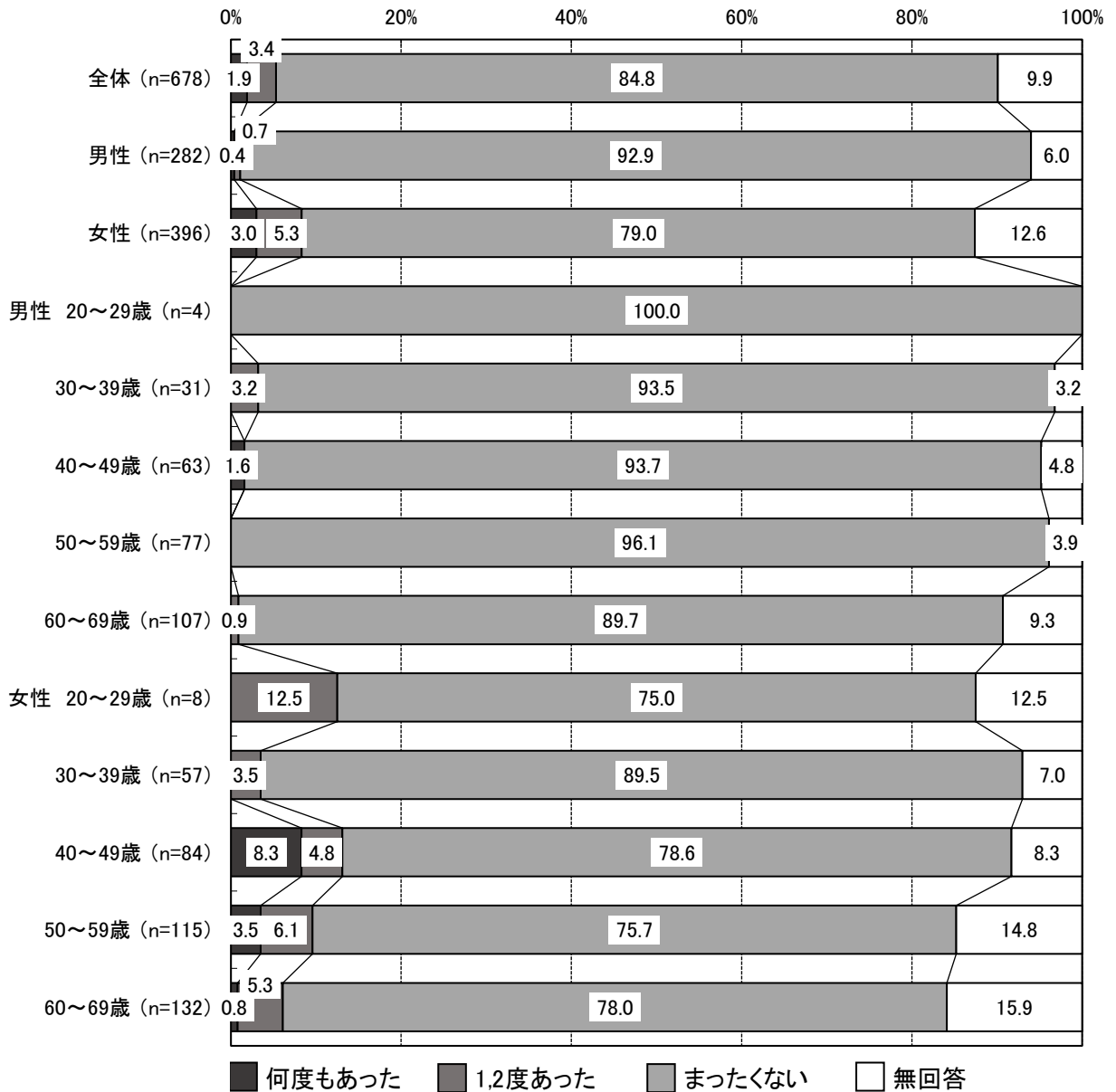


(4) 性的強要（性別・年齢別）

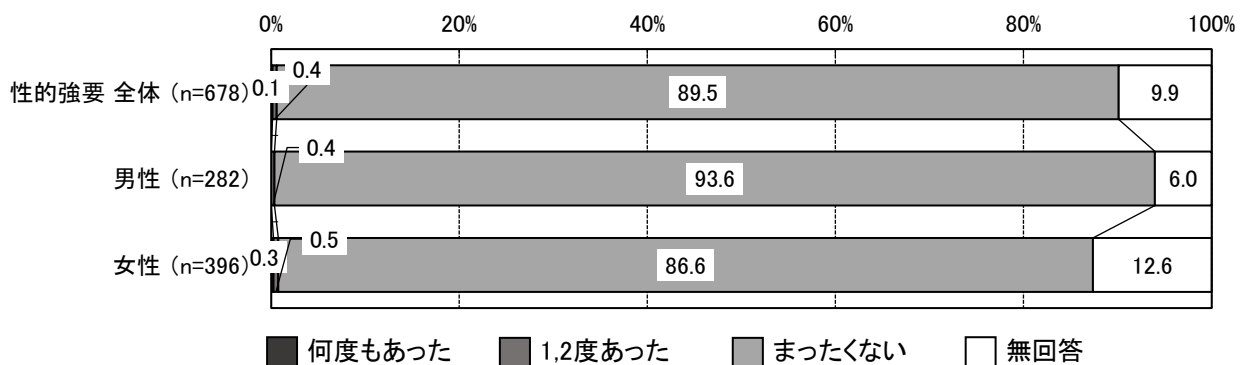
性的強要を受けた経験について、性別で見ると『あった』は、男性で1.1%、女性で8.3%と女性が7.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると『あった』は、男性では30代が3.2%、女性では40代が13.1%とそれぞれ他の年代に比べて高くなっている。

[図表 7-5-7] 性的強要を受けた経験（性別・年齢別）《S A》



[図表 7-5-8] 1年以内に性的強要を受けた経験（性別）《S A》

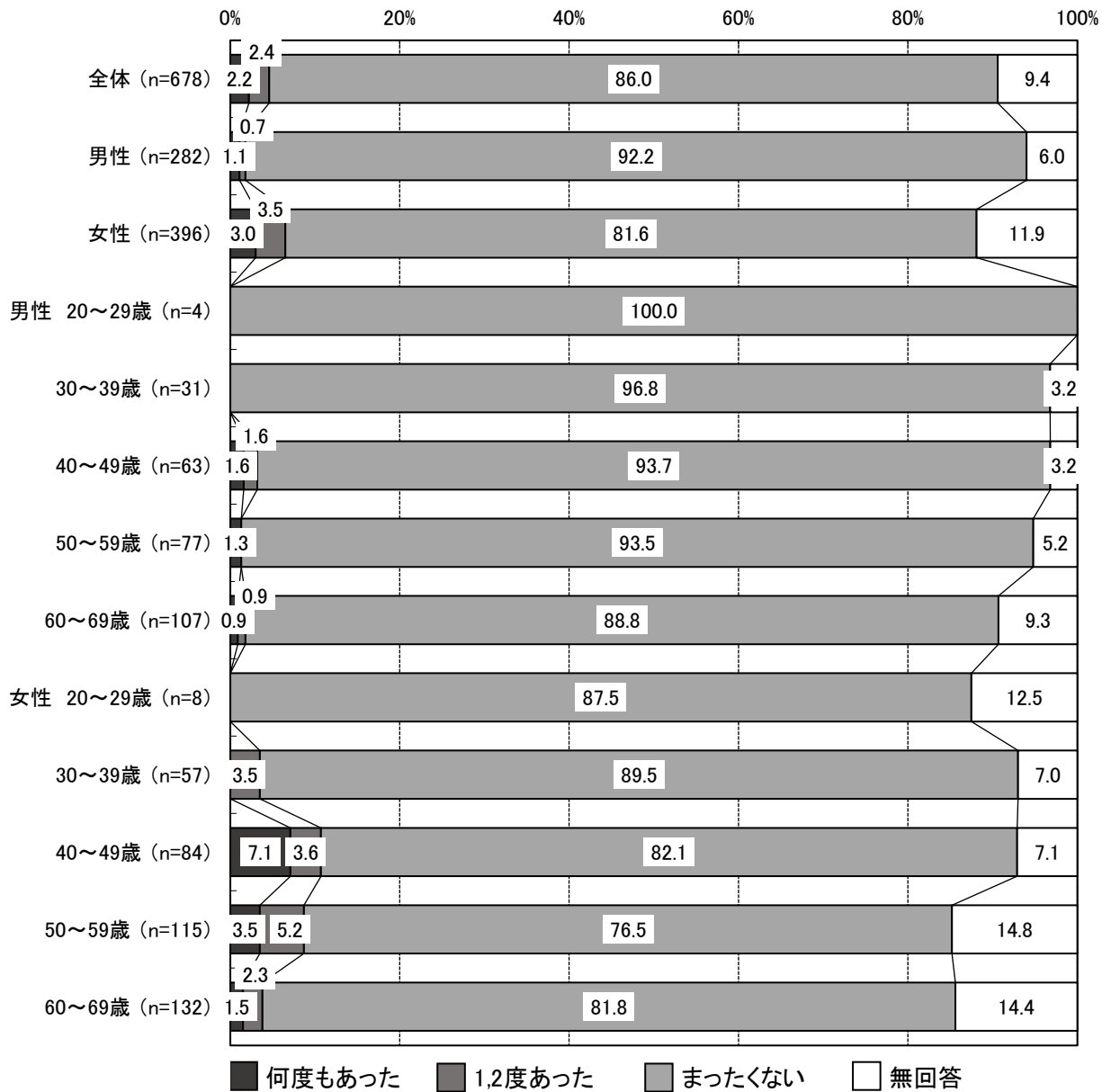


(5) 経済的圧迫（性別・年齢別）

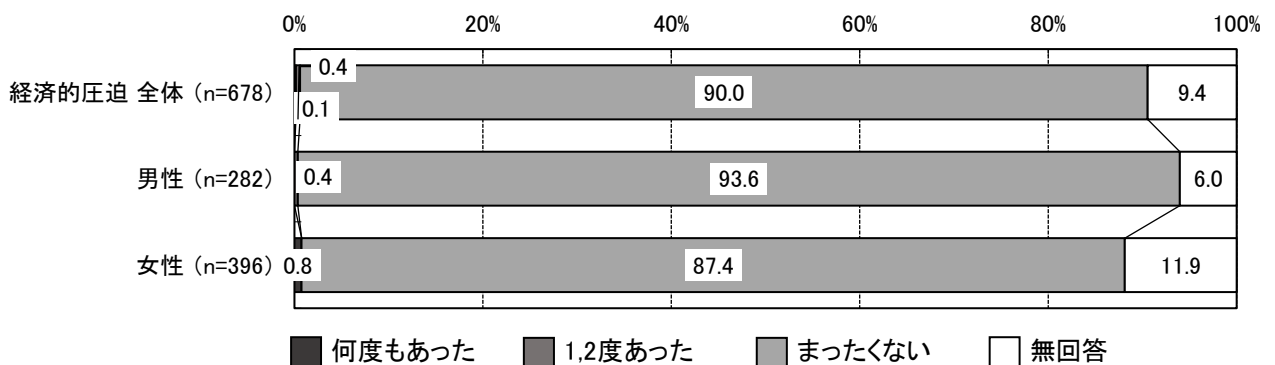
経済的圧迫を受けた経験について、性別で見ると『あった』は、男性で1.8%、女性で6.5%と女性が4.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると『あった』は、男性では40代が3.2%、女性では40代が10.7%とそれぞれ他の年代に比べて高くなっている。

[図表 7-5-9] 経済的圧迫を受けた経験（性別・年齢別）《S A》



[図表 7-5-10] 1年以内に経済的圧迫を受けた経験（性別）《S A》



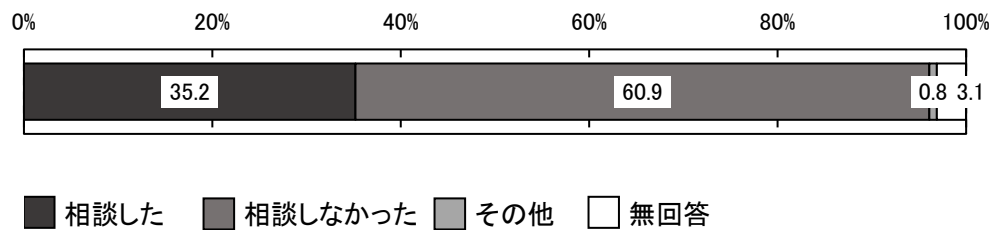
6. 配偶者から暴力を受けたときの相談先【問20-2、問20-3、問20-4】

【問20-2】で「この1年にあった」、「この2～5年にあった」と回答した人のうち、「相談しなかった」は60.9%を占めており、「相談した」は35.2%となっている。

相談した場合の相談先では、「家族や親戚」が32件で最も多く、次いで「知人・友人」が21件となっている。

相談しなかった理由では「自分が我慢すればこのままやっていけると思った」が27件で最も多く、「相談してもむだだと思った」、「自分にも悪いところがあると思った」、「相談するほどのことではないと思った」がいずれも25件、「恥ずかしくて誰にも言えなかった」が13件の順となっている。

【図表 7-6-1】 配偶者から暴力を受けたときに誰かに相談したか« S A »
(n=128)



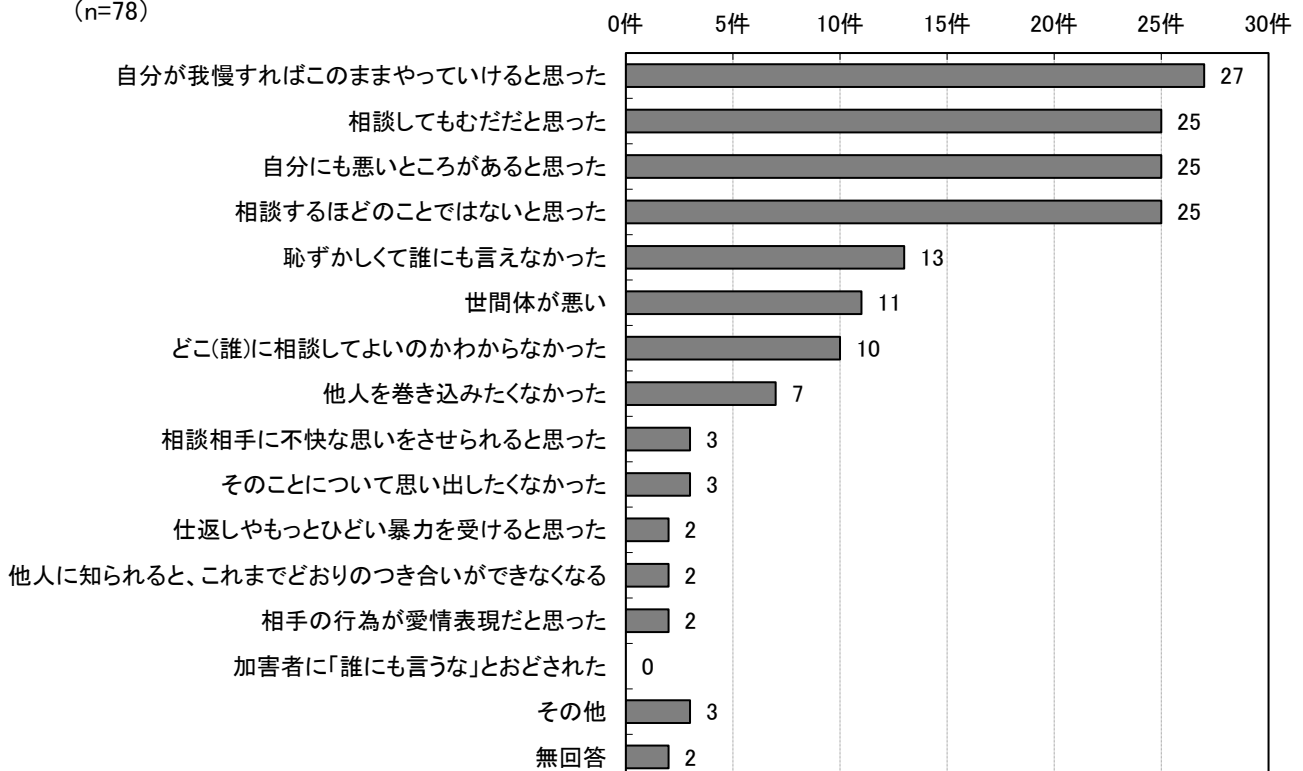
【図表 7-6-2】 配偶者から暴力を受けたときの相談先« M A »

相談先	件数
家族や親戚	32件
知人・友人	21件
弁護士、カウンセラー等	4件
公的機関(市町村など)	2件

相談先	件数
配偶者暴力相談支援センター	1件
男女共同参画のための施設	1件
医療関係者	1件

【図表 7-6-3】 配偶者から暴力を受けたときに相談しなかった理由« M A »

(n=78)



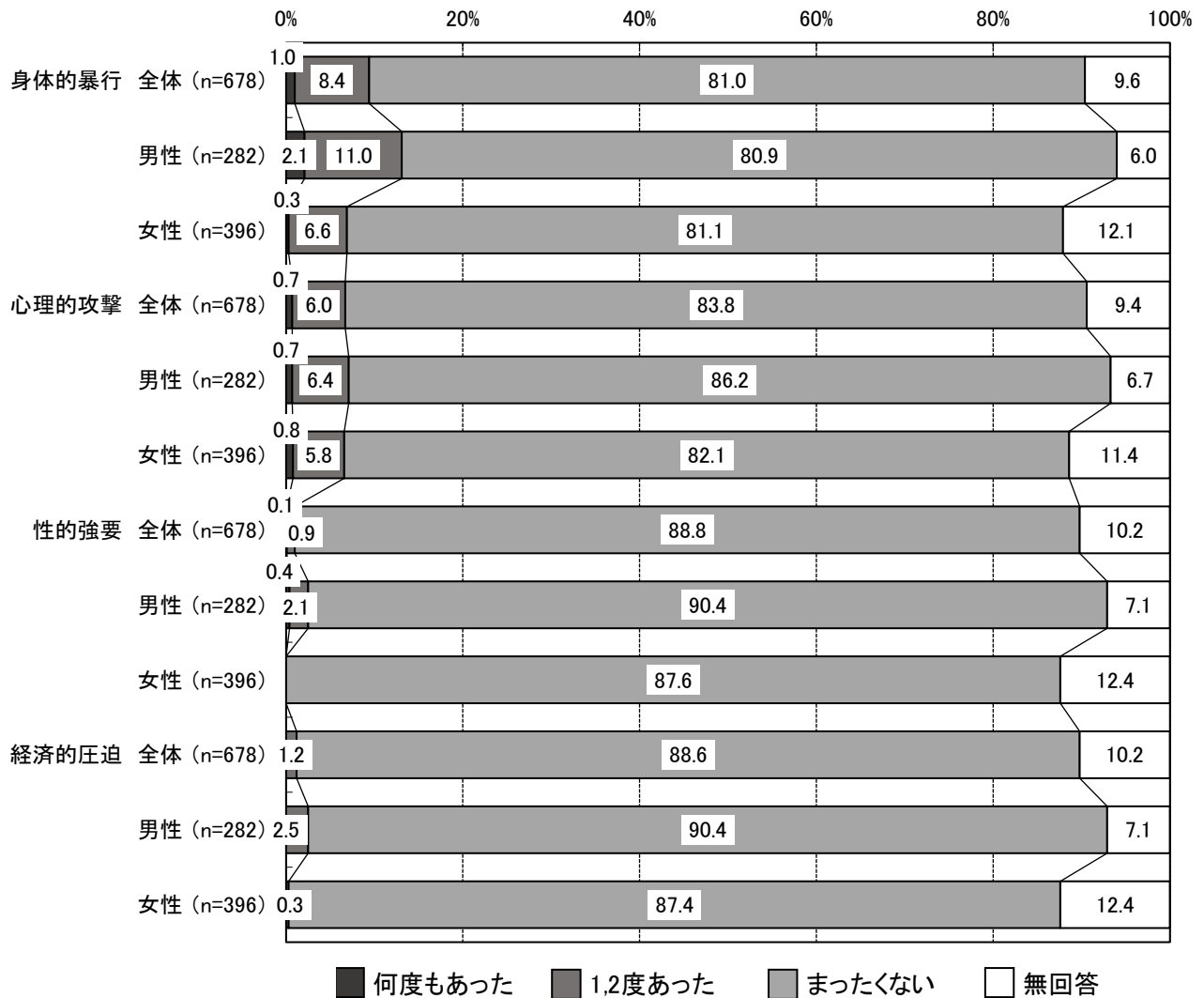
7. 配偶者へのDVについて【問21】

(1) 全分野について

全体では『あった』（「何度もあった」、「1,2度あった」の合計）は身体的暴行では9.4%、心理的攻撃では6.7%、経済的圧迫では1.2%、性的強要では1.0%となっている。

性別で見ると、身体的暴行、心理的攻撃、性的強要、経済的圧迫を配偶者に行った経験はいずれも男性の割合が高い。

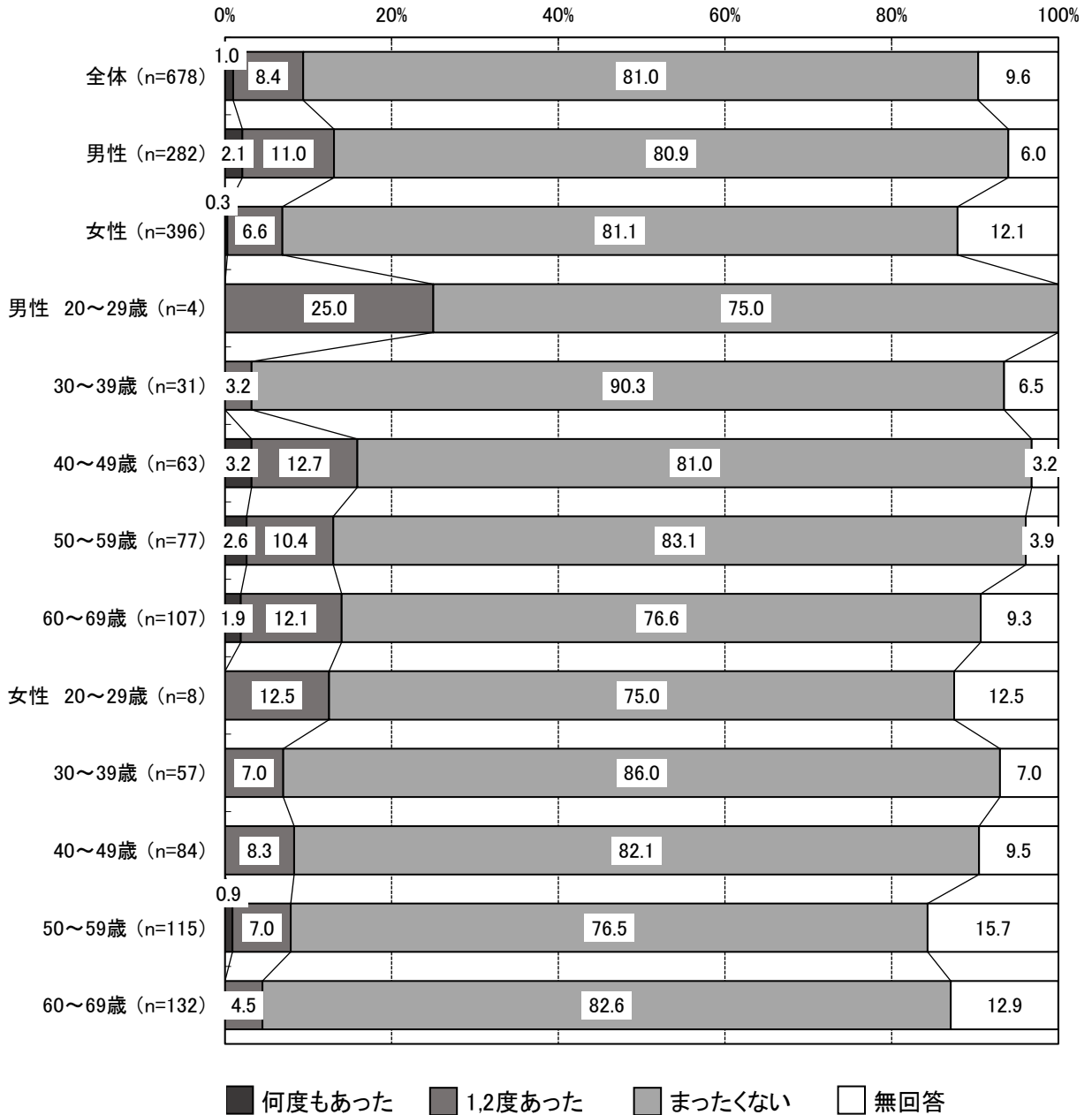
〔図表 7-7-1〕 配偶者へのDVについて（性別）«SA»



(2) 身体的暴行について【問21A】

身体的暴行の加害経験について、性別で見ると『あった』は、男性で13.1%、女性で6.9%と男性が6.2ポイント高くなっている。

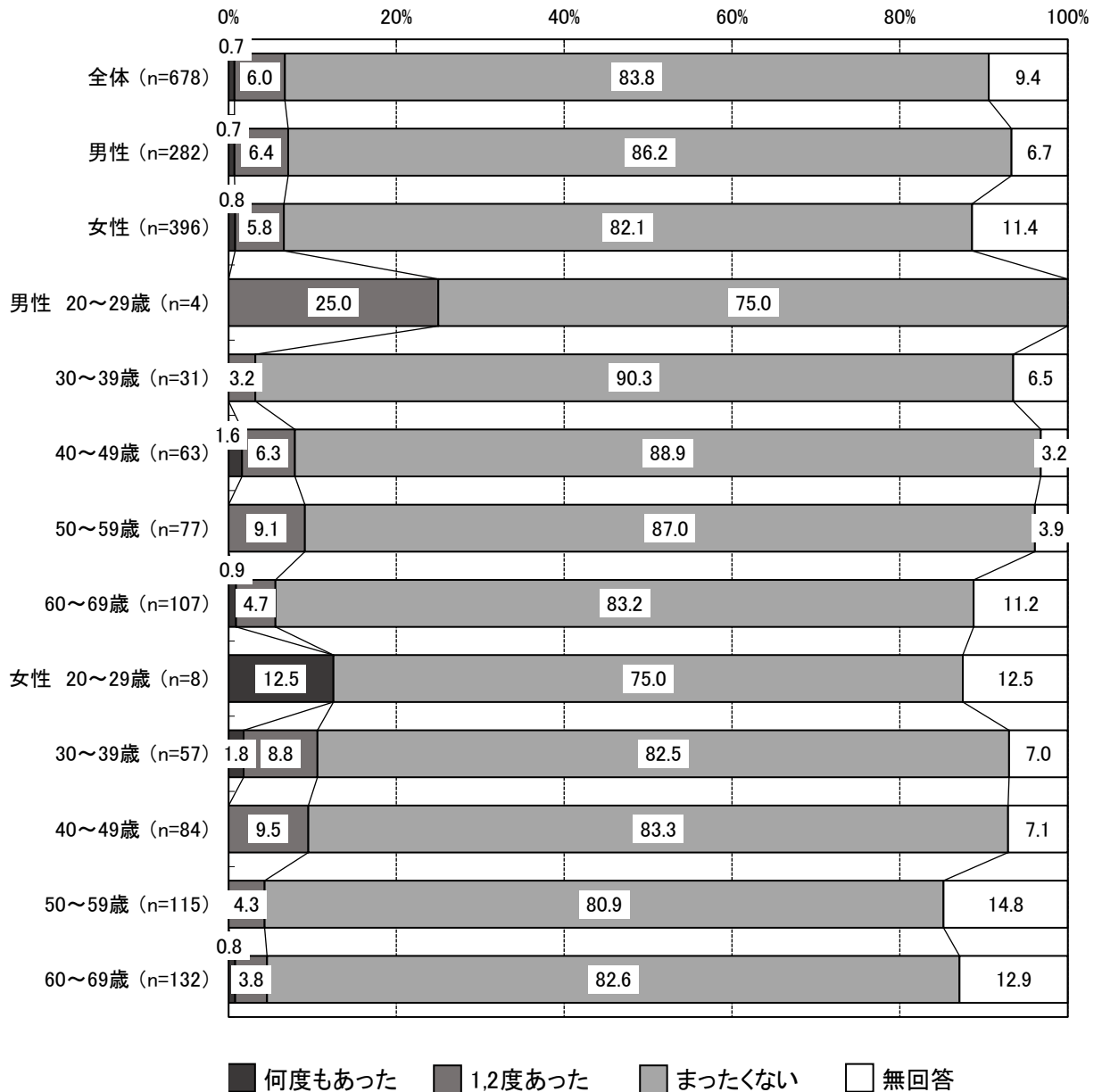
[図表 7-7-2] 配偶者への身体的暴行について（性別・年齢別）« S A »



(3) 心理的攻撃について【問21B】

心理的攻撃の加害経験について、性別で見ると『あった』は、男性で7.1%、女性で6.6%となっている。

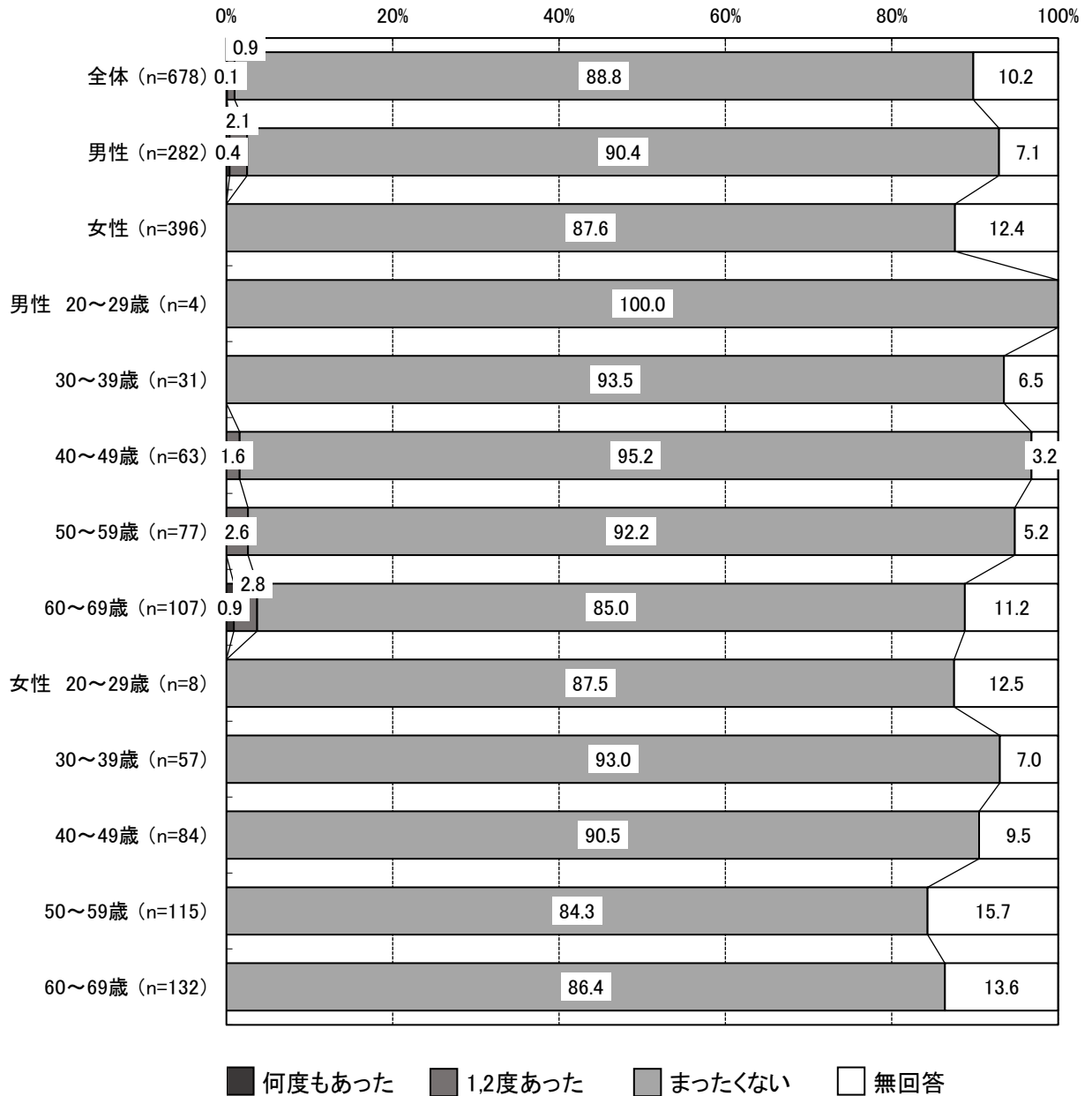
[図表 7-7-3] 配偶者への心理的攻撃について（性別・年齢別）《S A》



(4) 性的強要について【問21C】

性的強要の被害経験について、性別で見ると『あった』は、男性で2.5%、女性で0%と男性が2.5ポイント高くなっている。

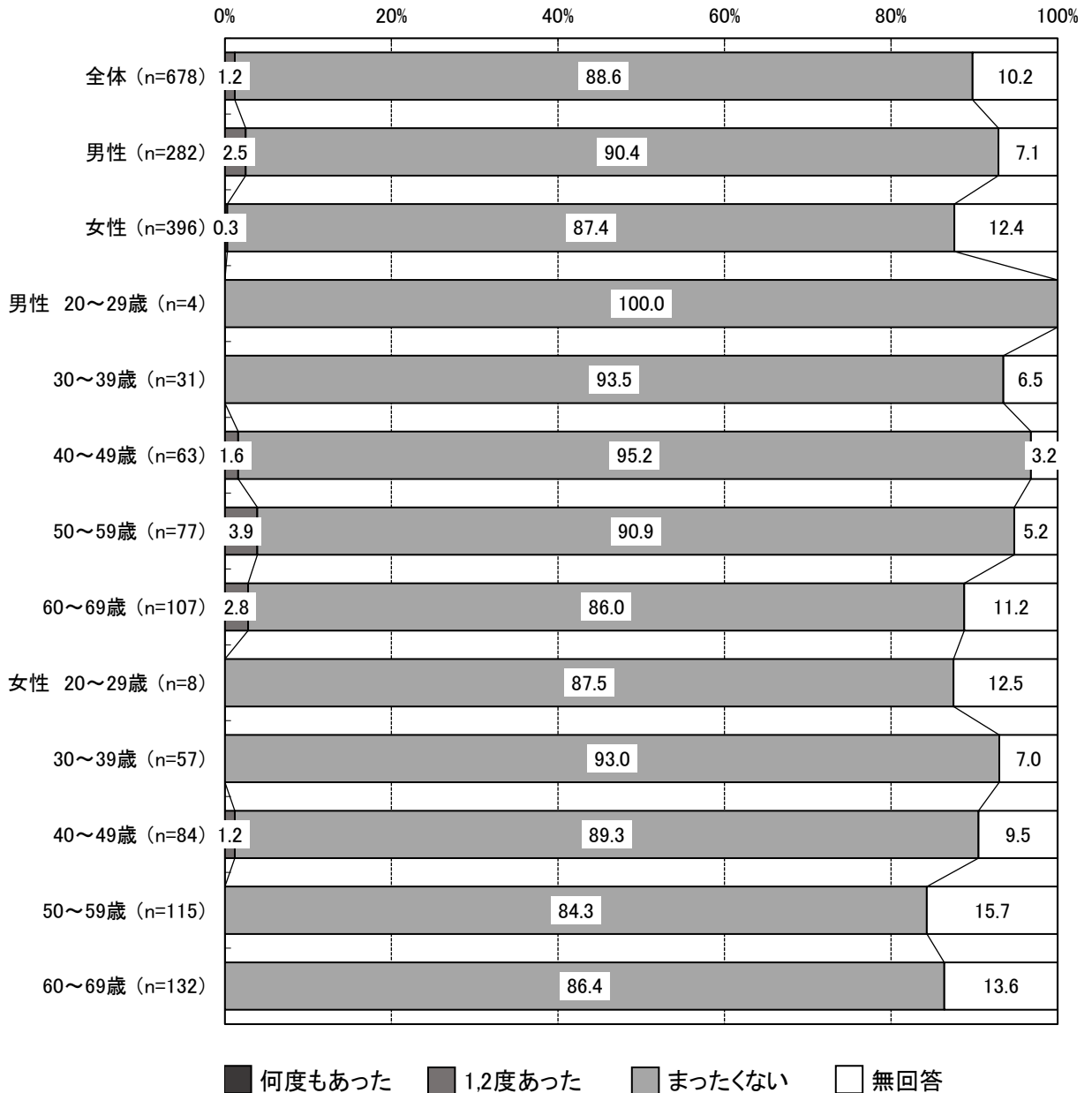
〔図表 7-7-4〕 配偶者への性的強要について（性別・年齢別）《SA》



(5) 経済的圧迫について【問21D】

経済的圧迫の被害経験について、性別で見ると『あった』は、男性で2.5%、女性で0.3%と男性が2.2ポイント高くなっている。

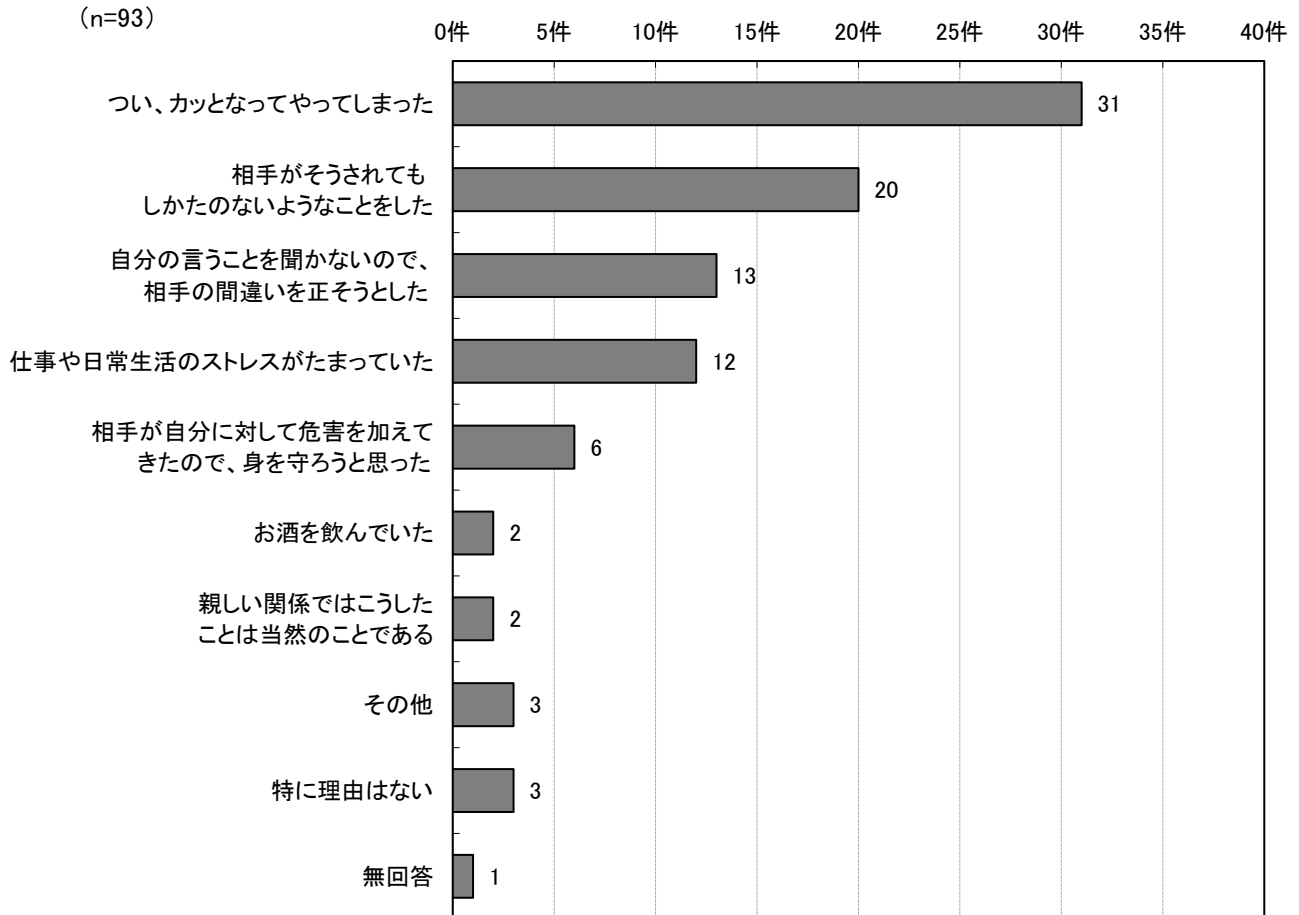
[図表 7-7-5] 配偶者への経済的圧迫について（性別・年齢別）《S A》



8. 配偶者へのDVの理由について【問22】

配偶者へのDVの理由は「つい、カッとなってやってしまった」が31件で最も多く、次いで「相手がそうされてもしかたのないようなことをした」が20件、「自分の言うことを聞かないので、相手の間違いを正そうとした」が13件、「仕事や日常生活のストレスがたまっていた」が12件の順となっている。

[図表 7-8-1] 配偶者へのDVの理由について«S A»



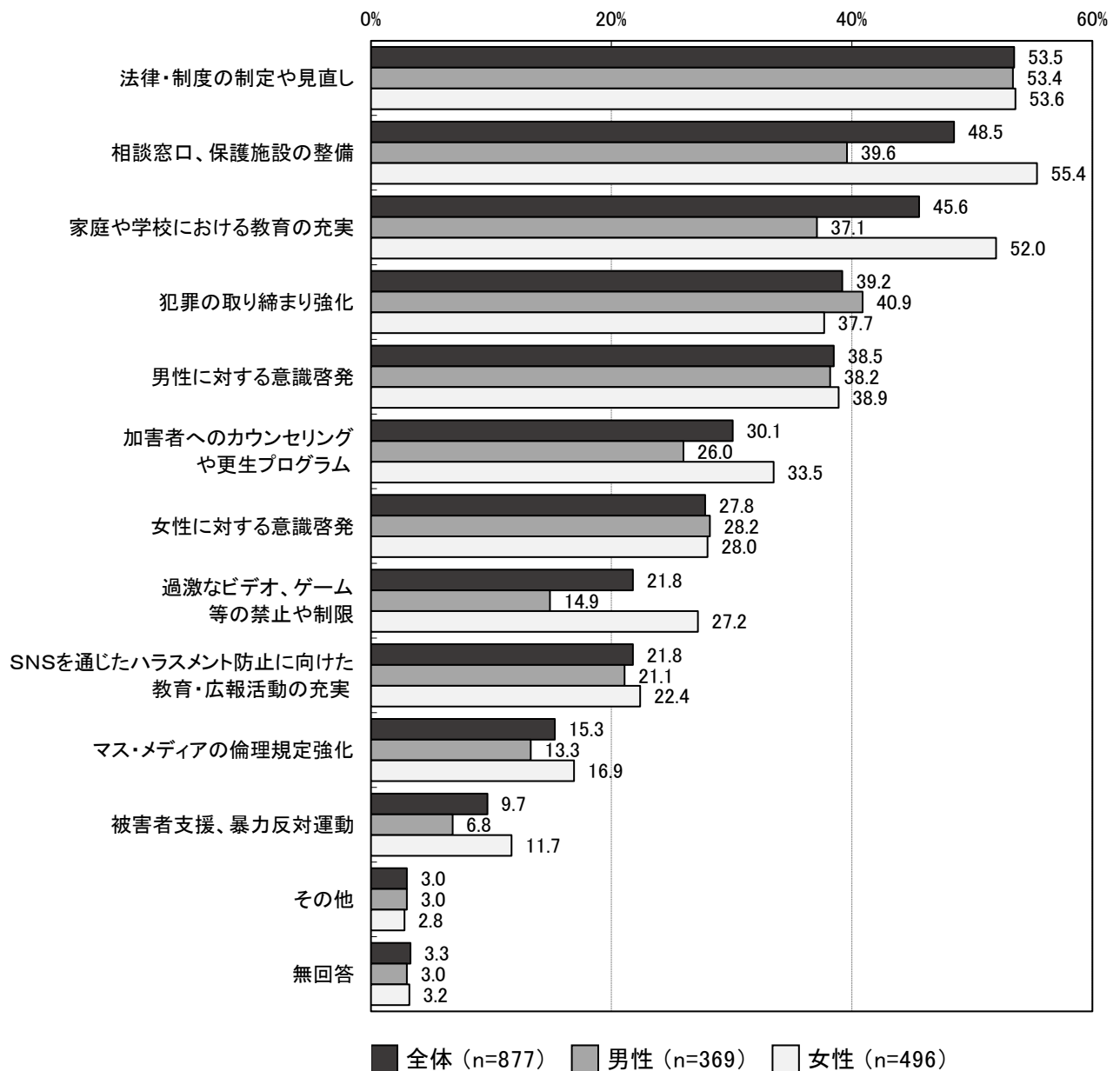
9. DVやセクハラをなくすために必要なこと【問23】

(1) 全体・性別

全体では「法律・制度の制定や見直し」が53.5%と最も高く、次いで「相談窓口、保護施設の整備」が48.5%、「家庭や学校における教育の充実」が45.6%の順となっている。

性別で見ると、男性は「法律・制度の制定や見直し」が53.4%、女性は「相談窓口、保護施設の整備」が55.4%と最も高くなっている。また、「相談窓口、保護施設の整備」では男性が39.6%、女性が55.4%と15.8ポイント、「家庭や学校における教育の充実」では男性が37.1%、女性が52.0%と14.9ポイント、共に女性が男性より高くなっている。

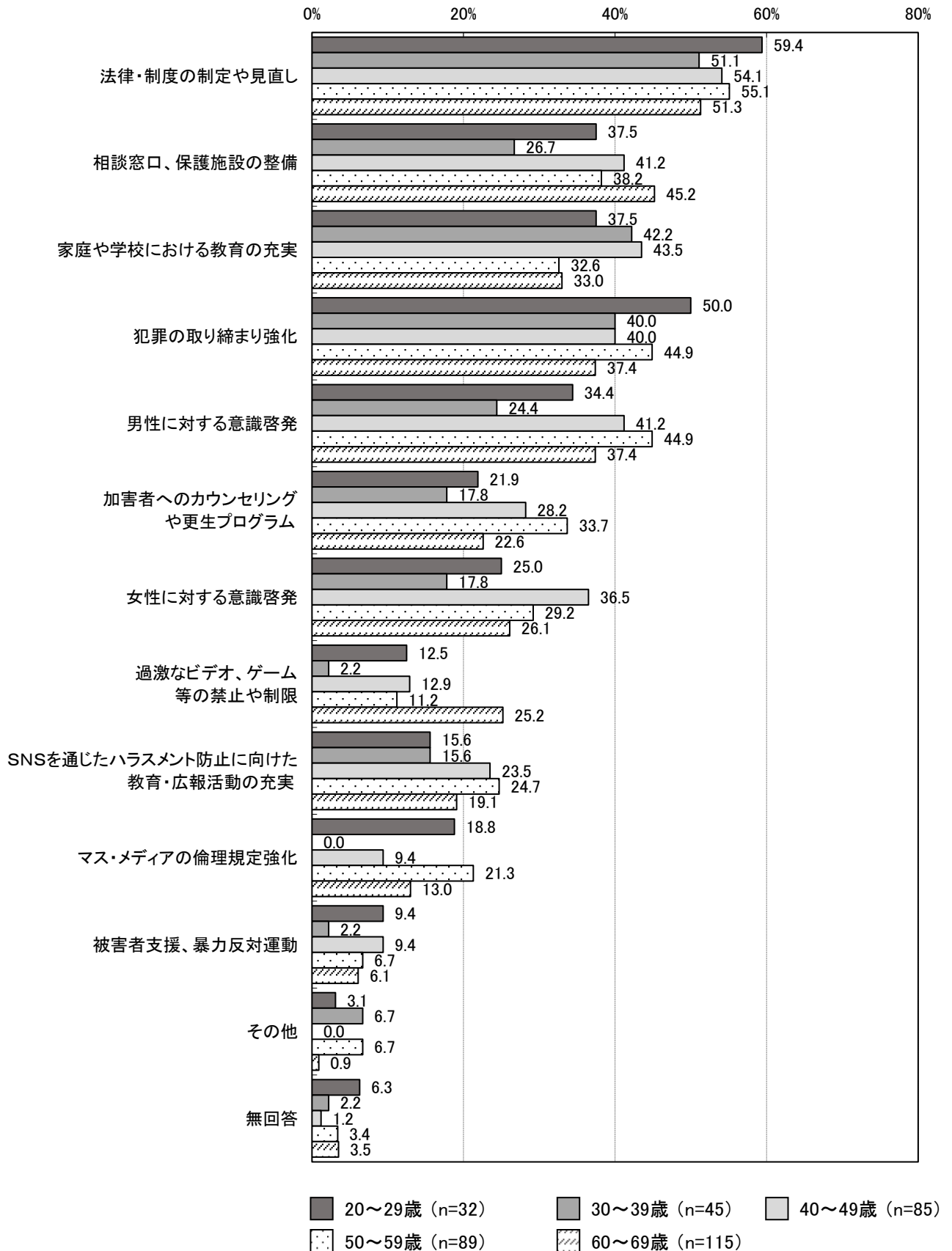
〔図表 7-9-1〕 DVやセクハラをなくすために必要なこと（性別）《MA》



(2) 男性・年齢別

年齢別で見ると、いずれの年代も「法律・制度の制定や見直し」の割合が高く、そのうち20代が59.4%と最も高くなっている。60代では「相談窓口、保護施設の整備」が45.2%と高い傾向にある。「犯罪の取り締まり強化」では20代、50代が高くなっている。

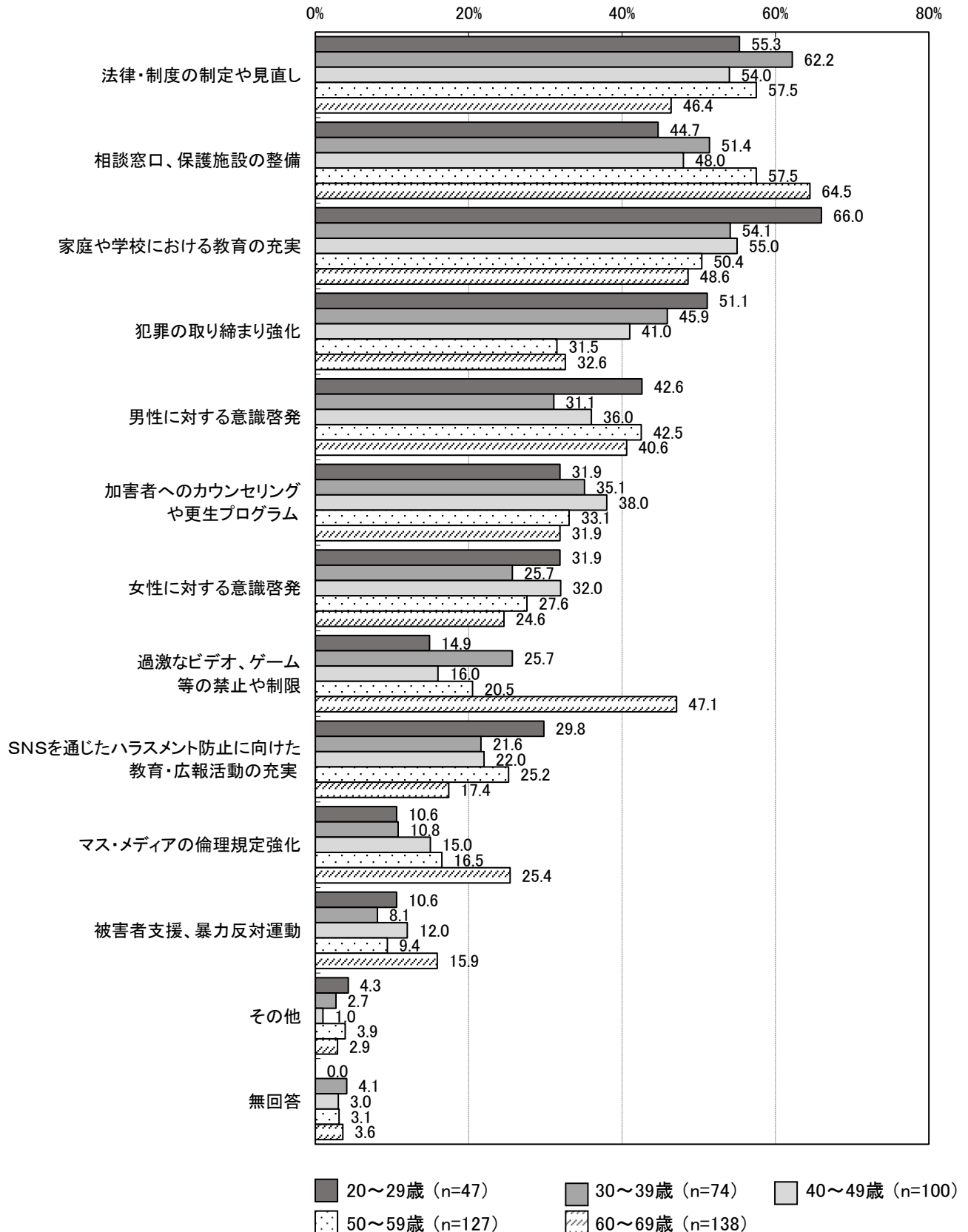
[図表 7-9-2] DVやセクハラをなくするために必要なこと（男性・年齢別）《MA》



(3) 女性・年齢別

年齢別でみると、50～60代で「相談窓口、保護施設の整備」の割合が高く、そのうち60代が64.5%と最も高くなっている。20代では「家庭や学校における教育の充実」が66.0%と最も高くなっている。60代では「過激なビデオ、ゲーム等の禁止や制限」が47.1%と他の年代に比べて高くなっている。「マス・メディアの倫理規定強化」では年代が上がるにつれて高くなっている。

[図表 7-9-3] DVやセクハラをなくするために必要なこと(女性・年齢別) «MA»



10. 妊娠・出産、育児休業等を理由とする不利益取扱い・嫌がらせ（マタハラ、パタハラ）の経験【問24】

(1) 性別・年齢別

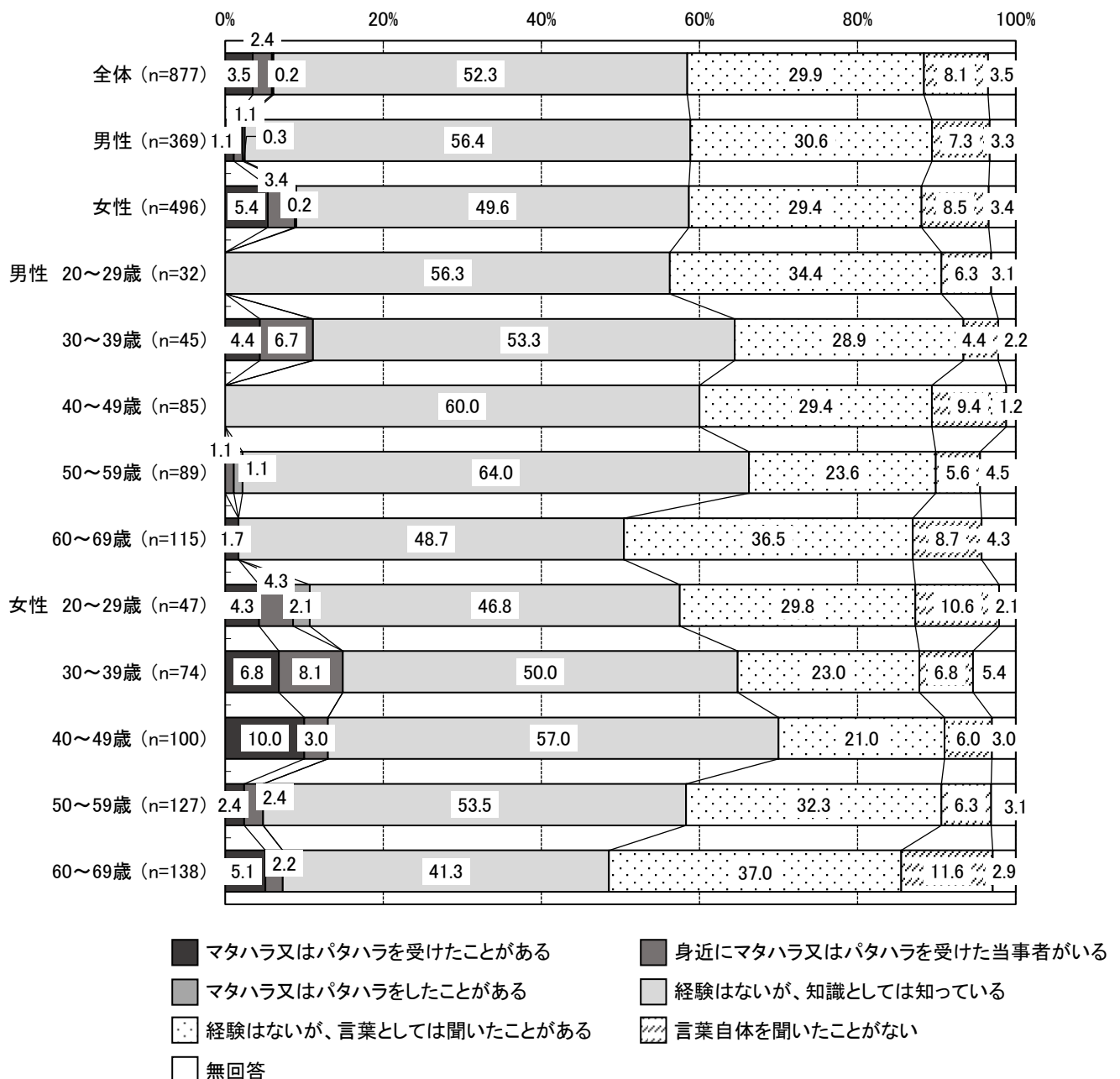
全体では「経験はないが、知識として知っている」が52.3%と最も高く、次いで「経験はないが、言葉としては聞いたことがある」が29.9%、「言葉自体を聞いたことがない」が8.1%の順となっている。

性別で見ると、男女ともに「経験はないが、知識としては知っている」が最も高くなっている。「マタハラ又はパタハラを受けたことがある」が男性は1.1%、女性が5.4%と男性よりも女性でやや高くなっている。

年齢別で見ると、男性は「経験はないが、知識として知っている」は40代、50代で高く、「経験はないが、言葉としては聞いたことがある」は20代、60代が高くなっている。女性では「経験はないが、知識として知っている」が40代で高く、「経験はないが、言葉としては聞いたことがある」は20代、60代で高くなっている。女性はいずれの年代においても「マタハラ又はパタハラを受けたことがある」と回答している。

〔図表 7-10-1〕 妊娠・出産、育児休業等を理由とする不利益取扱い・嫌がらせ（マタハラ、パタハラ）の経験

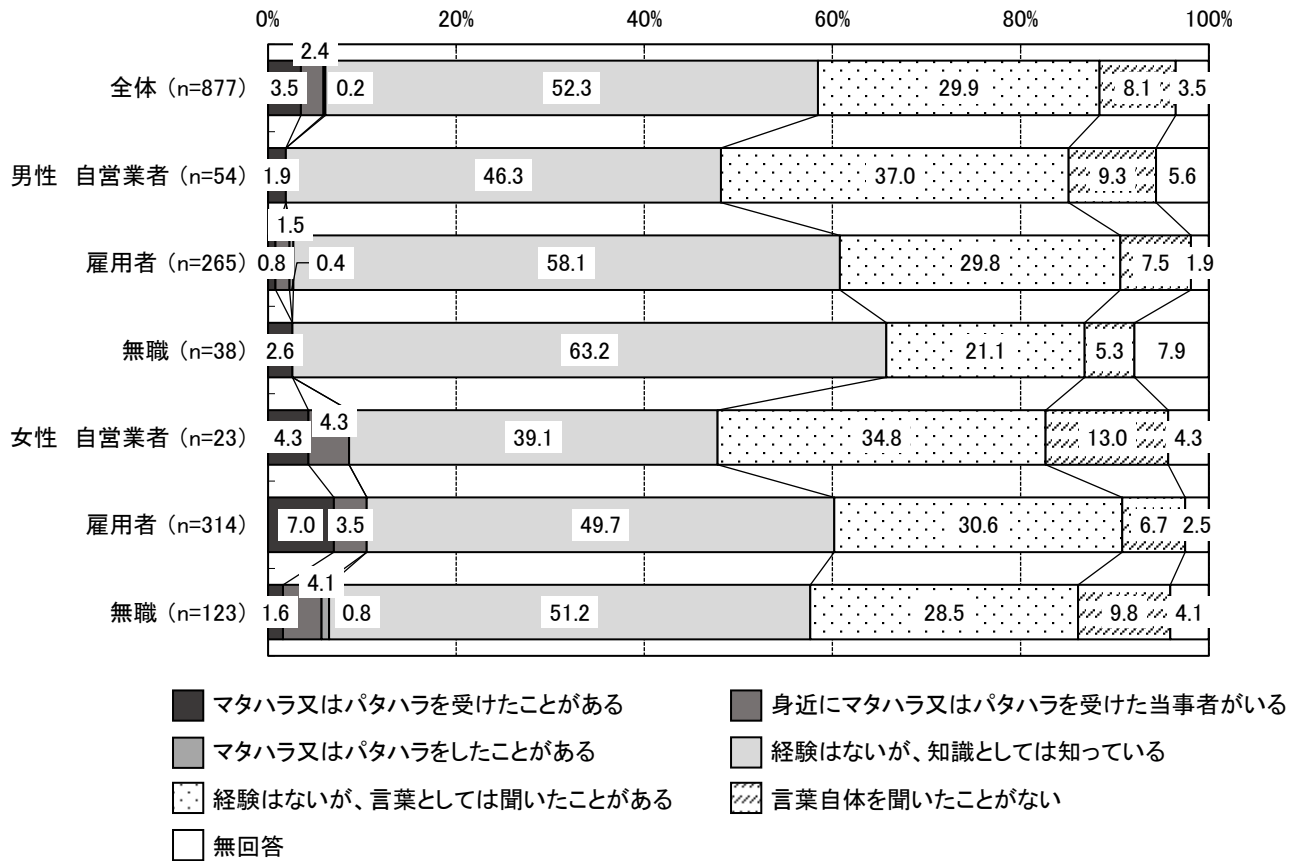
(性別・年齢別) « S A »



(2) 性別・職業別

職業別でみると、「マタハラ又はパタハラを受けたことがある」、「身近にマタハラ又はパタハラを受けた当事者がいる」の合計は、男性では無職が高く、女性では雇用者で高くなっている。「経験はないが、言葉としては聞いたことがある」、「言葉自体を聞いたことがない」では男女とも自営業者で高くなっている。

[図表 7-10-2] 妊娠・出産、育児休業等を理由とする不利益取扱い・嫌がらせ（マタハラ、パタハラ）の経験（性別・職業別）《SA》



第八章 社会参画や防災について

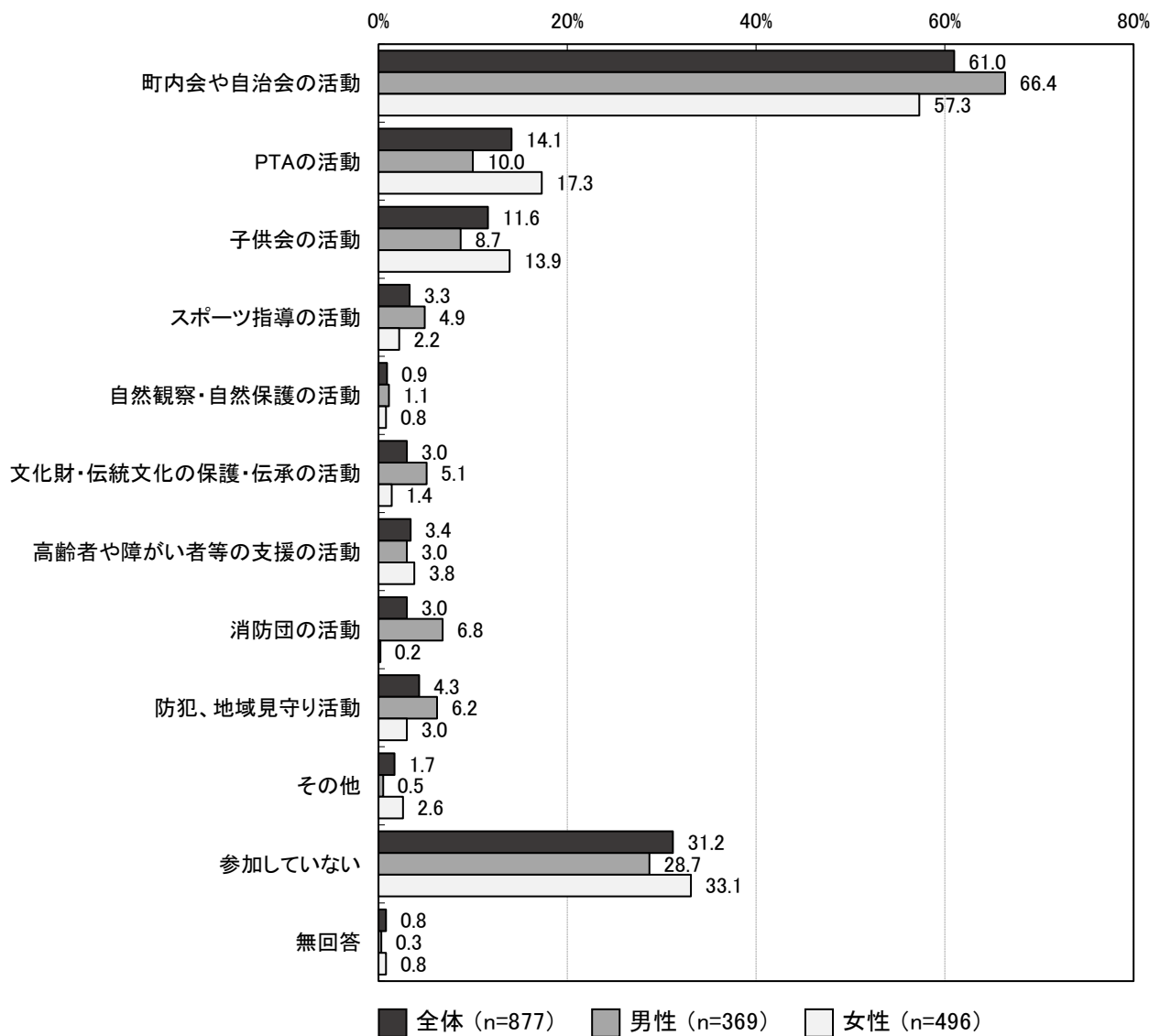
1. 参加している地域活動について【問25】

(1) 全体・性別

全体では「町内会や自治会の活動」が61.0%と最も高く、次いで「PTAの活動」が14.1%、「子供会の活動」が11.6%の順となっている。「参加していない」は31.2%となっている。

性別で見ると、男女ともに「町内会や自治会の活動」の割合が最も高く、男性が66.4%、女性が57.3%と男性が女性より9.1ポイント高くなっている。「PTAの活動」では女性が17.3%、男性が10.0%と女性が7.3ポイント高く、「子供会の活動」においても女性が13.9%、男性が8.7%と女性が5.2ポイント高くなっている。「参加していない」では女性が33.1%、男性が28.7%と女性が4.4ポイント高くなっている。

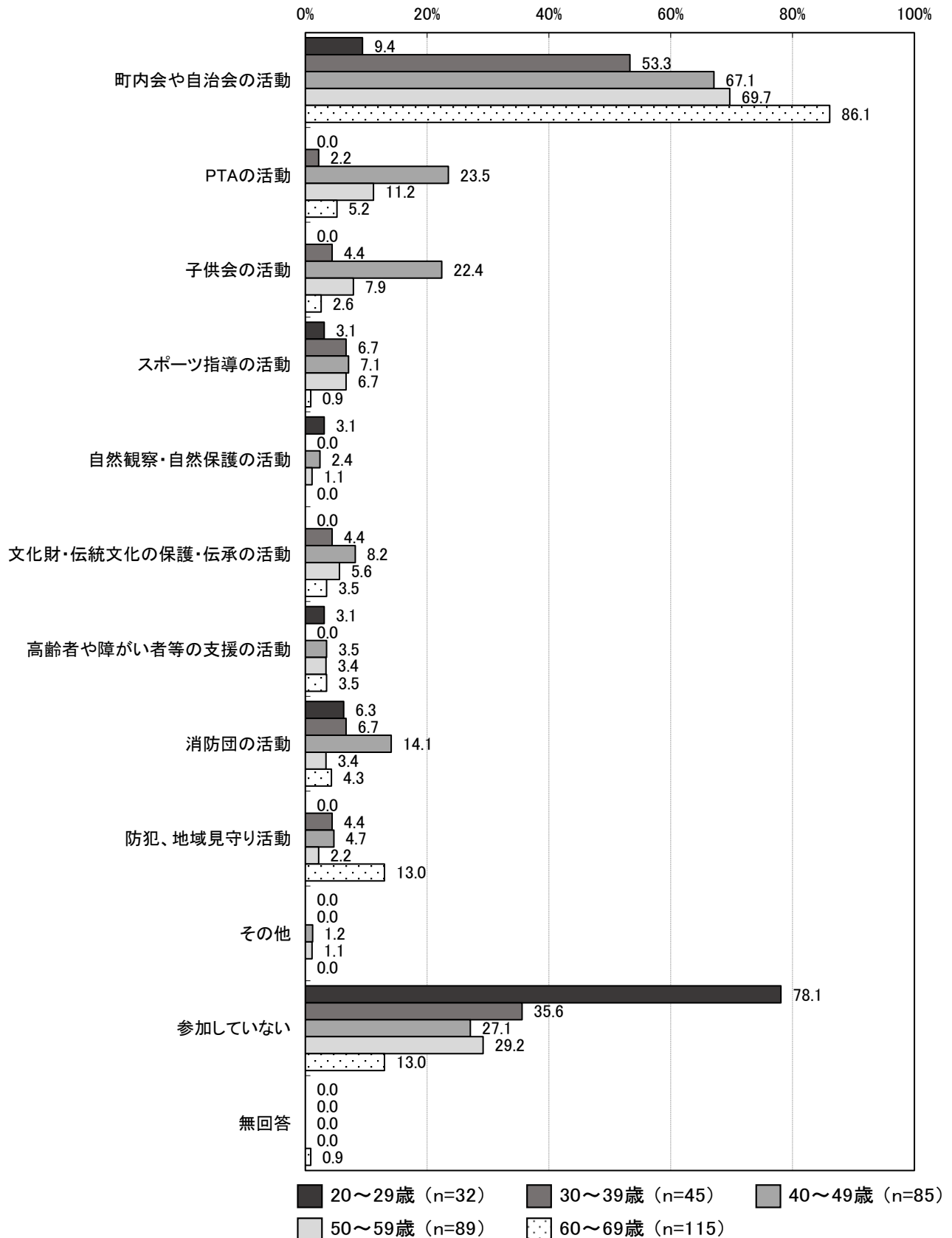
[図表 8-1-1] 参加している地域活動について（性別）«MA»



(2) 男性・年齢別

年齢別で見ると、20代を除くいずれの年代も「町内会や自治会の活動」の割合が最も高く、そのうち60代が86.1%と最も高くなっている。20代では「参加していない」が78.1%と最も高くなっている。

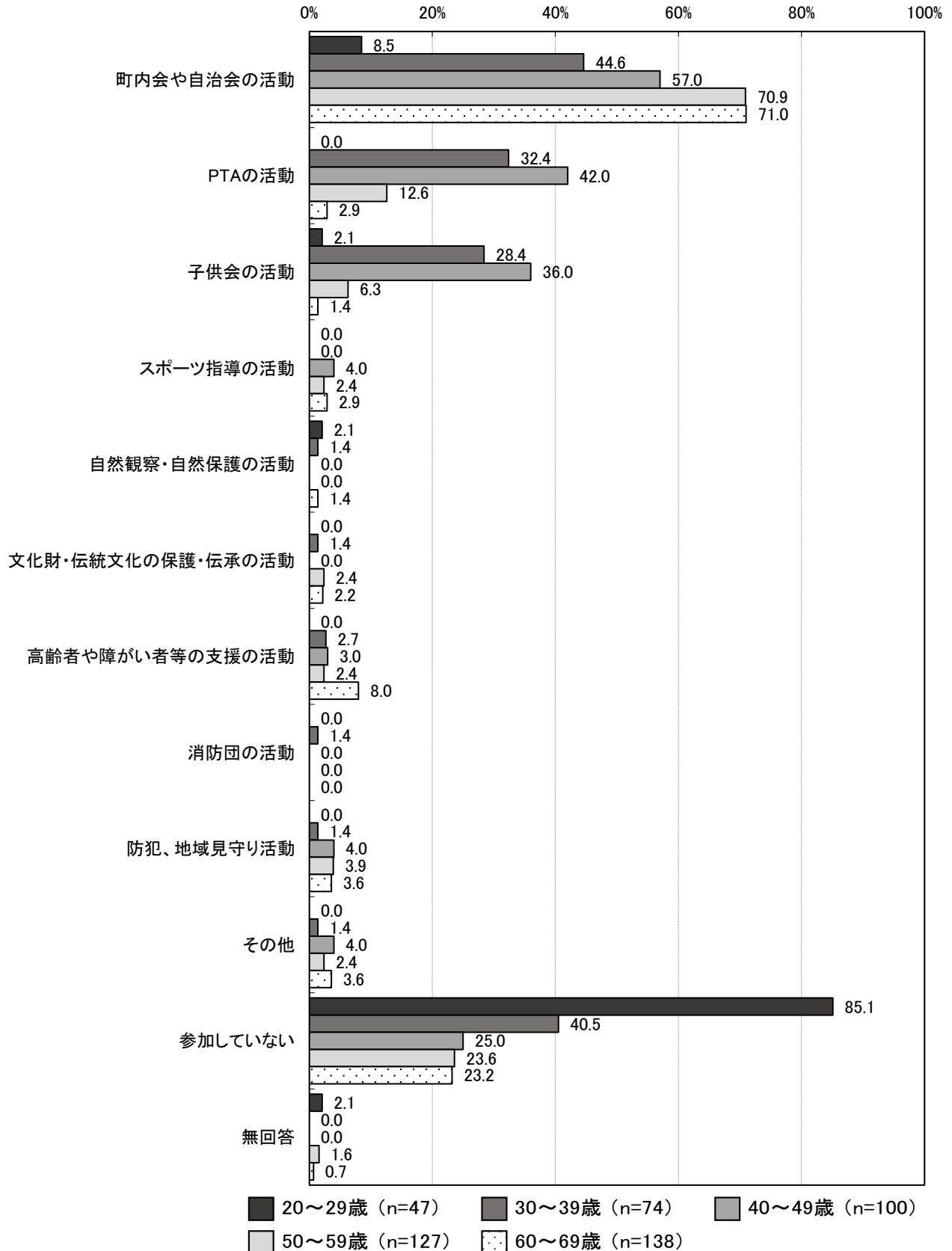
[図表 8-1-2] 参加している地域活動について (男性・年齢別) «MA»



(3) 女性・年齢別

年齢別で見ると、20代を除くいずれの年代も「町内会や自治会の活動」の割合が最も高く、そのうち60代が71.0%と最も高くなっている。30代、40代では「PTAの活動」、「子供会の活動」が他の年代に比べて高くなっている。20代では「参加していない」が85.1%と最も高く、年代が上がるにつれて低くなっている。

[図表 8-1-3] 参加している地域活動について（女性・年齢別）《MA》



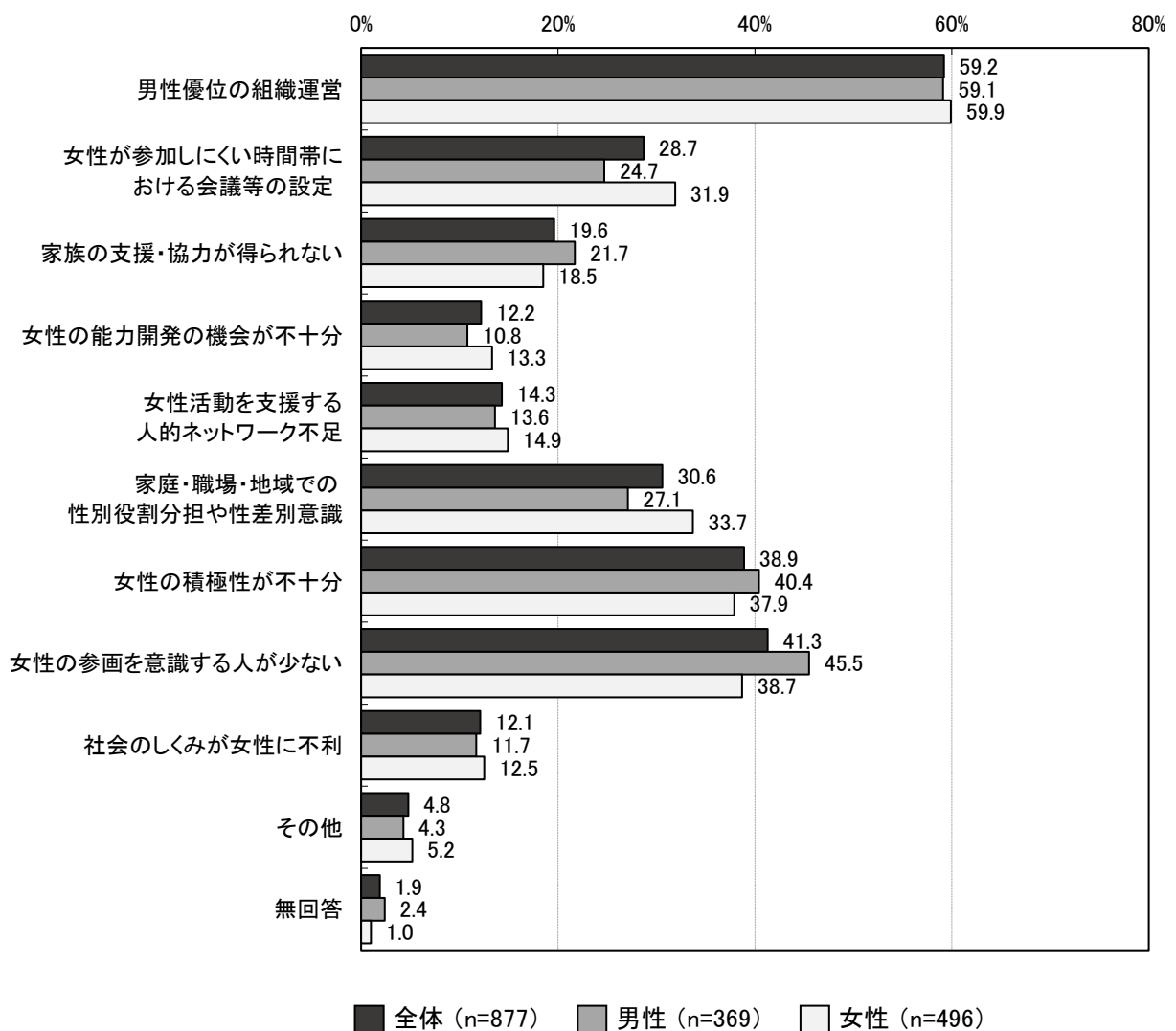
2. 企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由【問26】

(1) 全体・性別

全体では「男性優位の組織運営」が59.2%と最も高く、次いで「女性の参画を意識する人が少ない」が41.3%、「女性の積極性が不十分」が38.9%、「家庭・職場・地域での性別役割分担や性差別意識」が30.6%、「女性が参加しにくい時間帯における会議等の設定」が28.7%の順となっている。

性別でみると、男女ともに「男性優位の組織運営」（男性59.1%、女性59.9%）が最も高く、次いで「女性の参画を意識する人が少ない」（男性45.5%、女性38.7%）、「女性の積極性が不十分」（男性40.4%、女性37.9%）の順となっている。「女性が参加しにくい時間帯における会議等の設定」では、女性が31.9%、男性が24.7%と女性が7.2ポイント高く、「女性の参画を意識する人が少ない」では、女性が38.7%、男性が45.5%と男性が6.8ポイント高く、「家庭・職場・地域での性別役割分担や性差別意識」では、女性が33.7%、男性が27.1%と女性が6.6ポイント高くなっている。

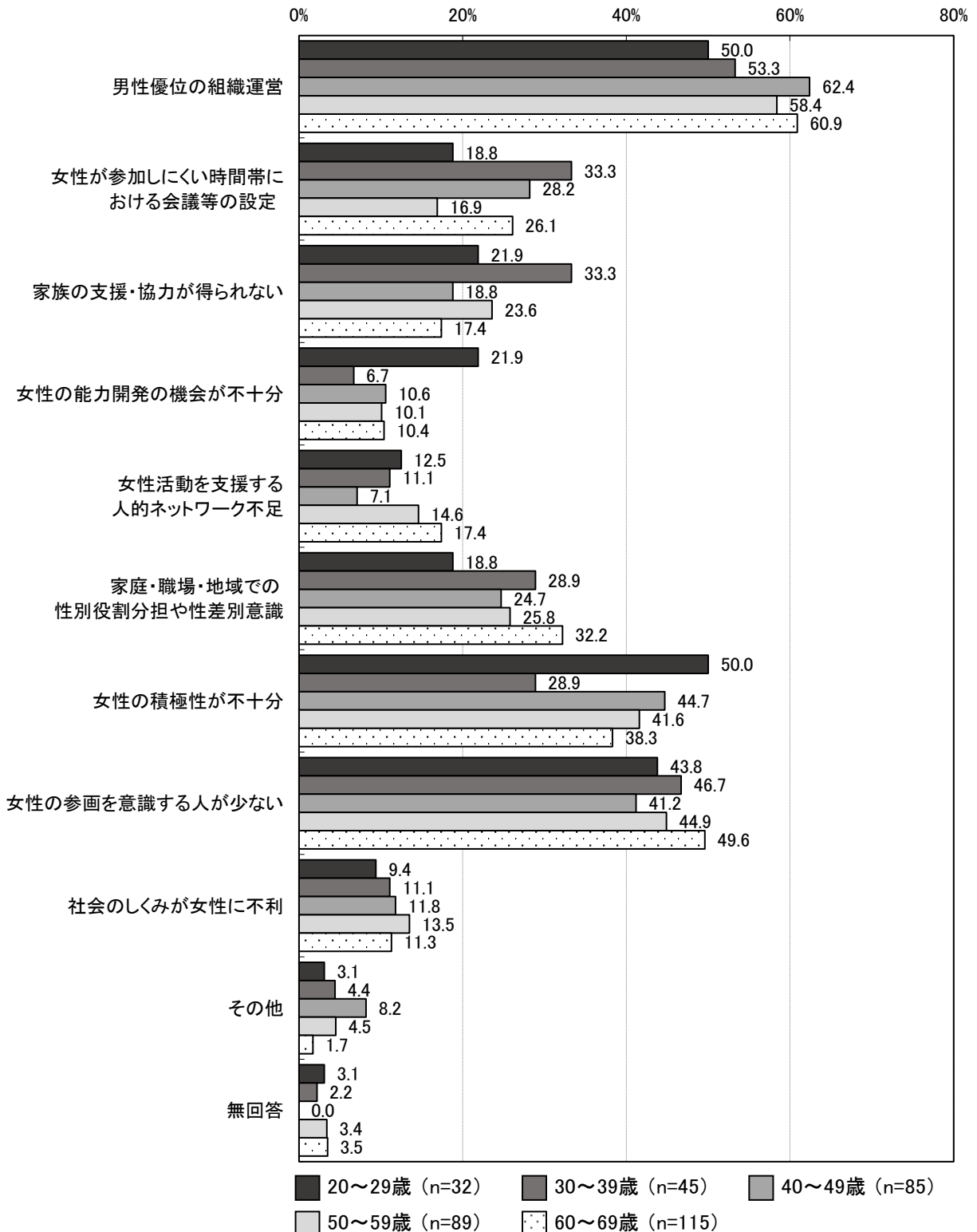
[図表 8-2-1] 企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由（性別）《MA》



(2) 男性・年齢別

年齢別で見ると、いずれの年代も「男性優位の組織運営」の割合が高く、そのうち40代が62.4%と最も高くなっている。次いで「女性の参画を意識する人が少ない」がいずれの年代も40%台となっている。「家族の支援・協力が得られない」、「女性が参加しにくい時間帯における会議等の設定」では30代が、「女性の能力開発の機会が不十分」、「女性の積極性が不十分」では20代がそれぞれ他の年代に比べて高くなっている。

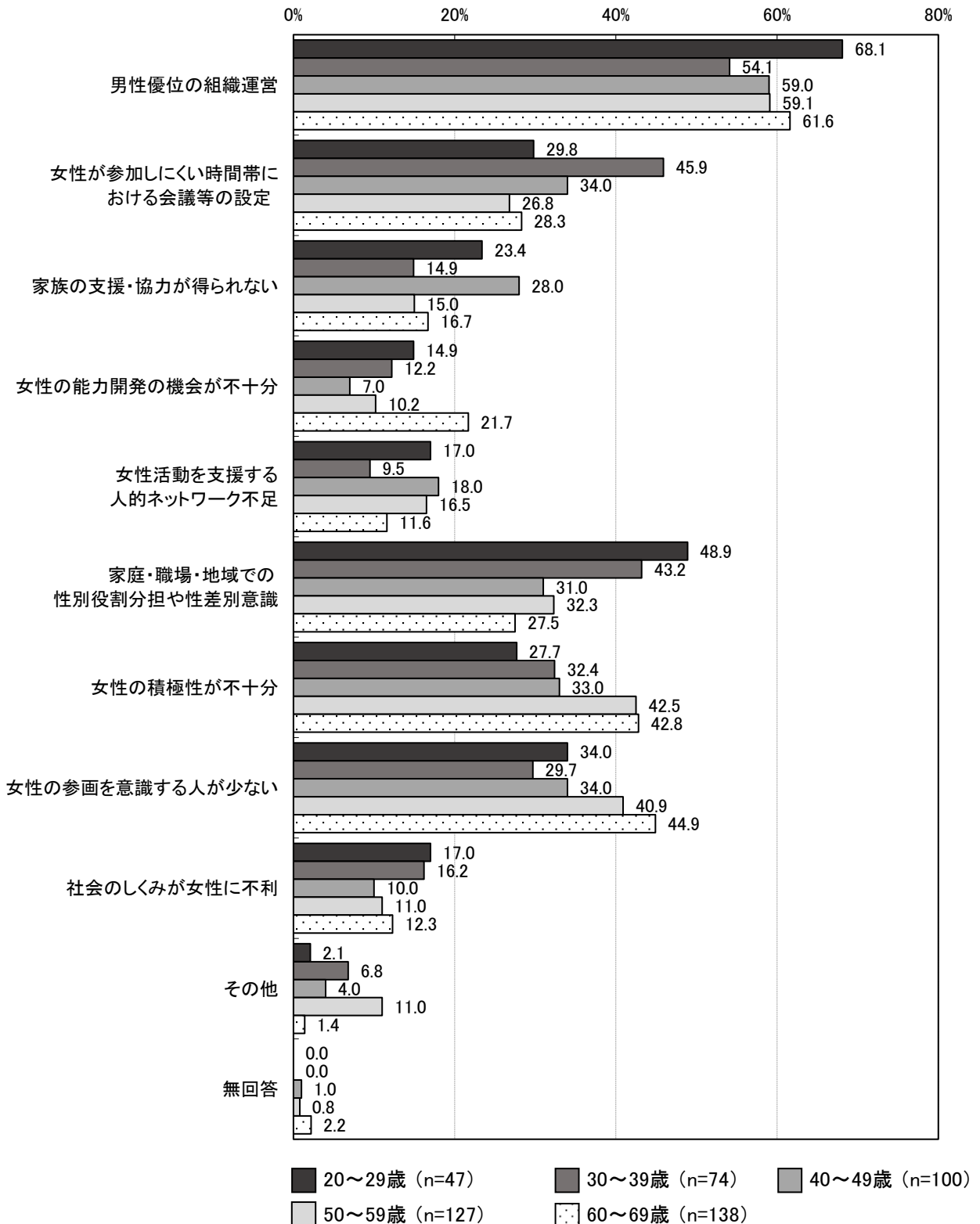
[図表 8-2-2] 企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由（男性・年齢別）《MA》



(3) 女性・年齢別

年齢別で見ると、いずれの年代も「男性優位の組織運営」の割合が最も高く、20代が68.1%と最も高くなっている。「家庭・職場・地域での性別役割分担や性差別意識」においても20代が他の年代に比べて高くなっている。「女性が参加しにくい時間帯における会議等の設定」は30代が、「家族の支援・協力が得られない」は40代が、「女性の積極性が不十分」は60代と50代が、「女性の参画を意識する人が少ない」は60代がそれぞれ他の年代に比べて高くなっている。

[図表 8-2-3] 企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由（女性・年齢別）《MA》



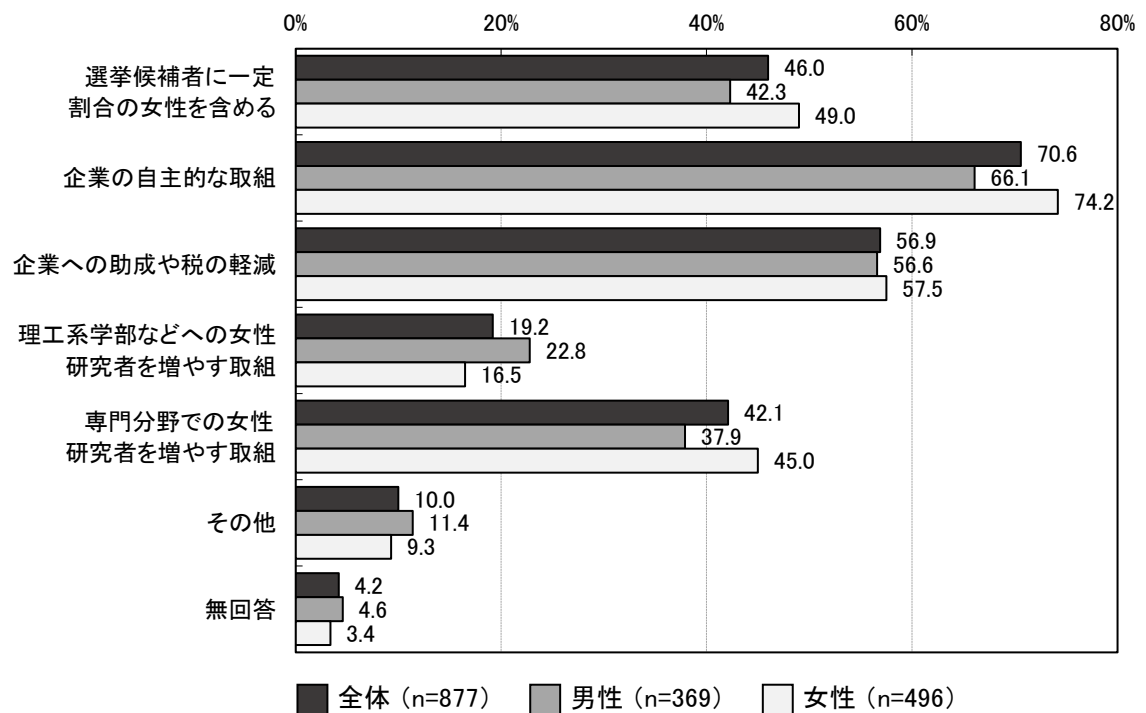
3. 女性の社会進出を進めるために必要なこと【問27】

(1) 全体・性別

全体では「企業の自主的な取組」が70.6%と最も高く、次いで「企業への助成や税の軽減」が56.9%、「選挙候補者に一定割合の女性を含める」が46.0%の順となっている。

性別で見ると、「企業の自主的な取組」で8.1ポイント、「専門分野での女性研究者を増やす取組」で7.1ポイントそれぞれ男性に比べて女性が高くなっている。

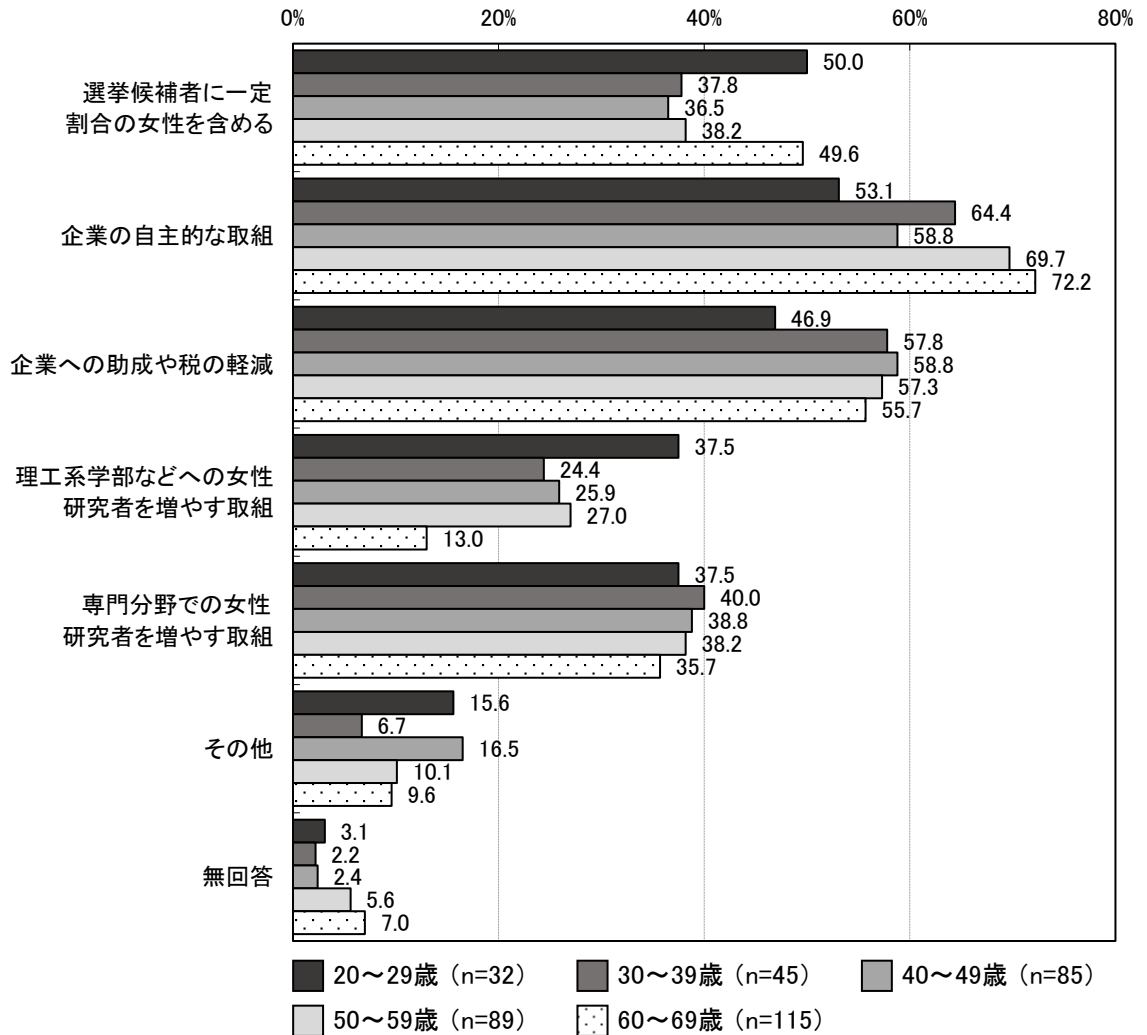
〔図表 8-3-1〕 女性の社会進出を進めるために必要なこと（性別）《MA》



(2) 男性・年齢別

年齢別で見ると、いずれの年代も「企業の自主的な取組」の割合が最も高く、中でも60代が72.2%と最も高くなっている。「選挙候補者に一定割合の女性を含める」は20代、60代が、「理工系学部などへの女性研究者を増やす取組」は20代がそれぞれ他の年代に比べて高くなっている。

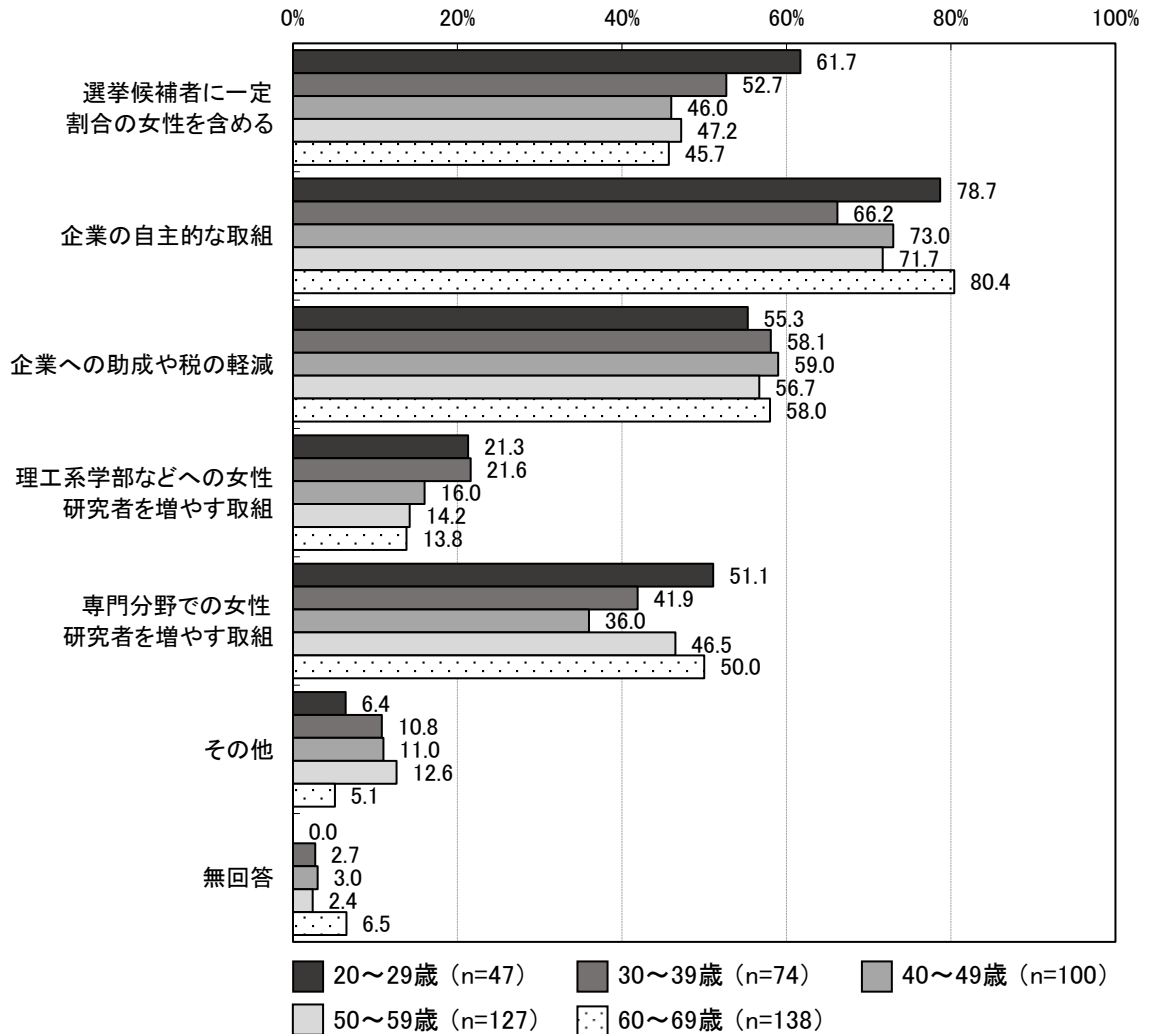
[図表 8-3-2] 女性の社会進出を進めるために必要なこと（男性・年齢別）《MA》



(3) 女性・年齢別

年齢別でみると、いずれの年代も「企業の自主的な取組」の割合が最も高く、そのうち 60 代が 80.4%と最も高くなっている。「選挙候補者に一定割合の女性を含める」は 20 代が、「専門分野での女性研究者を増やす取組」では 20 代、60 代が、「理工系学部などへの女性研究者を増やす取組」では 20 代、30 代がそれぞれ他の年代に比べて高くなっている。

[図表 8-3-3] 女性の社会進出を進めるために必要なこと（女性・年齢別）《M A》



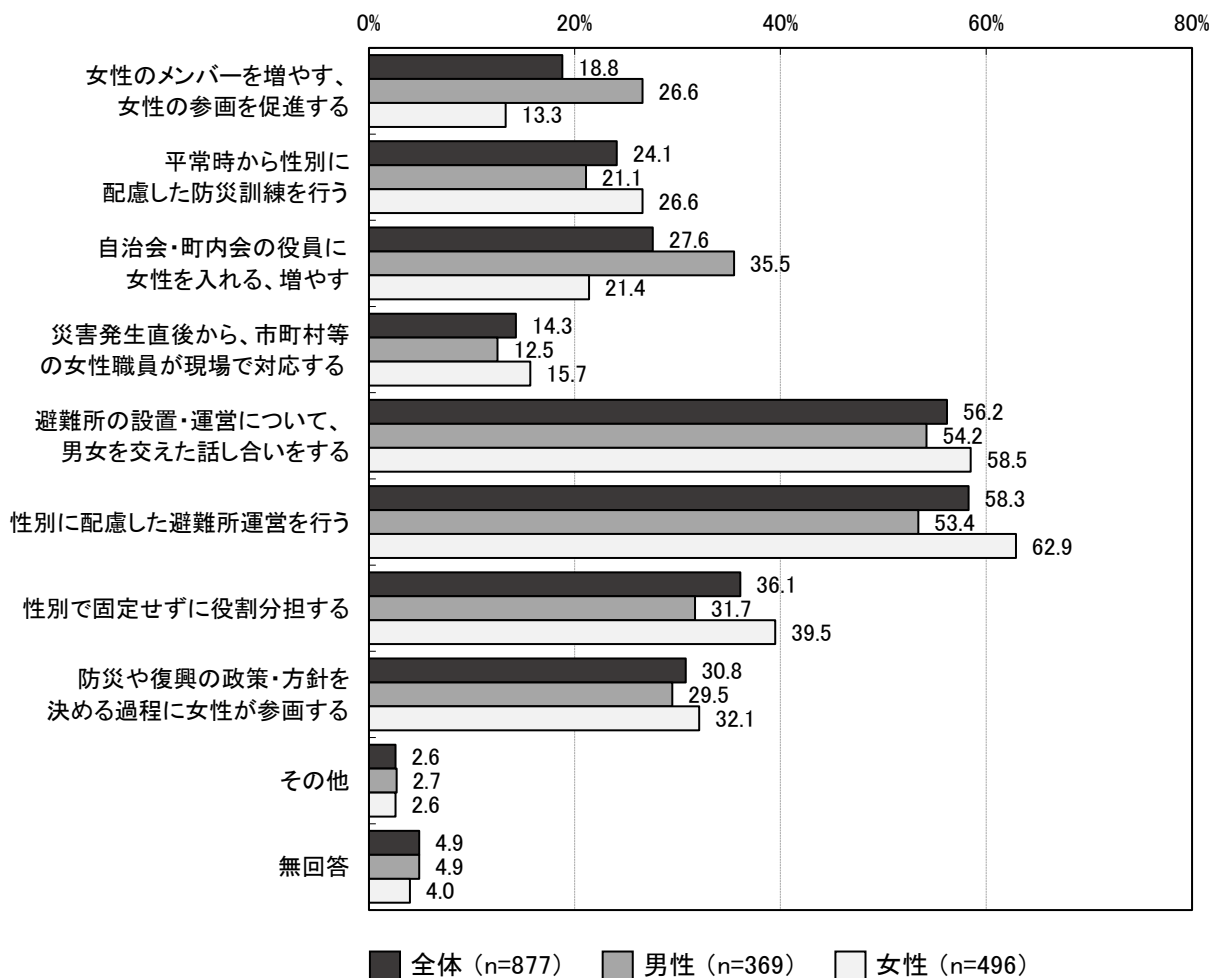
4. 性別に配慮した防災・災害対策・復興対策のために必要なこと【問28】

(1) 全体・性別

全体では「性別に配慮した避難所運営を行う」が58.3%と最も高く、次いで「避難所の設置・運営について、男女を交えた話し合いをする」が56.2%、「性別で固定せずに役割分担する」が36.1%、「防災や復興の政策・方針を決める過程に女性が参画する」が30.8%となっている。

性別で見ると、「自治会・町内会の役員に女性を入れる、増やす」で男性が女性より14.1ポイント、「女性のメンバーを増やす、女性の参画を促進する」で男性が女性より13.3ポイント高くなっている。一方、「性別に配慮した避難所運営を行う」で女性が男性より9.5ポイント、「性別で固定せずに役割分担する」で女性が男性より7.8ポイント高くなっている。

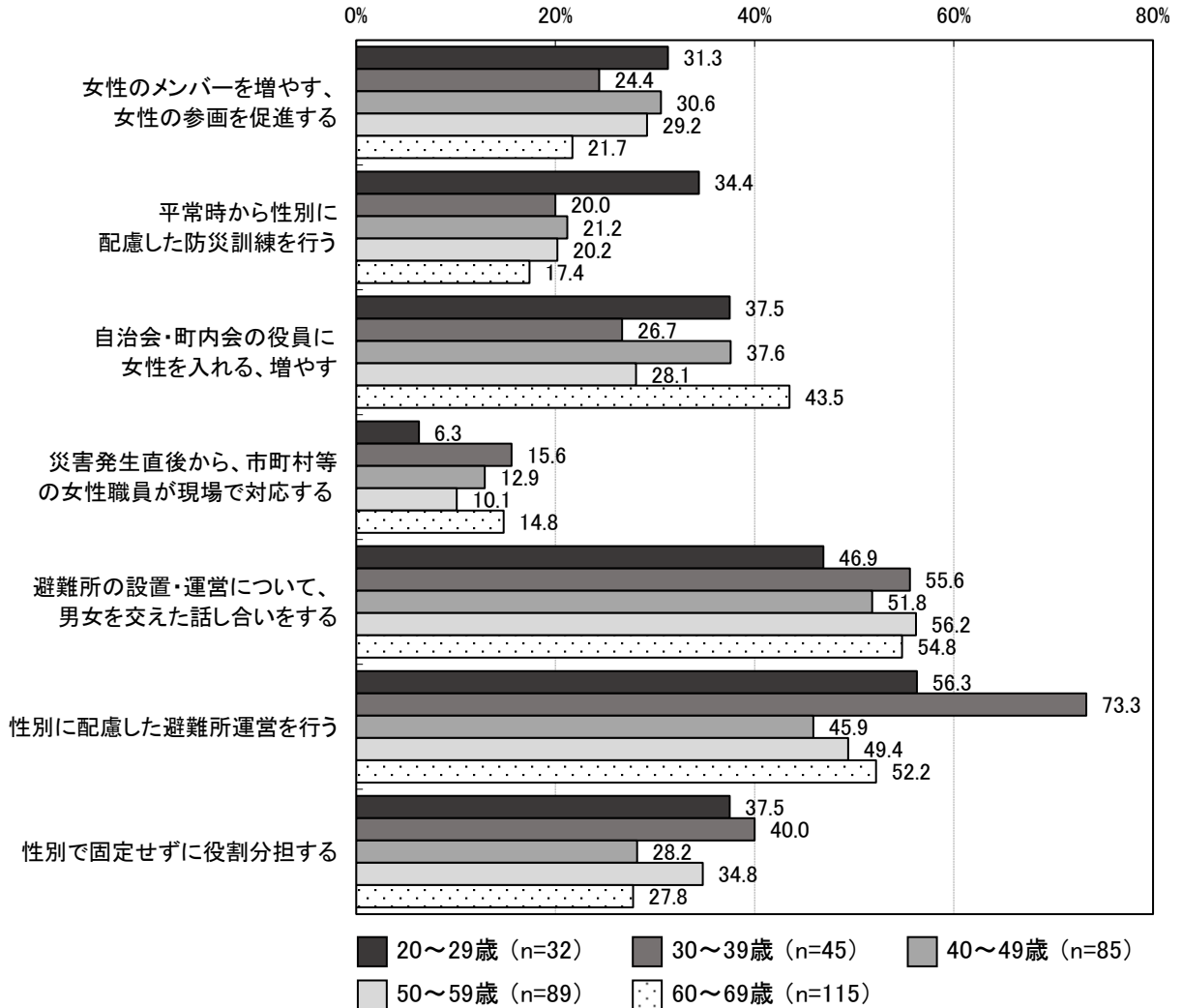
【図表 8-4-1】 性別に配慮した防災・災害対策・復興対策のために必要なこと（全体）《MA》



(2) 男性・年齢別

年齢別で見ると、30代の「性別に配慮した避難所運営を行う」が73.3%と最も高くなっている。また、「平常時から性別に配慮した防災訓練を行う」は20代が、「自治会・町内会の役員に女性を入れる、増やす」は60代がそれぞれ他の年代に比べて高くなっている。

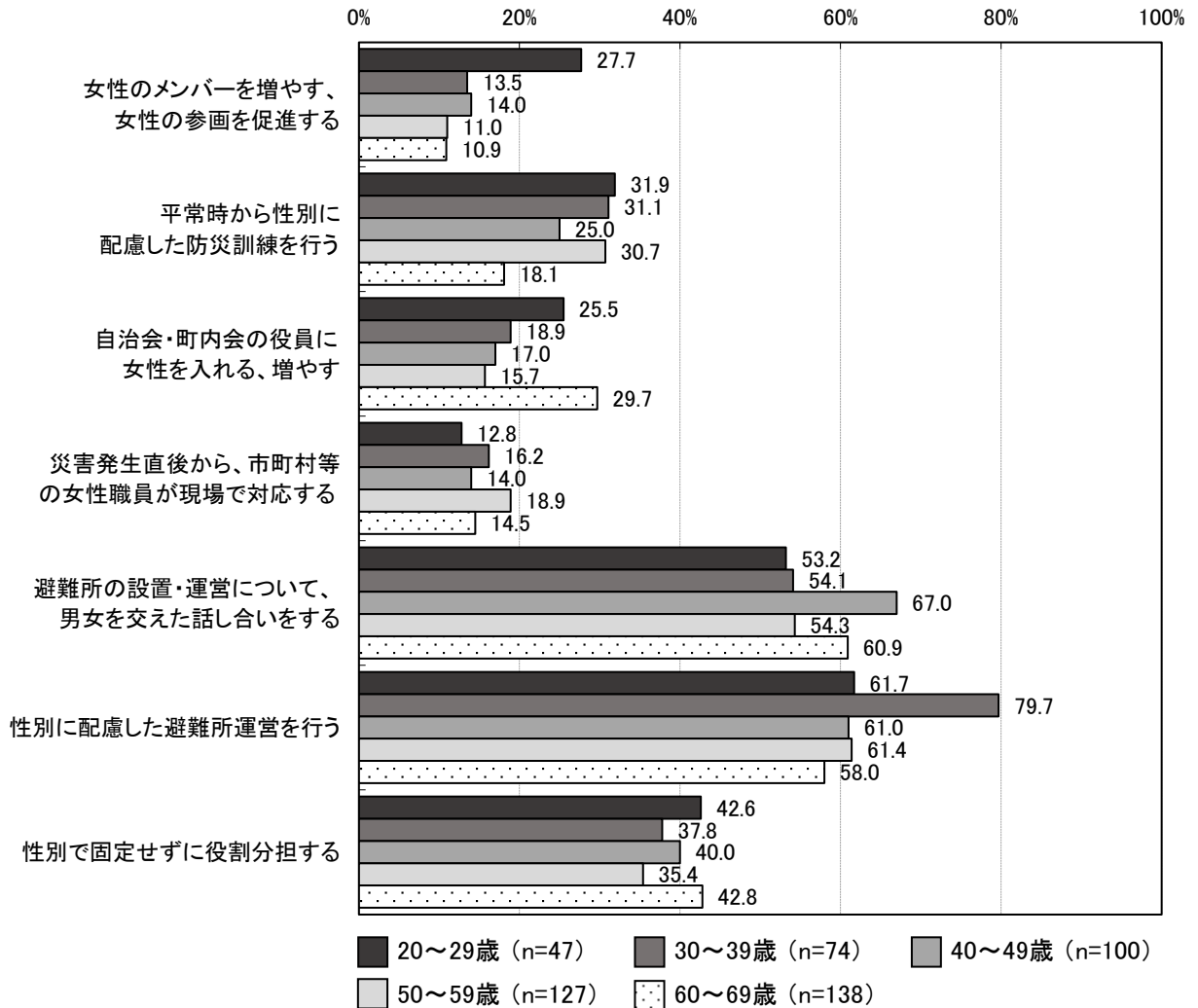
[図表 8-4-2] 性別に配慮した防災・災害対策・復興対策のために必要なこと（男性・年齢別）《M A》



(3) 女性・年齢別

年齢別で見ると、30代の「性別に配慮した避難所運営を行う」が79.7%と最も高くなっている。「女性のメンバーを増やす、女性の参画を促進する」は20代が、「避難所の設置・運営について、男女を交えた話し合いをする」は40代が、「自治会・町内会の役員に女性を入れる、増やす」は60代がそれぞれ他の年代に比べて高くなっている。

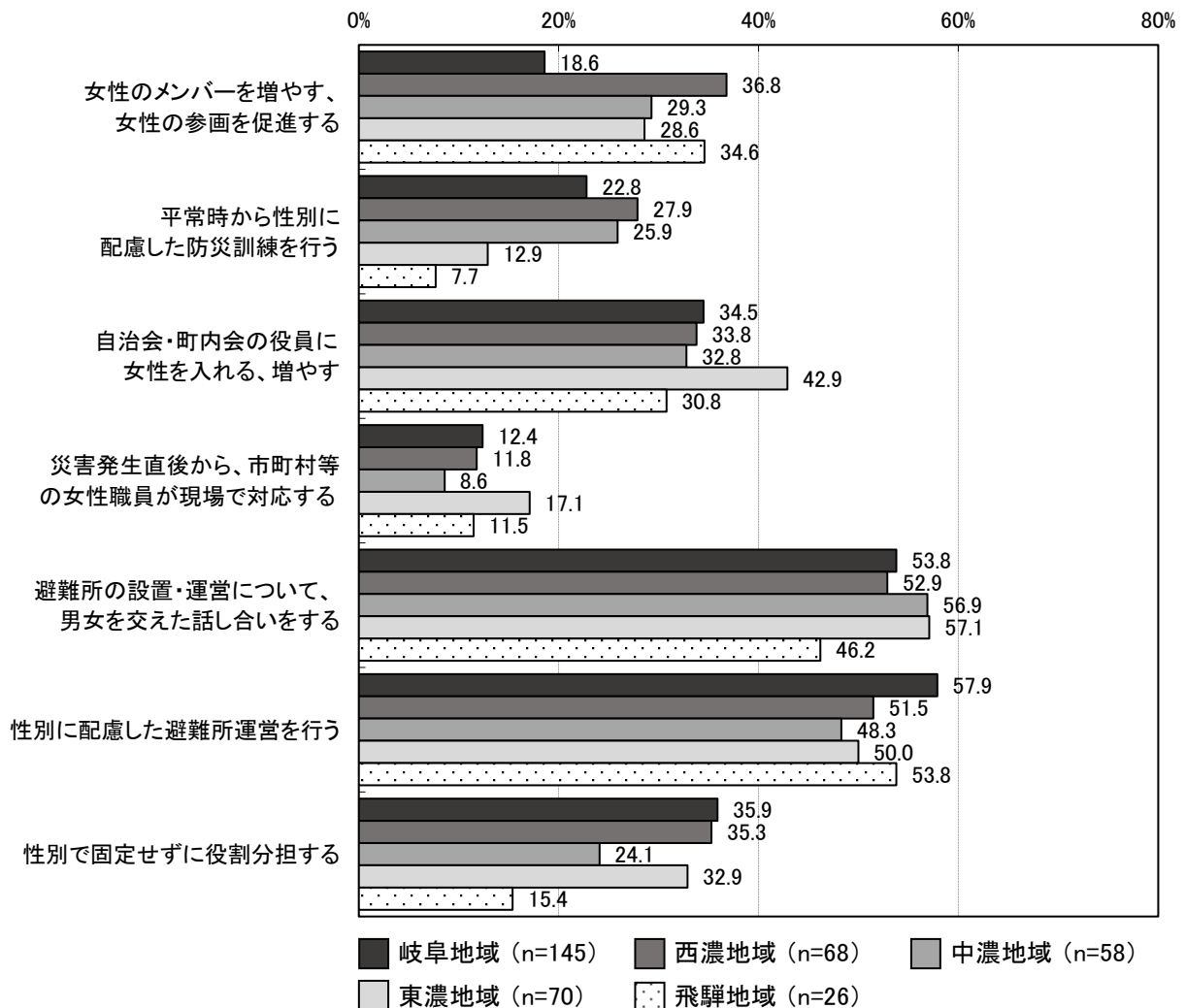
[図表 8-4-3] 性別に配慮した防災・災害対策・復興対策のために必要なこと（女性・年齢別）《MA》



(4) 男性・居住地域別

居住地域別でみると、すべての地域で「避難所の設置・運営について、男女を交えた話し合いをする」、「性別に配慮した避難所運営を行う」が高くなっている。東濃地域では「自治会・町内会の役員に女性を入れる、増やす」が他の地域に比べて高くなっている。一方で、岐阜地域では「女性のメンバーを増やす、女性の参画を促進する」、中濃地域では「性別で固定せずに役割分担する」、東濃地域では「平常時から性別に配慮した防災訓練を行う」、飛騨地域では「平常時から性別に配慮した防災訓練を行う」、「性別で固定せずに役割分担する」が他の地域に比べて低くなっている。

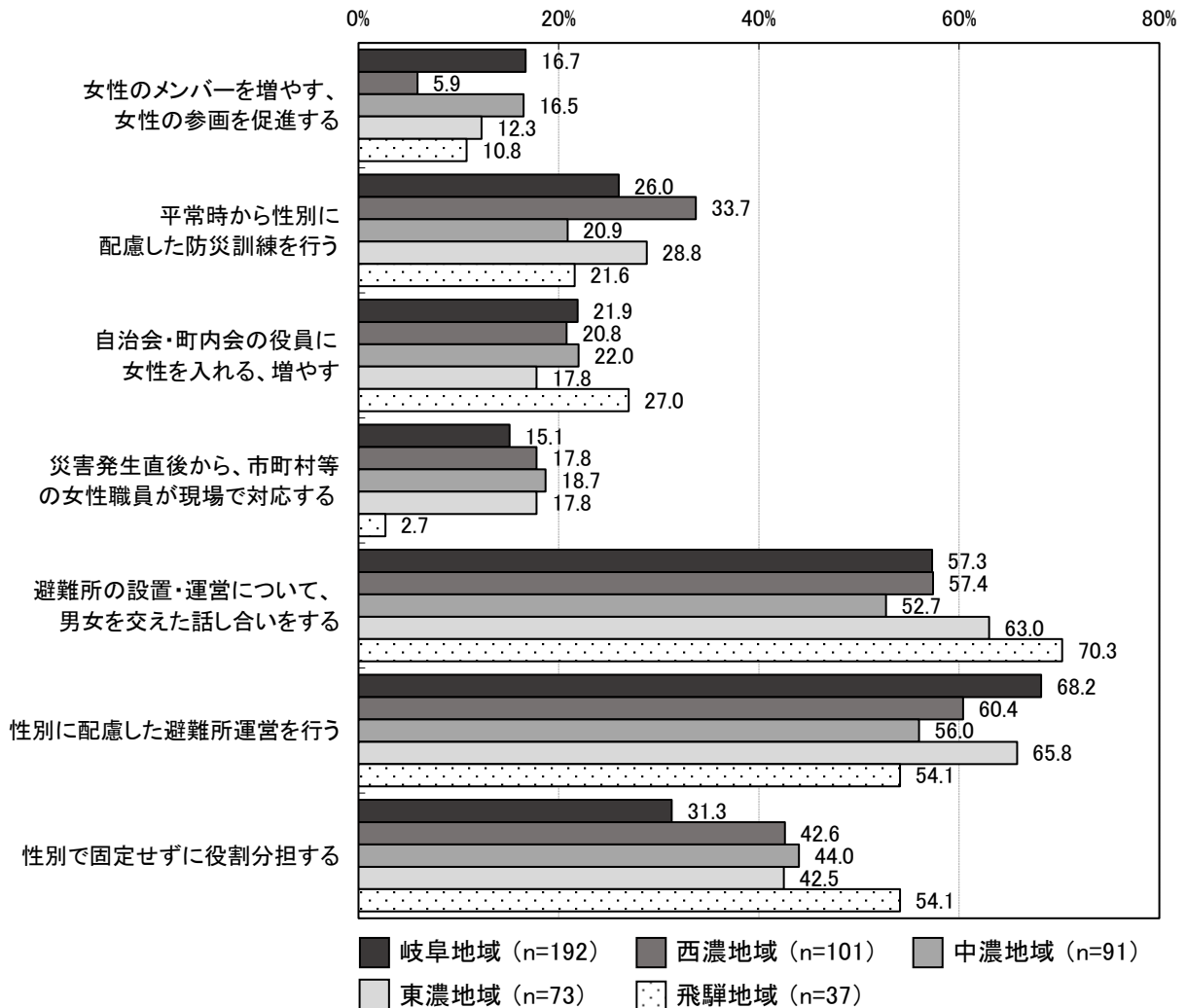
[図表 8-4-4] 性別に配慮した防災・災害対策・復興対策のために必要なこと（男性・居住地域別）《M A》



(5) 女性・居住地域別

居住地域別でみると、すべての地域で「避難所の設置・運営について、男女を交えた話し合いをする」、「性別に配慮した避難所運営を行う」が高くなっている。また、飛騨地域では「性別で固定せずに役割分担する」が他の地域に比べて高くなっている。一方で、西濃地域では「女性のメンバーを増やす、女性の参画を促進する」、飛騨地域では「災害発生直後から、市町村等の女性職員が現場で対応する」が他の地域に比べて低くなっている。

[図表 8-4-5] 性別に配慮した防災・災害対策・復興対策のために必要なこと（女性・居住地域）〈MA〉



第九章 岐阜県の男女共同参画社会づくりの推進施策について

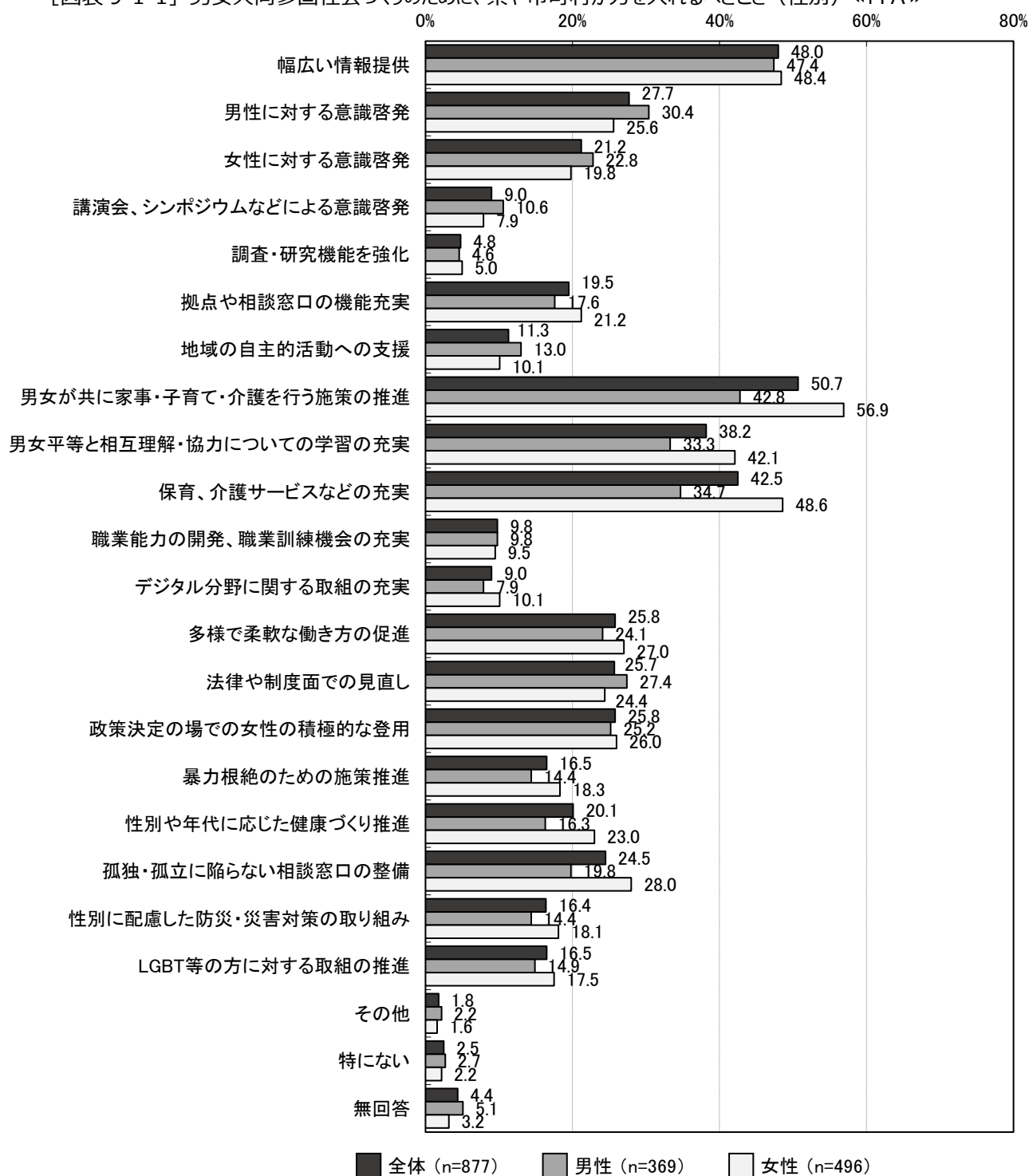
1. 男女共同参画社会づくりのために、県や市町村が力を入れていくべきこと【問29】

(1) 全体・性別

全体では「男女が共に家事・子育て・介護を行う施策の推進」が50.7%と最も高く、次いで「幅広い情報提供」が48.0%、「保育、介護サービスなどの充実」が42.5%、「男女平等と相互理解・協力についての学習の充実」が38.2%の順となっている。

性別で見ると、女性は男性に比べて「男女が共に家事・子育て・介護を行う施策の推進」、「男女平等と相互理解・協力についての学習の充実」、「保育、介護サービスなどの充実」、「孤独・孤立に陥らない相談窓口の整備」の割合が高くなっている。

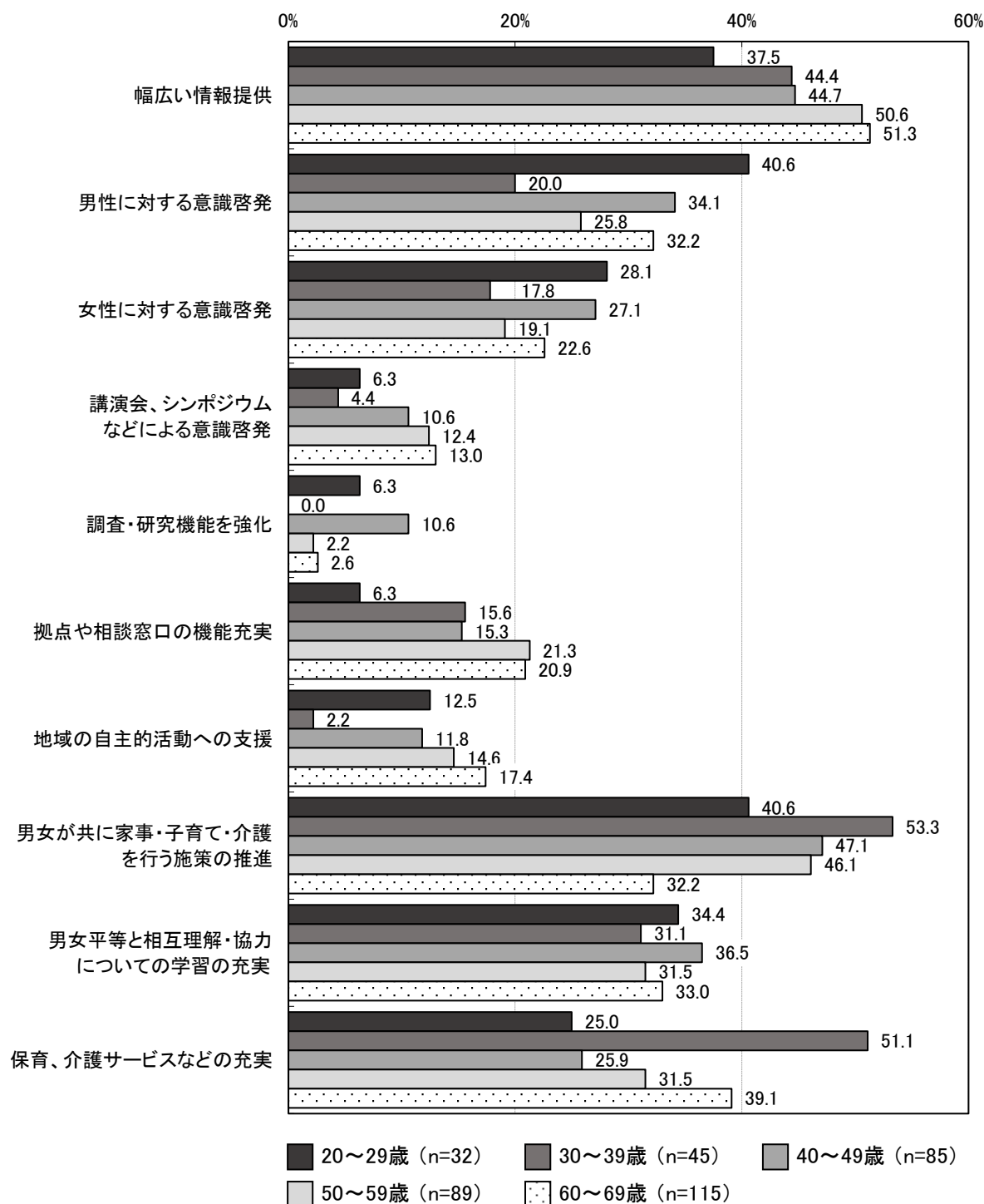
【図表 9-1-1】 男女共同参画社会づくりのために、県や市町村が力を入れるべきこと（性別）《MA》



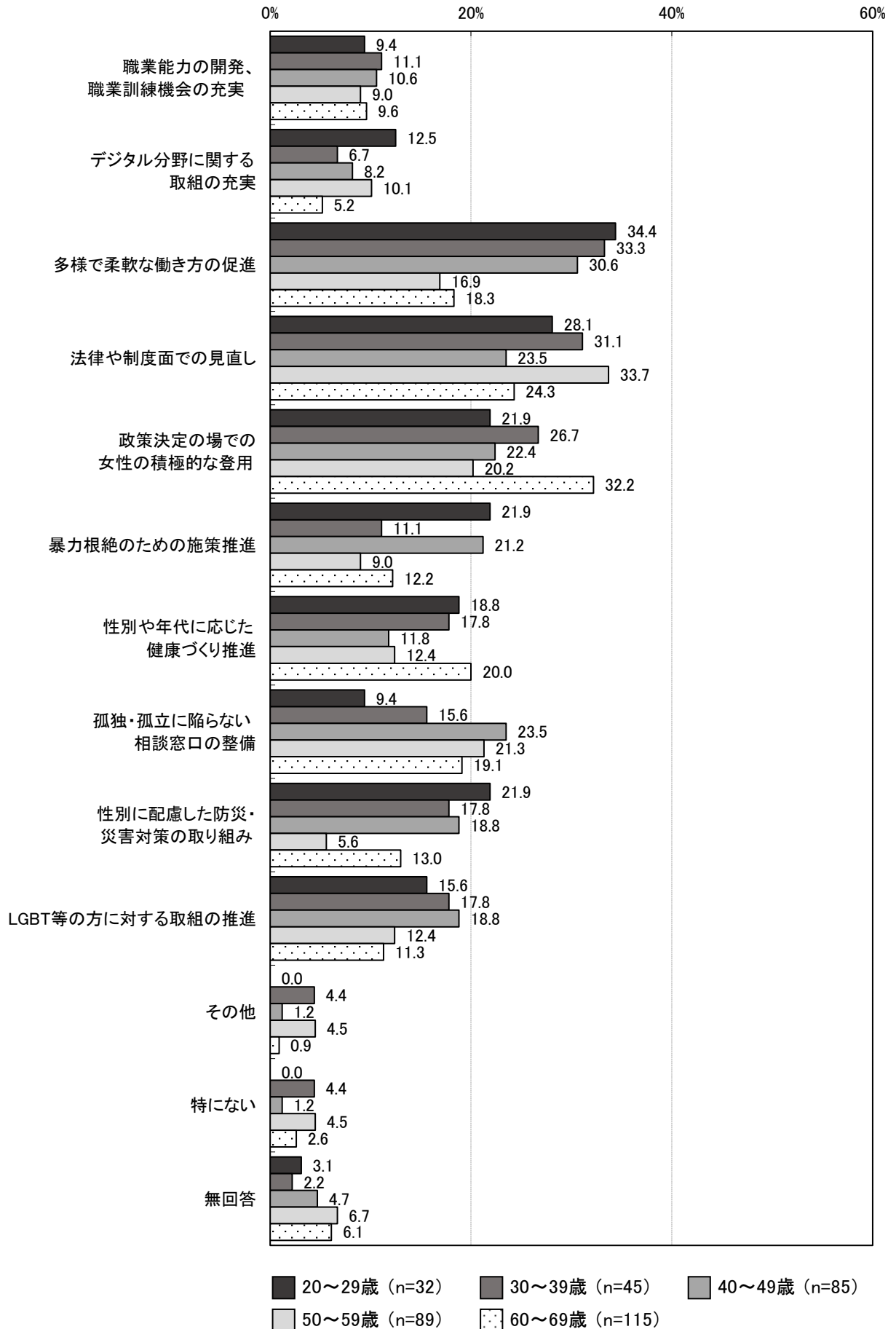
(2) 男性・年齢別

年齢別でみると、50代と60代を除くいずれの年代も「男女が共に家事・子育て・介護を行う施策の推進」の割合が高く、そのうち30代が53.3%と最も高くなっている。「幅広い情報提供」は年代が上がるにつれて高くなっている。「幅広い情報提供」は50代と60代が、「男性に対する意識啓発」は20代が、「女性に対する意識啓発」は20代と40代が、「拠点や相談窓口の機能充実」は50代と60代が、「保育、介護サービスなどの充実」は30代が、「政策決定の場での女性の積極的な登用」は60代が、「暴力根絶のための施策推進」は20代と40代が、それぞれ他の年代に比べて高くなっている。

【図表 9-1-2①】 男女共同参画社会づくりのために、県や市町村が力を入れるべきこと（男性・年齢別）《MA》



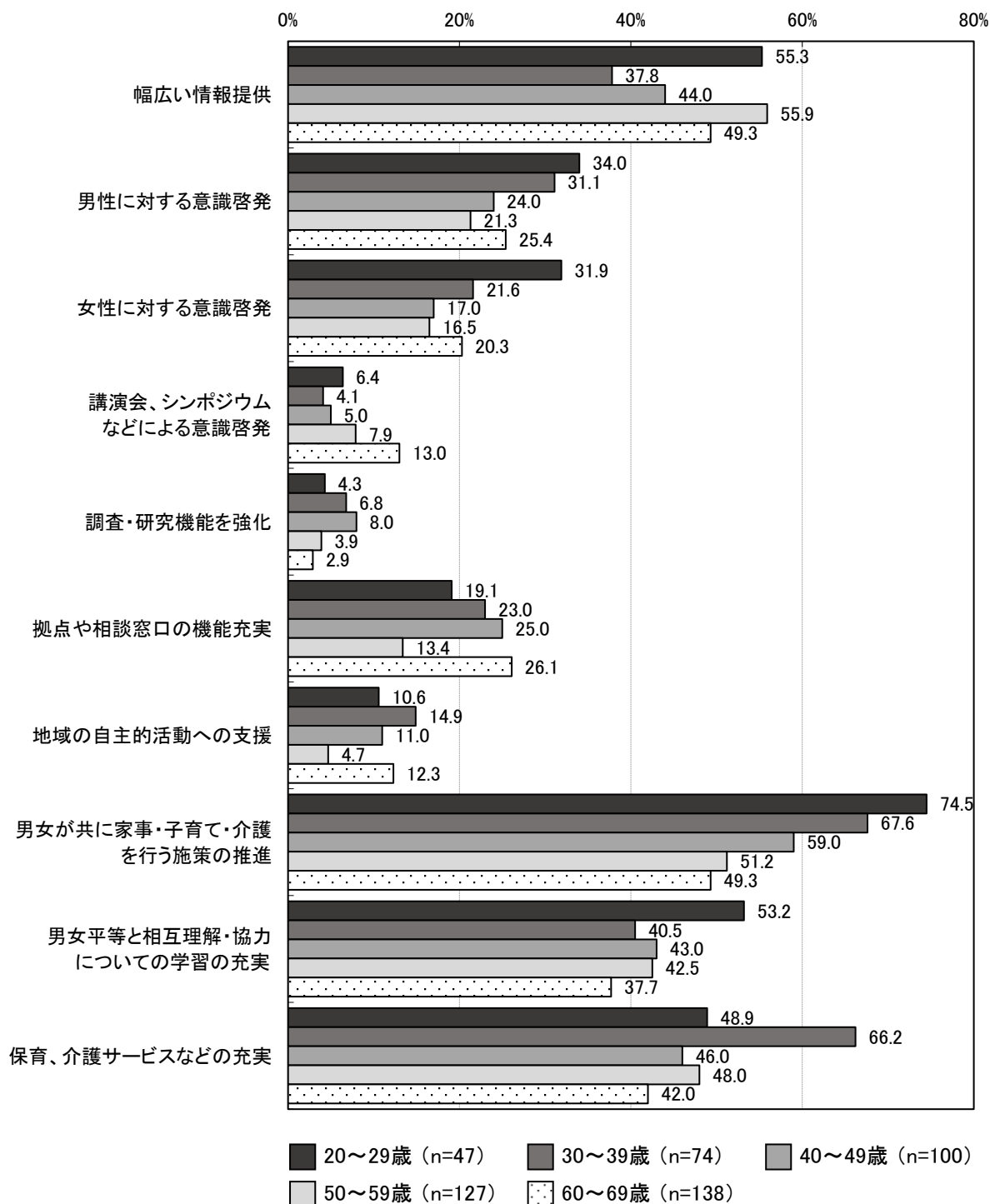
[図表 9-1-2②] 男女共同参画社会づくりのために、県や市町村が力を入れるべきこと（男性・年齢別） <<MA>>



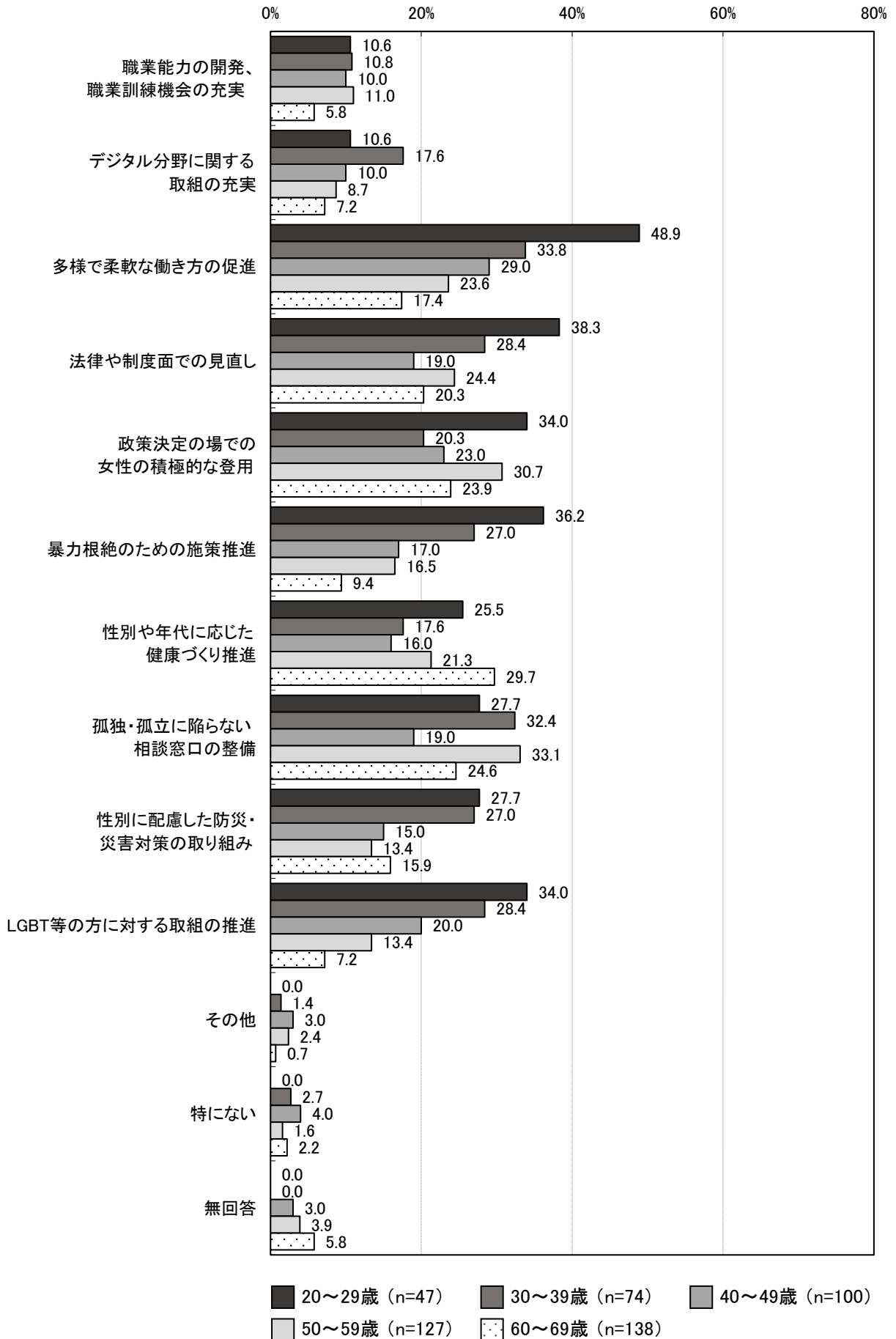
(3) 女性・年齢別

年齢別で見ると、50代を除くいずれの年代も「男女が共に家事・子育て・介護を行う施策の推進」の割合が高く、そのうち20代が最も高く74.5%となっている。「保育、介護サービスなどの充実」、「デジタル分野に関する取組の充実」は30代が、「女性に対する意識啓発」、「男女平等と相互理解・協力についての学習の充実」、「多様で柔軟な働き方の促進」、「法律や制度面での見直し」、「暴力根絶のための施策推進」は20代が、それぞれ他の年代に比べて高くなっている。「男女が共に家事・子育て・介護を行う施策の推進」、「多様で柔軟な働き方の促進」、「暴力根絶のための施策推進」、「LGBT等の方に対する取組の推進」では、年代が下がるにつれて高くなっている。

[図表 9-1-3①] 男女共同参画社会づくりのために、県や市町村が力を入れるべきこと（女性・年齢別）《MA》



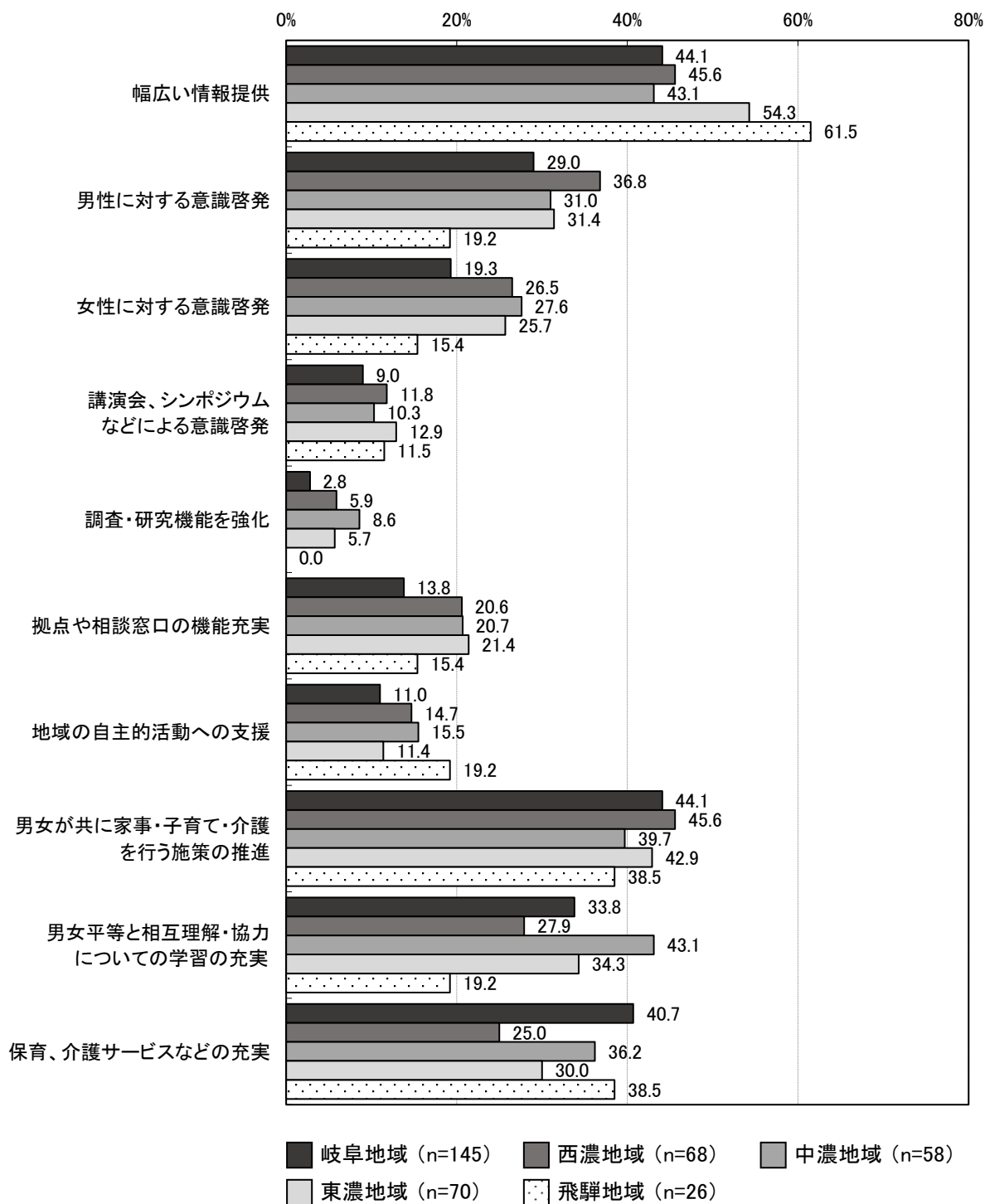
[図表 9-1-3②] 男女共同参画社会づくりのために、県や市町村が力を入れるべきこと（女性・年齢別）《M A》



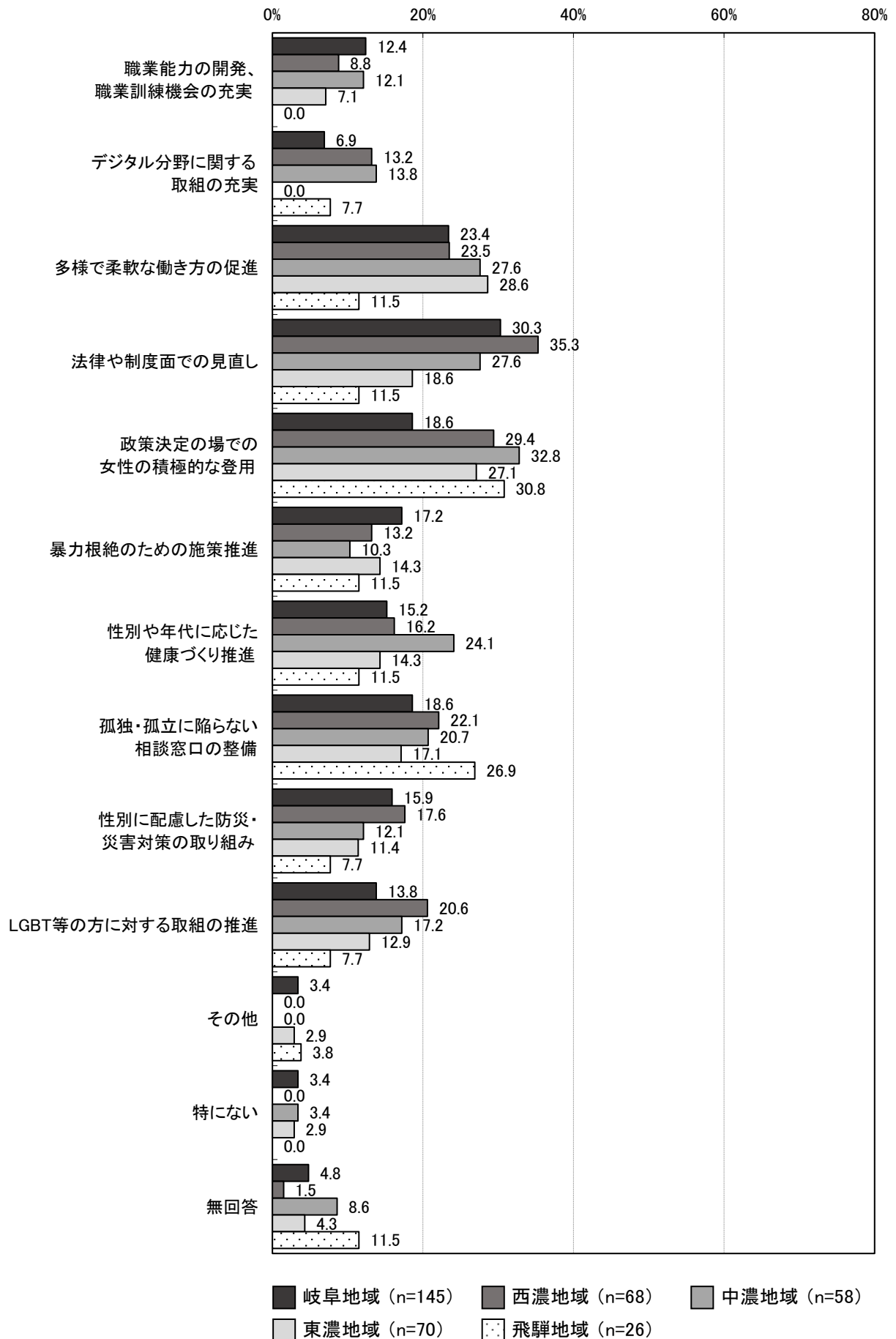
(4) 男性・居住地域別

居住地域別でみると、いずれの地域も「幅広い情報提供」の割合が高く、そのうち飛騨地域が61.5%と最も高くなっている。岐阜地域と西濃地域では「幅広い情報提供」と「男女が共に家事・子育て・介護を行う施策の推進」、中濃地域では「幅広い情報提供」と「男女平等と相互理解・協力についての学習の充実」が相半ばしている。次いで岐阜地域では「保育、介護サービスなどの充実」が高く、西濃地域では「男性に対する意識啓発」が高くなっている。中濃地域と東濃地方では「男女が共に家事・子育て・介護を行う施策の推進」が高く、飛騨地域では「男女が共に家事・子育て・介護を行う施策の推進」と「保育、介護サービスなどの充実」がそれぞれ高くなっている。

[図表 9-1-4①] 男女共同参画社会づくりのために、県や市町村が力を入れるべきこと (男性・居住地域別) «MA»



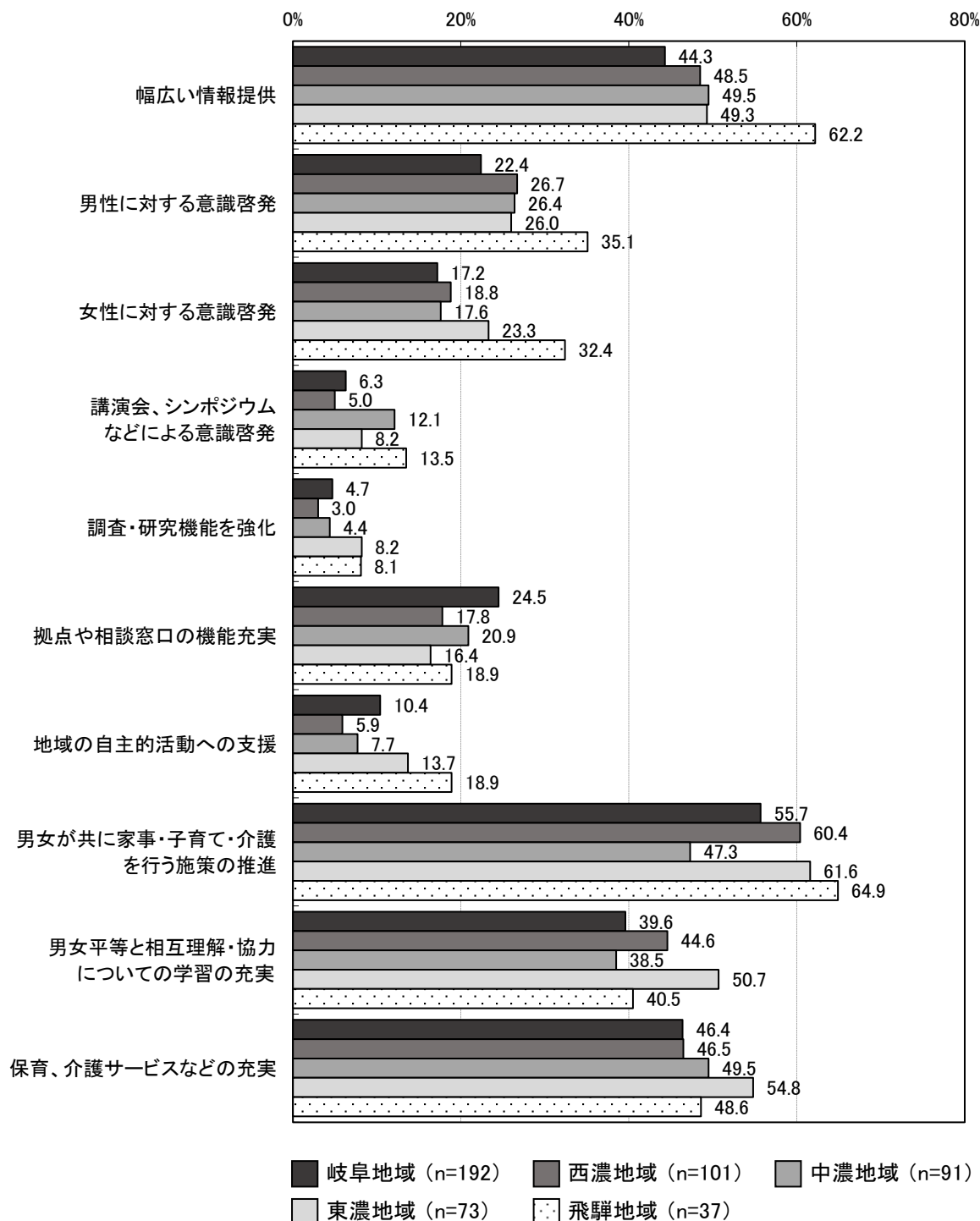
[図表 9-1-4②] 男女共同参画社会づくりのために、県や市町村が力を入れるべきこと（男性・居住地域別）「MA」



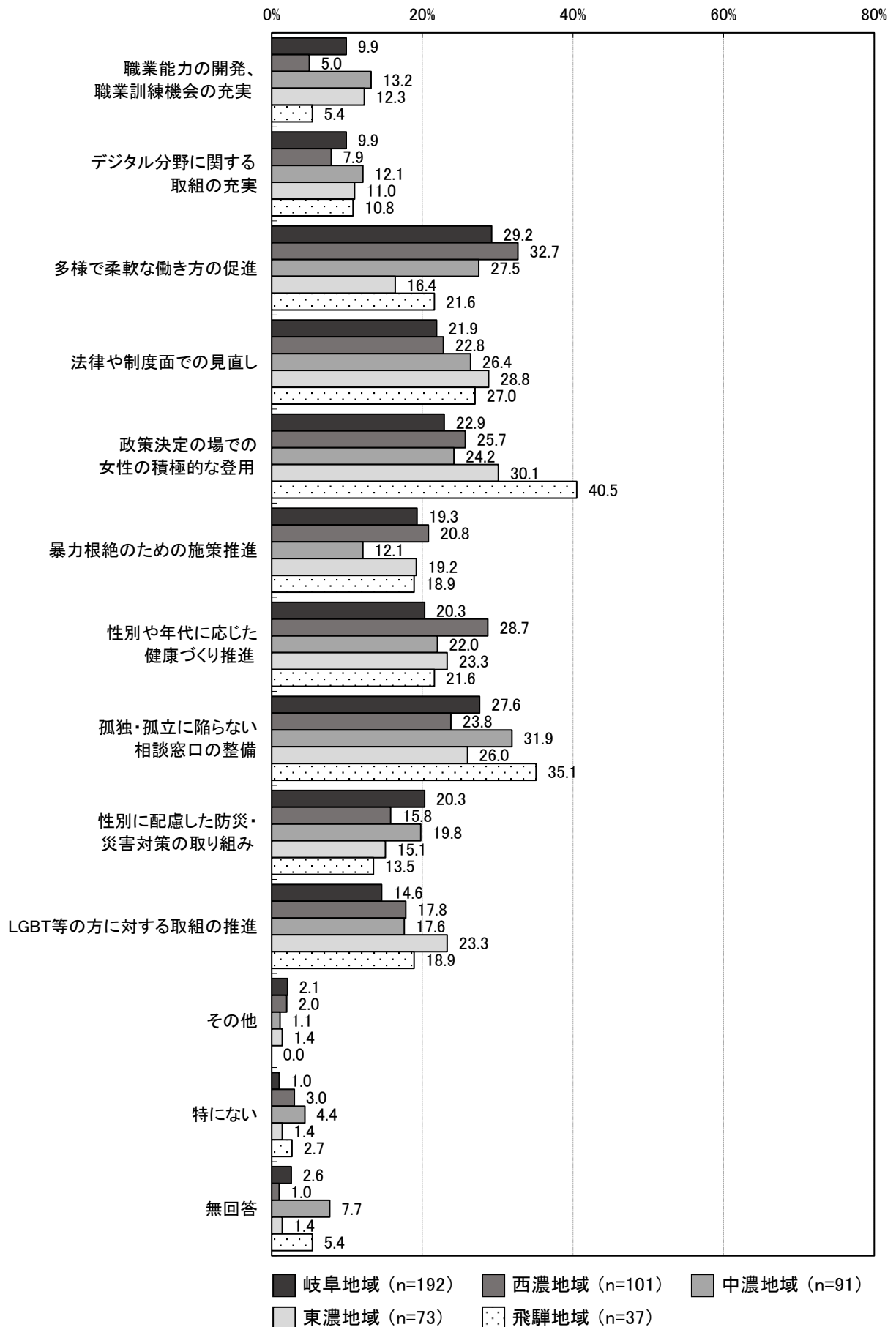
(5) 女性・居住地域別

居住地域別でみると、中濃地域を除くいずれの地域も「男女が共に家事・子育て・介護を行う施策の推進」の割合が高く、そのうち飛騨地域が64.9%と最も高くなっている。中濃地域では「幅広い情報提供」と「保育、介護サービスなどの充実」が相半ばしている。西濃地域では「性別や年齢に応じた健康づくり推進」、東濃地域では「男女平等と相互理解・協力についての学習の充実」と「保育、介護サービスなどの充実」、飛騨地域では「幅広い情報提供」、「男性に対する意識啓発」、「女性に対する意識啓発」と「政策決定の場での女性の積極的な登用」が他の地域に比べて高くなっている。

[図表 9-1-5①] 男女共同参画社会づくりのために、県や市町村が力を入れるべきこと（女性・居住地域別）《MA》



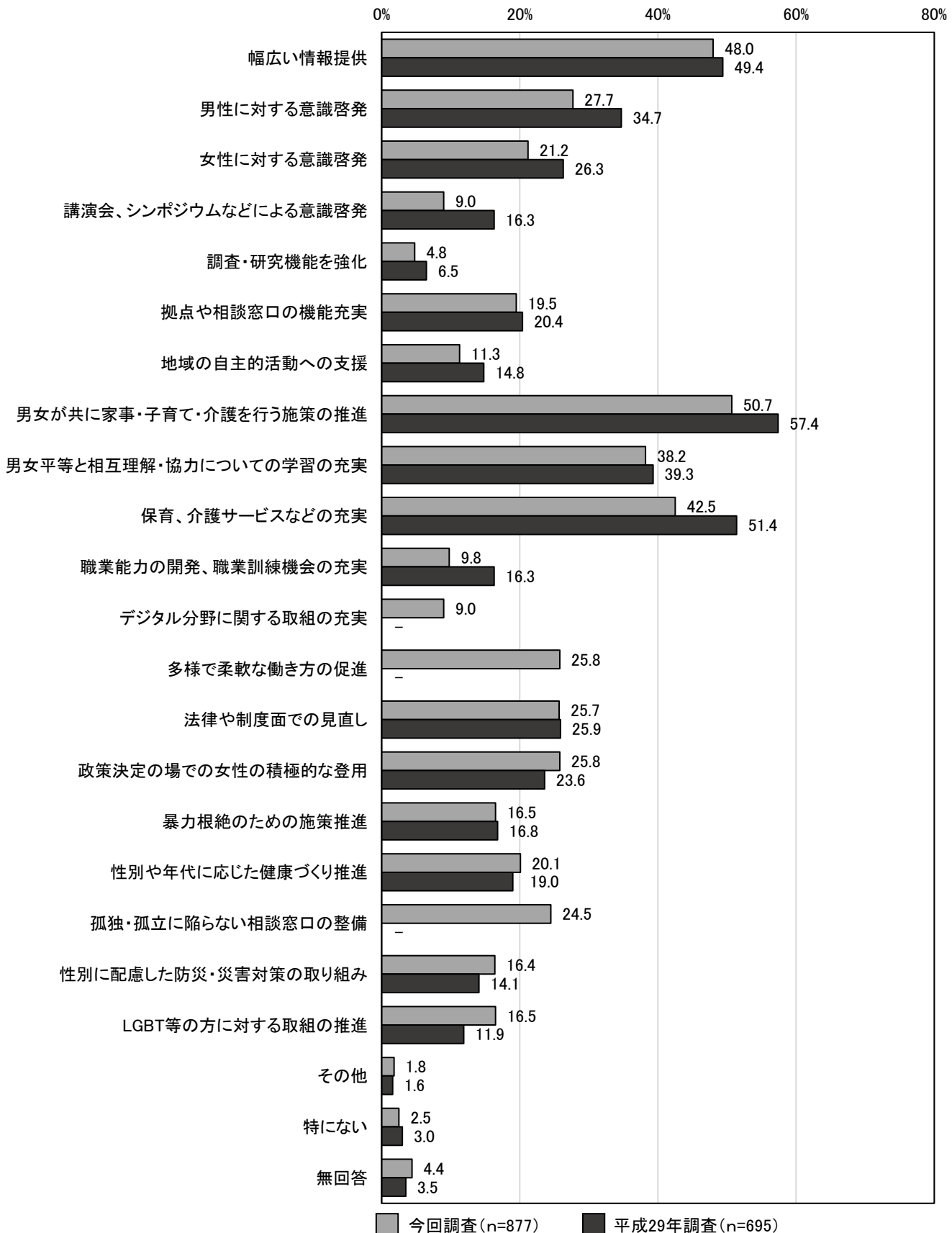
[図表 9-1-5②] 男女共同参画社会づくりのために、県や市町村が力を入れるべきこと（女性・居住地域別）《MA》



(6) 前回調査との比較

前回調査と比較すると、「LGBT等の方に対する取組の推進」では、前回と比べて4.6ポイント高くなっている。一方、「保育、介護サービスなどの充実」、「男性に対する意識啓発」ではそれぞれ8.9ポイント、7.0ポイント低くなっている。

[図表 9-1-6] 男女共同参画社会づくりのために、県や市町村が力を入れるべきこと（前回調査との比較）《MA》



2. 自由意見

(1) 女性の進出を支える条件について

- ◆女性の社会進出は大切な事だと思うし、女性目線の考えも取り入れられる事も必要だと思う。しかし、男性だから女性だからでもなく、個性や特性がそれぞれ違うので固定しすぎるのはかえって問題が起きる気がする。(50代 女性)
- ◆会社では、女性も部長、課長となり、高収入を得ているが、ほとんどの方が独身である。出世すると女性の場合、結婚しにくいようだ。私は家族の協力のおかげで今があるが、夫の家事協力無しでは働けない。(50代 女性)
- ◆育児に関して(特に産後)ワンオペになるのを防止するために助産師、保健師によるサポートをもっと充実させてほしい。また、一時預かりの無償化(公的なもの)など費用面のサポートもしてほしい。育休を取得した経験があるが、まだ職場の配慮が十分でなく、まとまった期間を取りづらいつと感じた。もっと義務化を徹底してほしい。(30代 男性)
- ◆女性がこれまで担っていた家事・育児等を男性側もするとなると、男性側にも負担がかかることになると思う。仕事の忙しさ・形態にもよるが、毎日遅くまで勤務していると、家庭での時間は減る。まずは働き方を柔軟に、育休でまとまって休みをとることよりも、男女ともに育児・介護・その他家庭の事情に合わせて勤務できる体制があると良いと思う。(20代 女性)
- ◆男女の平等と相互理解・協力についてはかなり浸透していると感じる。男性側の意見としては、分け隔てなくステップアップを望むが、いざとなると女性側に積極性を感じないことが多い。背景に子育て・介護などに絡む問題がある事も十分に考えられるため、少しでもクリアにできる体制を検討することが必要だと思う。(40代 男性)
- ◆未就学までの子供に対しては保育環境が整っているのに、学校の体制が昭和のまま進化していない。「働け」と政府は助成金を出したりするわりに学童保育がお粗末すぎる。すぐに学校は親に「学校に來い」という。令和の時代、親は家にいない。子供1人で家に置いておけるほど世の中は安全ではない。とにかくこの体制では働きたくても思う存分働けない。何とかしてほしい。(40代 女性)
- ◆最近、育休をとる男性が増えたが、内容を聞くと無給だったり、代務者がいなくなったりするので、制度が未確立だと感じる人が多い。育休中も賃金が払われるべき。(60代 女性)
- ◆男女雇用機会均等法が本当に実現しないかぎり、100年たっても何も変わらない。男女の賃金格差がなくなったら、男性の育休も取りやすく、周りも協力的になるかもしれない。(無回答 女性)
- ◆男性の育休について、取れるようにはすべきだが、「必ず取るべき」という風潮には疑問がある。各家庭で事情は違うし、例えば定時に毎日帰るだけで十分な場合もあるのでは。それぞれの希望に応じて取得したり、勤務時間を考慮したりできるのが当たり前の社会になってほしい。(40代 男性)
- ◆現在、年老いた主人の両親を見ながら仕事をしている。主人は定年退職したが、65才まで年金がもらえないため、新たな場所で働いている。介護となるとどうしても女性がやるものとの考えがあり、なかなか主人の協力が得られないのが悩み。(50代 女性)
- ◆ワークライフバランスが当たり前の社会になってほしい。日本は家庭より仕事を優先してしまう(周りの目を気にして)傾向にあると思う。多様な生き方を安心してできる社会になってほしい。(40代 女性)
- ◆仕事をする母(フルタイム)が働きやすいように、何かあった時はすぐ休めるようになるとよい。フレックスタイムで働きやすくしてほしい。(30代 女性)

- ◆行政の取り組みや教育による啓発も重要だが、やはり企業への働きかけ（中小企業だけでなく大企業の地元事業所にも）や参画が必要と思う。（50代 男性）
- ◆女性には出産があるので男女平等では無い。子育てをすると10年位は自分の身が自由にならない。40才を超えると就職先も限られる。男性と同じ土俵には立てない。30才で1才の子を持つ娘は、キャリアを取ると2人目は無理と言っている。時々その子供が発熱の時は東京まで新幹線で行き世話をしている。病児保育が充実していれば良いのと思う。（60代 女性）
- ◆子育て環境の充実は必須。また、どこの会社も残業ありきの体制（給料、仕事量）となっており、改善が必要だと考える。（30代 男性）

（2）意識改革・教育について

- ◆高齢者の方の考え方を変える必要がある。（40代 男性）
- ◆周辺理解と賃金格差、男女の役割分担を考えて何でも平等というのではなく、適材適所で誰もが個人の得意を生かせる働き方、能力を引き出す啓発セミナーがあるといい。（50代 女性）
- ◆特に年齢の高い方々には男女の差別意識が強く、育児、介護、社会的にも意識を変える事は難しいと感じる。（無回答）
- ◆男性、女性ではなく、人としての考え方や教育が大切だと思う。（40代 女性）
- ◆会社が男尊女卑の考えが強く、ハラスメント教育も進んでいない。特に40代以降の男性は無意識にセクハラをしている傾向がある。会社でのハラスメント教育を義務化して欲しい。（20代 女性）
- ◆現状の社会参画は、男性が主になっている。根底には男女の性意識・社会参画への意識低下があると思う。学校教育・地域活動の中で、性区別を無くし、1人ひとりが参画していくよう意識付けが必要。その為に、強制的に女性を入れていく事も必要と考える。（60代 男性）
- ◆それぞれの得意分野で楽しく、ストレス少なく、改善の工夫もしていけたら幸い。生涯思いどおりに生活はできないもの。苦しい時期に支え合える社会、家庭を築くため、ケンカしてでも苦しいことを打ち明けられることが必要。そのためには、幼少期からの心の教育、性教育、LGBT等正しく照れず、伝えていくことが個々の人間力につながると思う。（40代 女性）
- ◆私の周りでも男女共同参画社会について、まだまだ知らない人が多い。全員に浸透していくと良いと思う。（60代 女性）
- ◆特に学生に対する男女共同参画社会に関する教育を充実させるのが大事だと思う。（20代 男性）
- ◆地方へ行くほど、高齢者ほど「男だから、女だから」にこだわりが強いように感じる。みんなで協力し合う時代と伝えても伝わらない。子育てもそう。町内会もそう。もう少しこういった活動が広まっていくといいと思う。（40代 女性）
- ◆男女問わず「人としての尊厳」を大切にする事の重要性。細かい事に特化しすぎると「人としての尊厳」を見失う事になる。思いやりの心を育てる教育が大切だと思う。同性愛など昔から日本人は寛容であったはず。（40代 男性）
- ◆女性自身がきちんと男女平等を知る。DVとはどんなことかを知る。自分の人格を大切にする。（60代 女性）
- ◆価値観を決めるのは、幼稚園から中学生ぐらいに、家庭と地域でどのような経験をしたかによると思う。今は「男女平等での人とのつながり」が地域、家庭で弱いので、とにかくここに力を入れて土台を築いて欲しい。（40代 女性）

(3) 広報・啓発活動・意見交換・意見収集について

- ◆岐阜県でこういった取り組みがある事を知らなかった。市町村からの情報はLINE などあるが、県として県民に情報を提供する手段を多くした方が良いと思う。(40代 男性)
- ◆性特有の身体的特徴や機能、脳の仕組等もあり、ただ単に共同参画をすすめれば良いというわけではなく、どのような分野でどうすすめるのが社会のためかという調査・研究と、県の明確なビジョン、イニシアティブが必須。(50代 女性)
- ◆女性相談窓口での相談によって、精神面の苦痛の緩和ができ、ありがたいと思っている。離婚を考えているが、具体的にどういう方法をとったらスムーズに離婚ができるかを、資料や情報を今よりももっと濃いものにしてもらえるといいと思う。(40代 女性)
- ◆防災・災害時における、性犯罪対策ミーティングの開催を継続的に実施する仕組みを構築していただきたい。(40代 男性)
- ◆県がこのような取り組みをしていることを、この調査で初めて知った。相談できる場所も含め、認知度は低いと思う。大々的に分かりやすく困った時に頼れるようにしていただけるようPRするとよい。(50代 女性)
- ◆岐阜県が率先して女性登用をすすめて、全国の中でこの分野のリーダーになってほしい。男性は今の地位を守るために抵抗したくなるでしょうが、女性は優秀な人が多い。思いきってやるのが大事。岐阜県に期待している。(50代 男性)

(4) 男女共同参画に対する疑問・懸念など

- ◆日本の社会の世代交代が良くも悪くも「カギ」になるのでは?と思う。(50代 女性)
- ◆自治会、地域社会活動への意識は極めて薄らぎ、家庭と職場中心の社会になっていることを踏まえた上で進めないと、実際に機能しなくなると思われる。今の若い方の仕事内容(多様で広範囲)をみるに、自治会活動などに力を注ぐ余力は残っていないのではないかと。各職場における高齢者の採用も環境づくりに大事ではないかと思う。(60代 男性)
- ◆社会的にもまだまだ男性の仕事や、男性を立てる考え方(女性自身もどこか頼っている部分がある)があり、それぞれが置かれている環境や仕事(立場)によって考え方に大きな差があると思う。自分はどう生きるか、自分に自信をもてるのが大切だと思う。(50代 女性)
- ◆ニュース等で放送されている通り、世界の中でも男女不平等で最低の日本。「女は黙って家事をし、仕事に口出すな」といった頭の固い古い風潮が残っている。男性が政治や企業を支配している。そんな環境に立ち向かう女性には、かなり勇気やリスクがある。そんな女性を応援する制度も必要だが、年配男性を変える良い方法、手段はないでしょうか。何十年も男女平等という言葉は聞くけれど、給与も立場も男女の差が埋まっているとは思えない。(60代 女性)
- ◆まだまだ男性優位の社会。実現させるには、行政だけでは無理。もっと官民が協力しなければならないと思う。(60代 男性)
- ◆基本的には男女平等の考え方には賛成だが、男女で肉体的な差はどうしてもあり、男性、女性で向き、不向きは少なからずあると思う。その違いを互いに理解し、尊重し合えるような社会になっていたら良いと個人的には思っている。(30代 男性)
- ◆女性を積極的に役職に就ける事により、参画社会が実現すると思う。(60代 男性)
- ◆私達50代の親世代は、女は家庭で子育てと家事、男は仕事と考えている人が多く、自分の自由な意志で社会参画などできなかった。この年齢になって、男女共同参画社会の実現などと言われても、どうしていいのかわからない。(50代 女性)

- ◆おおむね男女は平等になっていると思う。とはいえ、男女の「性差」はあるわけで、それぞれの社会に対して果たすべき役割も考えるべきであると思う。男女でどちらが上下という考えは、今はほとんどないのではと思う。(50代 男性)
- ◆岐阜県の男女共同参画社会をつくるには、岐阜県民の収入の増加、安定が必要。東京と比べて安い。(60代 男性)
- ◆まだまだ社会の中で偏見など、平等とはいえない考えの人もいるので、地道にコツコツ進めていくべき。意見を言うのも釘が出るようにしては聞いてもらえないので、発言しやすい社会に変わればと思う。(60代 男性)
- ◆私が若い頃を思えばずいぶん女性の地位が上がったと思うが、まだまだ平等には遠いのが現実。(50代 女性)
- ◆女性が仕事・育児・介護を両立する事がまだまだ多い。男性は残業で家庭を顧みない。仕事の軽減化(テレワーク、ペーパーレス等)、男性の意識改革、会社の意識改革、施設・サービスの充実。女性が進出したくてもできない、考えられないのでは。(40代 女性)
- ◆災害の避難場所などでプライバシーを守る施設が増えるといいと思う。だれでも携帯電話を持っている時代。カメラがありとあらゆるところにあり、プライバシーの侵害が避けられるとよいと思う。(30代 女性)
- ◆男女共同参画社会は理想だが、世代によって捉え方が大分違うと思う。特に年齢の高い世代は、男性が優遇される事が当たり前の所があると思う。しかし、世代を言い訳にせず、これから男女が対等に寄り添う事ができるといい。(50代 女性)
- ◆男性と女性の間には持って生まれた絶対的な違いがある。その違いを互いに理解し、認め合うことが重要であると考え。女性が少ない分野や役職に対して、女性枠のようなものを設けることは、男女平等に反することなのですべきではない。男女という概念を持ち込むべきではない。(20代 男性)
- ◆ただ組織に女性を加えればよいというものではないと思う。役割を均等に分担すればうまくいくというものでもない。若い世帯、夫婦のみの世帯、転入者などは自治会に入らない場合が多く、話し合いに参加する機会もない。消防団も身内の活動になっており、常に人数は足りていないと聞けるが、転入者や女性には声もかからない。また、入ろうにも普段何をしているのか分からない。月1回の飲み会の話しかされず、しかも夜だと女性は出にくい。もっとあり方そのものを考えるべき。自由度が低すぎるのも、多くの組織の課題だと思う。とにかく田舎は酷く、性別の配慮など考えたこともない方たちばかりだと思う。男女、その他様々な性の人が平等になる社会はまだ先だろう。(30代 女性)
- ◆男女が平等であることは当然の形ではあるが、数を増やせば良いわけでもなく、適した場所、適した仕事があると思う。働くことを優先して、子供の心が栄養不足だと心配だ。やはり、母親の愛情いっぱい、子供は育てて欲しいと思う。(60代 女性)
- ◆私の生活から感じる事だが、岐阜県は全国的に見て有効求人倍率が高い。少子高齢化と社会の状況を考え、もっと子育て支援をして女性にもどんどん仕事をしてもらい、人手不足の解消や、男女共に社会的責任を感じられるようにした方が良くと思う。(30代 男性)
- ◆知識や能力に男女差はないと思う。女性も志のある方はどんどん進出されると良いと思う。体力的なもの、持久力等、女性より男性が優れている所もあり、優しさや気をつく所、母性など女性の方が優れている所もある。「長」とつく役割に単に女性の人数を増やす事に先走らず、女性の意見が平等に反映される社会になれば良いと思う。(60代 女性)

- ◆家庭を持つと、やはり子ども中心となり、母親としての立場の女性が、社会的地位のある立場の仕事が出来にくいことは事実。子どもにとっても、ほったらかしにされて、家で独りぼっちでいることが増えるのは良くないと思う。やはり男女平等に…というのは限界がある気がする。(40代 女性)
- ◆男性に比べて、社会に出たくない、役員や仕事で上を目指したくない女性の数も相当数いることがうかがえる。だから、女性の参画が少なく見えてしまうだけ。単純に女性の登用を増やすだけでは意味がなく、能力ややる気を上げる必要がある。(40代 男性)
- ◆男女共同参画は賛成だが、現在、女性の地位は向上しつつあり、何もかもこれにかこつけて女性が向上しすぎていかなるものか。(60代 女性)
- ◆昔の考えが今でも無くならないので、男女共同参画社会はこれからも沢山の意見を耳にしたりしていかないと何も解決しない気がする。(30代 女性)
- ◆私の子育て時代は夫は育児に協力的ではなく、仕事のみ。現在、娘夫婦と同居しているが、男性でも育児に積極的に参加、ミルクをやったり、オシメを替えたり、食事を作ったりと、どんどん育児、家事に参加している。性に特化しない「心」をはぐくんでいけたらと思う。(60代 女性)
- ◆男女平等、LGBTQどちらも人として尊重するのは当然と考える。ただ、女性だからLGBTQだからとその権利だけを主張されると男性が悪人の様な気がする。すべてに平等で考えていければと思う。(60代 男性)
- ◆結婚していないので、そこまで深く考えた事がなかったが、このアンケートで男女平等について考えさせられた。(30代 男性)

(5) その他

- ◆「男性への配慮」、「女性への配慮」という見方でなく、「多様な個人への配慮」という見方をしてほしい。(20代 女性)
- ◆男女が平等になるとは思わない。(60代 女性)
- ◆男女共同参画へ向けての施策であれば、どんなことでも良いので、少々強引にでも押し進めて行くことが重要かと思う。反発を怖がらず、思い切った舵取りをしてほしい。それがいつか必ず当たり前になる時が来る。(50代 女性)
- ◆男性専用車両も作って欲しい。(20代 男性)
- ◆まずは公務員がお手本となるような制度等を導入し、民間企業へ広げていくことが必要と感じる。また、メディア等で、上記内容を広く認知させる。(20代 男性)
- ◆保育士の月給を上げてほしい。(無回答)
- ◆まずは岐阜県自体が近隣の県(愛知県、長野県)と比較して、行政面での遅れが大変目立つ。どこが悪いのかをしっかりと自覚し、すばやく改善して行ってほしいと思う。そうする事で、男女というより性別関係なく平等に生活できる社会へとつながると思う。(50代 女性)
- ◆古い慣習を捨てるのが一番。(30代 男性)
- ◆男女平等にしようとするからどこかに無理が生まれてくる。女性が子どもを生むことが出来る以上、他の性と平等ではない。それぞれの性を1個性の人間として利益や特権を得られることが出来ればいいのではないか。(50代 女性)
- ◆企業などでは進み始めているが、国・地方自治体では迅速に変わっていったるよう思う。現状の変化と共に古い考えを持っている人たちから、どんどん新しい考えを持っている人たちへ、年齢関係なく男女性別関係なく、様々な場面で尊重しあえるような社会に早くなって行ってほしい。教育からも変えて行ってほしい。問題点は、何をしなくてはいけないのか分かっているのに変えられない日本の文化ではないか。(40代 女性)

- ◆人それぞれ考え方が異なるのは当然なので、その認識や思想を押しつけたり押しつけられたりしない社会になれば良いと思う。結婚したい人が同じく結婚したい人と出会う機会を増やしたり、逆に結婚したくないと思っている人に対して己の価値観を押しつけたりせず、個人の意志を尊重し合えるようになると有難い。(30代 女性)
- ◆どうしても男はこうする、女はこうするものと決めつけているところがあり、なかなか難しい。小さいころからの教え方だと思う。(50代 女性)
- ◆今のままで個人の自由にすればよい。何でもかんでも行政が介入しないと国民は何も出来ないと思うのは大間違い。唯一出来るとしたら教育だけ。(60代 男性)
- ◆活動が表に出る様にみんなが活躍できるような進め方が必要。知っている人だけが活動しているのではなく、心に余裕のある生活ができるような助け合いの活動にしていく。(60代 女性)
- ◆職場が女性に対して甘くなっている。評価しすぎである。(50代 男性)
- ◆そこまで意識してやらなくていいと思う。決めればどこかにひずみ生まれる。自然に普通にできないのであれば、その程度という事だと思う。(50代 男性)
- ◆年齢が上の人ほど「女は」、「ご婦人は」と言って役割を分ける意識が強いように思う。その上の年齢の人口が多く、男性が仕切る組織なので(会社も地域の自治会も)なかなか変わっていかない現状があると感じる。(40代 女性)
- ◆自分の子供達を虐待するなど、とても考えられない。泣けてくる。親の教育が大切だと思う。そのような環境で育った子どもが大きくなって同じようになってしまうケースが多いと感じる。保育所や子供をかばってくれる施設、なんとかしてほしい。子供がかわいそう。(60代 女性)
- ◆性にかかわらず、男性同士、女性同士も結婚を認めるべき。結婚しないといけない、子供を産まないといけないなど、個人の自由に干渉するのは必要ない。どんな人も自由に安全に生きていけるようにしてほしい。(30代 男性)
- ◆岐阜県での取り組みとするなら、全国に先駆けたモデルとなるような取り組みをすべきである。(50代 男性)
- ◆そもそも、これらの政策は小手先の域を脱しない。国を挙げて、根本的な教育を見直さないと、全ての事象に影響が出る。(50代 男性)
- ◆今、コロナで子供達の環境が大きく変わり、人と人とのつながりが上手にできていないのではないかと。夏休みが終わり学校が始まったが、クラスからコロナが出てオンライン。孫も泣いており、心が折れてしまいそう。なんとかしてあげたいが、どうしたらいいのか。子供たちの成長が不安だ。(60代 女性)
- ◆損得勘定でしか現代は行動する事が難しくなってしまった。PTAや自治会などは、やった事のない人ほどボランティアだと思っている。下手すると家事も給料がもらえないと思っている人がいると思う。まずは家庭からこの考えを変えていかないと、社会までは変わっていかない。(50代 女性)
- ◆議員や会社など女性がいなく思う。(60代 女性)
- ◆女性のホームヘルパーが男性の一人暮らしに行く不安を考えて欲しい。(60代 女性)
- ◆制度は整っていたとしても、女性が参画したいと思えなければいけないと思う。(40代 男性)
- ◆実現の為に無理に女性を雇用しないように。女性の意欲は必要だが能力が足りない者を入れると当人及び周囲の負担になる。(20代 男性)
- ◆女性はとても忙しい。それを夫は気付きにくい。そこに気付けば、いろいろ大丈夫。仕事してる“だけ”ならどんなに楽だろうか。(30代 女性)
- ◆男女と言うよりも、その能力に長けた人物がうまく実力を発揮できる社会が良いと思う。結果、例えば男性ばかりになったとしても、それは仕方のない事。(40代 女性)

- ◆差別と区別を同じにしない。(50代 男性)
- ◆女性が社会の対等な構成員になることと、男女の管理職の割合を同じに近づけることが同時に起われていることに疑問を感じる。私の職場でも女性の管理職の割合を上げるべく、次々と女性が採用(登用)されている。しかし、部下である女性に対し、親切、理解のある上司は必ずしも女性ではなかった。平等をめざすのは良いが、管理職に就く人は、男女問わず包容力のある人、本当にその仕事(管理職)がやりたい人であるべき。「管理職の割合を増やす」ではなく、社会全体として活躍(平社員でも)できる女性の総数が増えることが理想。(40代 女性)
- ◆個人を尊重し、自由に生きられる社会を作っていけたらと思う。(60代 女性)
- ◆そもそも日本が「男だから」、「女だから」という点を気にしすぎではないか。アメリカは黒人や白人の区別をなくそうという取り組みをしているのに、日本だけはまだそんなことを言っていて遅すぎると思う。見た目で判断しないように、履歴書の写真とかも無くすべきだと思われる。また、回りくどい書き方(特に法律や憲法)はやめてほしい。育児は女がやるという考え方をする人もいるので、考え方を改めてほしい。(20代 女性)
- ◆女性みなが働きたいと思っているわけではない。男性の収入が低いから仕方なく働いている人も多い。男女の給料を同じにするようにしたのは良い事だが、結果は男の給料を下げた帳尻を合わせている。(50代 男性)
- ◆レディースデー、女性優先という言葉がなくなるよう、男女平等になるといいと思う。(40代 男性)
- ◆男女平等は、性差による特性もあるので、それぞれ生かしていけたらいいと思う。(50代 女性)
- ◆他県から結婚のため移住したが、男尊女卑が顕著にあると感じている。早く改善してほしいと願う。「先生」と呼ばなくてもいい職業にまで「先生」と呼ぶ。職場に妊婦さんが数人重なった時、上司にもうこれ以上妊娠しないでくれと言われた。年齢的にも産める限度があるはずだが、空気を読めと圧力をかけられた。(40代 女性)
- ◆男性版くろみんがあつたら、良いかもと思う。家庭の中ではかなり平等になっていると思うが、私が就職氷河期世代だからか、半端な学歴の女性では就職が何かあるとすぐにパート、契約社員になってしまう。自立できない給料しか得られないので、結局子供のことは女性にすべて乗ってくる。どうせ不景気で給料も下がるのなら、夫を家に帰してほしい。女性だけが時間に追われ、このままでは娘の子供も育てることになってしまう。(40代 女性)
- ◆結婚すること、子供が産まれることの重要さは大切にしていいたいと感じる。これらの価値を正しく子供のころから伝えることが、今のこの少子化の時代には必要だと感じる。(20代 男性)
- ◆外国人の方の就職を増やすより、65才以上の人の仕事を増やしてほしい。子供達が独立してお金がいらなくなったと思っていたが、自分達の給料がなくなり、医療費が増えて年金だけでは生活出来ない。少しでも働きたいと思っている人が大勢いる。(40代 男性)
- ◆世の中は段々変わっていくが、良い部分は残してほしい。(60代 女性)
- ◆私たちの子育ての頃を思うと、今は男の人がよく家庭の事をやる事が多くなってきたと感じる。娘の夫は、食事の洗い物をしたり、ゴミを出したり、掃除したりとよくやってくれる。また、街を歩いても、男性が赤ちゃんを抱っこしている姿を見かける。社会の変化を感じる。(50代 女性)
- ◆これからの女性達が子どもを育てながら、余裕のある仕事のもち方ができる社会となることを望む。専業主婦に育ててもらった子どもと、仕事を持つお母さんに育ててもらった子どもが、同じように育つような社会になるよう願っている。(50代 女性)

- ◆頑張っても世帯年収が1000万円を超えると、税が重くなり補助もなくなる。せめて、介護・育児（大学生含む）を両立している人間には、扶養は関係なく妻側にも支援金・税負担軽減をして欲しい。介護用オムツの支援もして欲しい。仕事・育児・家事・介護は辛い。（40代 女性）
- ◆家事・育児を経験している女性なら、子供から高齢者まで対応する事が出来るため、地域の民生委員・福祉委員を増員し、見守り、声かけに繋げるきっかけになるのではないか。（50代 女性）
- ◆岐阜県は、悪いが最低の方だと思う。若い人達が定着すると、もう少し良くなると思う。（60代 女性）
- ◆自治会は老人主体なので、若い人、女性は入りづらい。昔のしがらみのある老人がいると、新しい人ははじめない。そうすると自治会の活動も新しい人が入らず、仕方なく町内の班長をやり、その場（1年間）だけになる。（30代 男性）
- ◆どのような生き方、働き方をしたとしても、経済面や子育ての面で不利にならないような世の中がいいと思う。その他には、長時間労働をしなくても、生活や子どもの進学に困らないようにしてほしい。（20代 女性）
- ◆高齢者が多くなる現状で、地域での介護サービスを充実させ、男女参画で「見守り隊」等ができると思う。（60代 女性）
- ◆パートに出て、家事などをしていたら男の人より労働時間が長いと、内心不公平感を覚えていた。これが当たり前と思っていたが、平等になることも可能なのだと気づいた。（40代 女性）
- ◆子は国の宝。幸せな家庭があってこそ未来ある社会が作られる。子どもが親の手によって育てられる働き方ができれば理想的だと思う。家族を他人の手に任せるのは最小限に。特に幼子は。（60代 女性）
- ◆女性の結婚から育児。この間に女性が社会参加できないのは保育が充実していないからと考える。（60代 女性）
- ◆現場を知る、実態を知ることが重要であると思う。（決定権のあるもの、法や行政を動かすことのできる人物がもっと）どこも同じではないからだ。不満は沢山ある。しかし言っても変わらないのが現状だ。だから何もしない。変わらない。不満。（50代 女性）
- ◆景気を良くする。お金で幸せにはなれないが、無いと不幸になる。経済的に、先行きが明るくないので、利己的になり、他者を思いやれず、社会を良くしようとする余裕もない。（40代 女性）
- ◆女性が働きやすい社会をつくり、待機児童問題など積極的に取り組んでいることは、とても良いことだと思う。反面、女性が子どもを産み、その子どもが未熟な年齢で預けられ、母子の関係がしっかり築かれないまま、子どもが家庭から離れなければいけないことに悪循環を感じる。親も子を育て、親として成長させられる。また、子も親という安全基地となる土台をしっかりと築いた上で、（築きながら）親以外の社会、人間関係を築いていくと思う。女性（男性）が家庭で安心して、我が子を育てられる社会になっていけば、人間性豊かな社会、未来が待っているのではないか。（40代 女性）
- ◆働きたくても働けない人がいる。仕事を選んでいる訳でもなく、家事や介護（特に障がい者（子ども）の親）があるためだ。父親は家族のために仕事を頑張るが、母親である女性は、普通の家庭のようにパートに出ることも難しい。この家庭のように働きたくても働けない原因があることが分かれば、行政のサービスのポイント、もう少し考える所があると思う。（40代 女性）
- ◆ゆっくりだが、男女共同参画社会は確実に進展していると思う。（60代 男性）
- ◆認知度が低いと思う。（60代 男性）
- ◆現在、心もお金も余裕がない人が多いように感じる。遊ぶよりも、手堅くこなしていると感じる。まずは社会が安定していくことが大事。（30代 男性）